

CONTENTS

- P1 第30回 千葉支部総会 開催！
 P2 Member's Lounge
 「2011年の内外経済展望」 伊藤 薫氏
 P4 平成22年度 全国優秀機動隊員表彰式及び目録贈呈式
 平成23年 警視庁警備部 武道始式

発行所
 社団法人 機動隊員等を励ます会
 〒144-0055 東京都大田区仲六郎4-32-5
 発行人 羽矢 惇
 TEL 03(3739)0590
 購読料 年間1,200円
 (但し会費の中には購読料を含む)

第30回 千葉支部総会 開催！ 活みなぎる総会で信頼の絆を結ぶ



会場がひとつになった「この世を花にするために」の大合唱



歓迎の挨拶を行う菅千葉支部長

機動隊員や励ます会への感謝を述べる石渡千葉県副知事

会場がひとつになった「この世を花にするために」の大合唱。空港のテロ事件に触れ「千葉県は通常の警備のほか、成田空港という日本にとって非常に重要な施設を守っている。これから立派に任務を果たしていただきたい」と述べた。続いて石渡副知事は昭和55年から続く



懇親会で披露された空港警備隊音楽隊スカイウィングの演奏



感動的な中締めを行った田村世話人。挨拶の後、五十嵐本部長と固い握手を交わした

千葉支部長が機動隊員への感謝とともに「隊員の顔には日本人が昔から持っている志を感じる。皆さんの心の支えとなるよう活動するので、任務に励んでいただきたい」と激励した。また、羽矢惇理事長は総会当日の朝に起こったモスクワ空港のテロ事件に

去る1月25日、当会千葉支部は千葉市「ヴェルシオーネ岩瀬」にて第30回総会を開催した。当日は石渡哲彦千葉県副知事、五十嵐邦雄千葉県警察本部長を来賓に迎え、警察幹部及び機動隊員や励ます会会員の方々、総勢238名にご列席いただいた。

千葉支部の支援と、昨年のAPECや国体警備への感謝を述べ「日夜、命をかけて県民の生命財産を守っていただき県としても非常に力強く思っている。特に森田健作知事は皆様方に対する信頼が非常に厚く、これからのよりよくお願いしたい」と述べていた。知事の言葉を紹介した。五十嵐本部長は昨年の活動を振り返るとともに「モスクワの事件はいづつ成田で起こってもおかしくない。その気概を持って警備を行う」と決意を述べた。

続いて曾根好貞副支部長の乾杯の音頭で懇親会が始まり、舞台上では隊員有志が趣向を凝らしたパフォーマンスを行い、会場を沸かせた。会員と隊員はビール等を酌み交わし交流を深め、初めて支部総会に参加した隊員は「皆様に支援していただいていることを実感し、非常に励みになった。参加できて良かった」と述べた。さらに会の終盤は全員が輪になり「この世を花にするために」の合唱やエールの交換、志田博之世話人による万歳三唱が行われ、総会は大いに盛り上がった。最後に田村哲子世話人が中締めとして「機動隊のファンである私の血を受け継ぎ、孫も『この道』を歌いながら登校している。これからは命ある限り機動隊を応援していきたい」と話すと会場は割れんばかりの拍手と声援に包まれた。一年の始まりにふさわしく、機動隊員と会の絆を深める大盛況の総会となった。

For the Riot Policemen
 & Members

— No.431 —

布施世話人(写真左)と第二機動隊員(右)によるエール交換



誇りと伝統
 栄光の機動隊

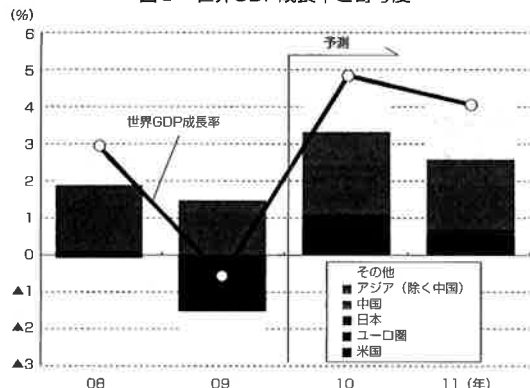
新日本製鐵(株)
 新日鉄エンジニアリング(株)
 日鐵住金建材(株)
 合同製鐵(株)
 五十鈴(株)
 岡田運輸(株)
 (株)エース電研
 岡部(株)
 草野産業(株)
 (株)エイベイ
 大東運(株)
 山陽鋼業(株)
 堀口海運(株)
 藤田金屬(株)
 北越メタル(株)
 豊鋼材工業(株)
 新関西製鐵(株)
 富士興業(株)
 岡谷銅機(株)
 東海レベラー鋼業(株)
 (株)機動隊員等を励ます会
 北海道支部

図1 主要国の成長率

	2008年			2009年			2010年		
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月
米国	▲4.0	▲6.8	▲4.9	▲0.7	1.6	5.0	3.7	1.7	2.5
英国	▲3.5	▲8.1	▲9.0	▲3.1	▲1.2	1.4	1.8	4.7	3.1
ユーロ圏	▲2.2	▲7.0	▲9.6	▲0.6	1.6	0.8	1.5	4.0	1.5
ドイツ	▲1.8	▲8.4	▲13.1	1.9	2.8	1.3	2.3	9.5	2.8
フランス	▲1.1	▲6.0	▲5.7	0.6	0.6	2.5	0.8	2.7	1.4
イタリア	▲4.4	▲7.9	▲11.0	▲1.1	1.7	▲0.2	1.7	1.9	0.7
日本	▲4.6	▲11.9	▲19.9	11.3	▲1.2	5.7	6.8	3.0	4.5
韓国	▲0.4	▲16.8	1.0	9.8	13.4	0.7	8.8	5.8	3.0
台湾	▲13.6	▲18.8	▲4.1	13.5	11.8	18.4	17.3	1.9	0.1
香港	▲4.5	▲8.9	▲12.2	12.8	1.4	9.8	8.9	5.7	2.9
シンガポール	▲3.0	▲9.0	▲11.0	18.5	11.1	▲1.0	45.9	27.3	▲19.8
タイ	▲1.6	▲18.5	▲7.3	8.7	8.5	15.9	15.1	▲2.3	▲0.9
フィリピン	4.9	▲0.9	▲6.1	5.3	3.6	6.6	15.6	5.6	▲1.9
(前期比年率、%)									
中国	9.0	6.8	6.5	8.1	9.6	11.3	11.9	10.3	9.6
マレーシア	4.9	0.1	▲6.2	▲3.9	▲1.2	4.4	10.1	8.9	5.3
インドネシア	6.2	5.3	4.5	4.1	4.2	5.4	5.7	6.2	5.8
ベトナム	6.0	5.9	3.1	4.5	6.0	6.9	5.8	6.4	7.2
インド	7.2	6.1	5.8	6.3	8.7	6.5	8.6	8.9	8.9
(前年比、%)									

(資料) Datamstream, CEIC, 各国統計

図2 世界GDP成長率と寄与度



(注) みずほ総合研究所が予測対象としている地域(米国・ユーロ圏・日本・アジア)以外は、IMF予測。
 ※ 各国・地域の成長率は2009年PPPベースのGDPウェイトで加重平均。棒グラフは各国・地域の寄与度
 (資料) IMF資料などより、みずほ総合研究所作成

1. 2010年度の世界経済
 昨年1月初旬にこちらでお話を
 させていただいた時に、2010
 年は「グローバル・ヒーリング(傷
 を癒す)」の年になると予測しまし
 た。2008年のリーマンショック
 の影響で一斉に世界経済が暴落し

た後、2009年1月からV字回
 復を見せ2010年の初旬にはあ
 と半年くらいで元の状態に復帰で
 きるかと大方で言われていまし
 た。しかし私どもは、傷は相当深い
 ため「癒し」の期間はかなり必要
 で、回復は横ばいに入ると見たの

です。実際に、昨年の
 4~5月までは世界
 経済が全体的に順調
 な回復傾向を示して
 いましたが、夏場に
 入ると世界中で行っ
 た大規模な財政出動が
 終了し、回復傾向は
 失速気味となり、景
 気の「二番底」のリス
 クが懸念されまし
 た。そこで再度、金融
 政策その他の対策が
 講じられ、年末には
 また少し回復してい
 きました。一方で新
 興国は先進国の問題
 とは関係なく、相対
 的に高成長に入っ

ています。世界金融危機で新興国も
 かなりの痛手を被りマイナス成長
 となりましたが、およそ半年後、特
 に中国は巨大な財政出動をテコに
 一気に回復しました。現在、中国が
 世界GDP成長率を牽引している
 ことは明白です【図1・図2】。

2. アメリカは積極的に財政出動
 今アメリカで一番大きな問題
 は、失業率です。依然、失業率は
 9%台と非常に高く、1,400万
 人以上の失業者がいます。世界金
 融危機前の失業率は約5%でした
 ので、わずか1年半で500~600
 0万人も失業者が増えたのです。
 2010年のアメリカの実質成
 長率は2.2%で、失業率は0.
 4~0.5%しか改善していません
 でした。失業率はほとんど改善しな
 いでしょう。アメリカは個人消費
 がGDPの73%を占めています
 が、家計部門において債務調整が
 続く間は貯蓄率が高止まりしま
 す。アメリカの不良債権や過剰債
 務が解消されるには約7年がかか
 ると見ており、今はその途中段階
 であると考えています。

昨年11月、アメリカでは夏から
 の景気減速を受け「QE2」と呼ば
 れる追加の大幅金融緩和が行われ
 ました。国内を覆うデフレの雰囲気
 を払拭し、「期待インフレ率」を
 高めて株価や住宅等の資産価格を
 上げたいというのが第一目的で
 あったと推定されますが、結果はお
 おむね成功しています。株価は大
 幅に上昇基調に入り、その影響で
 個人消費も好調に動いています。

3. 欧州経済の回復ペースは「二極化」
 ユーロ圏の景気は昨年前半、減
 速しつつも全体として「底堅さ」を
 維持してきましたが、域内の回復
 ペースは二極化を起しました。
 ドイツが絶対好調、フランスがまず
 まずであるのに対し南欧諸国は財
 政危機で失速しています。特にギ
 リシャ、ポルトガル、スペイン、イ
 タリア、これにアイルランドが加
 わった「南欧+アイルランド」が
 ユーロの大問題セクターです。そ
 こでこれらの国では、財政支出を

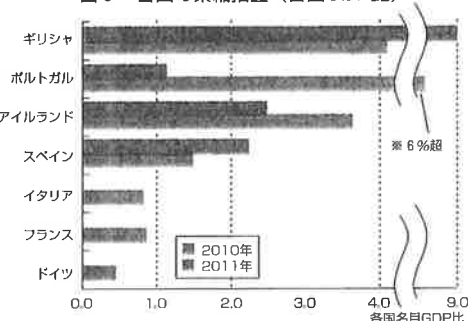
抑える緊縮措置を上積みする方向
 が打出されています。例えば20
 10年のポルトガルの緊縮措置は
 GDP比1.2%程度でしたが、
 今年は6%を超えています【図3】。
 ユーロ全体ではGDP総額が約
 1,400兆円ですが、これに対し
 て0.9%相当額が財政緊縮によ
 って下押しされます。この動き
 はなかなか止まらず、スペイン、イ
 タリア、ベルギー等へ波及するリ
 スクがあります。

4. 好調を維持する中国
 年度始めのアジア諸国の需給バ
 ランスを見ると、現時点で台湾、シ
 ンガポール、インド、韓国、タイ、
 フィリピンは完全に需給ギャップ
 を解消し、輸出に頼らなくても内
 需主導で経済を動かせる体制がで

ます。現在新興国では、や
 むなく利上げや金融の
 引き締め、資金流入を
 防ぐために取引税の強
 化を行う動きが出てい
 ます。昨年11月以降ド
 ル安は一服しました
 が、今後アメリカで再
 び第三次追加緩和の動
 きが出てくると通貨安
 競争(カレンシー・
 ウォー)の再熱が懸念
 されます。

オバマ政権はQE2
 に続いて公共事業を積
 極的に行う財政出動に
 も乗り出す構えを見せています。
 まずブッシュ政権時からの大型減
 税を2年間延長させることが決ま
 り、加えて個人向けの減税・控
 除が2011年だけで1,400
 億ドル、日本円にすると約1兆円
 追加になります。これはGDP比
 で約1%の規模の減税で、事実上
 の追加景気対策です。これだけの
 減税対策をプラスさせているあた
 り、アメリカの政策当局者は米国
 経済の置かれた状況を厳しく認識
 していると解釈しています。

図3 各国の緊縮措置(各国GDP比)



(注) 2009年1月以降に発表された緊縮措置の規模
 (資料) 各国政府発表資料、各種報道より、みずほ総合研究所作成

2011年の内外経済展望

Member's Lounge

機動隊員等を励ます会 1月の朝食講演会録

2008年の世界金融危機以降、経済の回復状況は各国間で
 差が生じ始めています。今、経済はどこまで回復している
 のか、また2011年はどのような見通しとなるのか、3回
 目のご登壇となるみずほ総合研究所の伊藤薫氏をお迎え
 し、お話を伺いました。



<1月13日のゲスト>

いとう かおる
伊藤 薫氏

みずほ総合研究所株式会社
 代表取締役社長

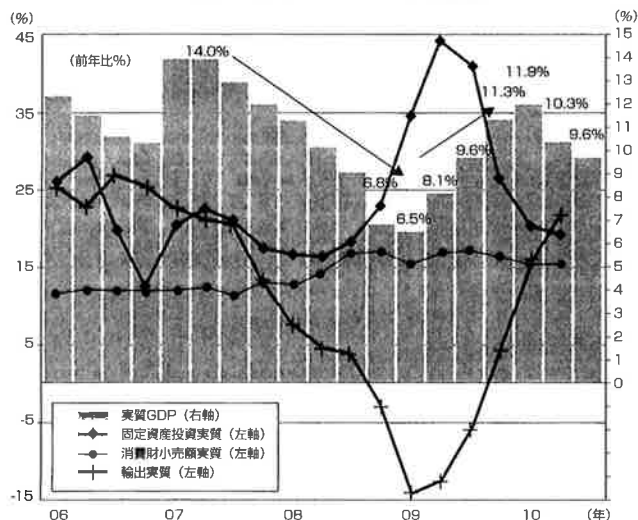
プロフィール

昭和28年4月9日生まれ

略歴

昭和51年3月 慶應義塾大学経済学部 卒業
 4月 株式会社日本興業銀行 入行
 平成 3年3月 同 ロンドン支店副事務役
 平成11年2月 同 業務部副部長
 平成12年4月 同 産業調査部長
 平成14年4月 株式会社みずほコーポレート銀行 産業調査部長
 平成16年4月 同 執行役員名古屋営業部長
 平成17年4月 株式会社みずほ銀行 常務執行役員
 平成20年3月 みずほ総合研究所株式会社 代表取締役社長(現職)
 5月 産業能率大学大学院 客員教授 兼務

図4 中国のGDPと主要経済指標



(注) 輸出は人民元建て価格をPPI(生産者物価)、固定資産投資はGPI(企業物価)、消費財小売RPI(小売物価)で実質化。
(資料) 中国国統計局、CEIC

きています。この成長率は今年も大幅に鈍化することはないと見ています。その中でも特に中国が好調で、昨年7～9月期の実質GDP前年比は9・6％と依然、高成長率を保っています。リーマンショック後に行った「4兆元大財政刺激策」による財政出動と設備投資により、まず内需で成長を維持しその後輸出が回復したので、中国は輸出・個人消費・設備投資の三本柱でバランス良くGDPをのばしています【図4】。

弱点はCPI(消費者物価指数)が11月に前年比のプラス5・1％となり、政府目標の3％を超え5か月連続で上がってきていることです。工業製品は全体的に供給過剰でテレビ等は値下がりしているのに対し、一部の農産物には投機が発生し、インフレ率が加速しています。生活必需品が値上がりすると民衆の人氣が落ち暴動も起こりやすくなるため、中国政府はそれを非常に怖がります。そこでインフレ抑制のため中国政府は従来の「適度な緩和」を「健全な金融政策」へと転換しました。三度にわたる預金準備率の引上げ、金利の引上げなどが次々と実施されています。また、新築住宅販売価格も、北京や上海等の一部の都市部では完全にバブルの状態となっており、抑え込みが必要となってきました。

先頃2015年までの「新五年計画(十二五)」が発表され、これまでの「量的な緩和」から「質的充実」を目指す景気過熱を煽らない方針が打出されています。しかし実際には西部開発等の財政支出が予定されており、内需も緩やかに加速すると考えられるので、今年も経済成長が失速することはないと予測しています。

5. 日本経済は緩やかな回復軌道
日本では、猛暑により一般的に消費が好調であったことも関係し、昨年7～9月のGDPは前年比プラス4・5％と非常に高い数値が出ました。ただ日銀短観の12月調査を見る限り景況感は7期ぶりに小幅ですが悪化し、先行き不透明感が強まっている模様です。数字からは実感がつかみにくいのですが、その要因には夏場から年末にかけての政策的な攪乱があります。まず9月初めにエコカー減税が終了し、駆け込み購入が起きました。自動車販売数は8月に580万台であったのに対し、9月は400万台、10月は327万台と急落し全体の個人消費を押し下げました。一方、薄型テレビのエコポイント段階的縮小を前に11月は前年比で505％という爆発的な販売増となりました。これが10～12月期の個人消費の落ち込みを緩和したのです。

その後の経済の動きは今年1～3月が低成長で「踊り場」に入っただけ、4月以降はゆるやかな回復軌道に復帰すると見えています。欧米向けの輸出は相手国の経済も減速しているため低調が続きますが、中国を含むアジアはいずれも悪くない環境が整っており、アジアへの輸出が唯一の牽引役になります。内需については自動車やIT部門の在庫調整、生産調整が短期間で終了し、さらなる景気後退は回避できると予測しています。全体的な企業収益の回復については、リーマンショック前に比べると製造業は七掛け、非製造業は九掛けまで戻っています。未だに低水準ではあるもののコスト削減を進め、利益も出るようになりました。ただ設備投資の水準は低く、未だ

リーマンショック後の極端な投資抑制から正常化していく途中の過程にあります。今年には設備投資の穏やかな拡大が予想されます。当初、財政赤字の影響により予算ベースでの公共事業のマイナス幅は相当拡大すると見られていたが、想定よりも緩和される見通しです。これは、意外にも財源が出てきたためで、昨年9月にはゲリラ豪雨への対策で約1,600億円の公共事業が追加となり、10月8日に閣議決定した補正予算編成により国費9,200億円の計上と地方債の発行が行われ、これらを合計して公共事業費は約1,8兆円の追加となりました。このように2011年は経済対策のための公共投資が追加され、設備投資や個人消費も低水準ながら緩慢に回復すると予測しています。

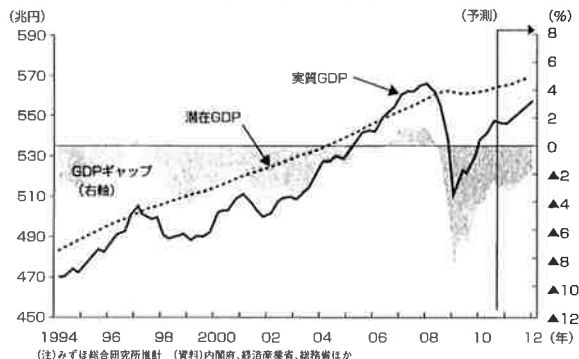
6. 日本の抱える課題

今年「失われた15年」の間に自民党政権以来先送りしてきた課題を、どうしても動かさないとけません。事情はかなり切迫してきています。日本の最大の課題は長年デフレギャップを抱え続けてきたことです。供給の潜在能力に対して需要が不足している「供給過剰」が解消しないままであるため、デフレが継続するのです。1994年から2010年の間で需要が供給能力を上回ったのは僅かな期間で2回しかありません【図5】。そのうちの1回は1997年のITブームの到来によるものですが、当時の橋本内閣が消費税を上げた直後にブームが去りすぐに失速してしまいました。2002年から2007年の5年間は輸出ブームによる景気回復で、需要も2007

年に上回りました。インフレ率がプラスに転じたのはこの時から半年後の2008年で、近年では唯一、名目成長がプラスになりました。このようにデフレギャップを埋めないとデフレを本質的に解消することができず、成長軌道に乗ることができません。リーマンショック直後のGDPギャップは9％。つまりGDP500兆円のうちの四十兆兆円が供給超過となっていました。現在は約2・9％程度まで縮小し、供給超過額は約16兆円となっています。

2011年中のデフレ脱却は無理と見えますが、少なくとも2012年の前半までに終了させないと景気失速の懸念から税制改革を行うことができません。その意味では赤字財政ではありませんが、ある程度は財政出動を行い、早くこれを埋めおかねばなりません。デフレ脱却への処方箋の王道は、人々の将来不安を解消し、個人消費を拡大するために財政再建と社会保険問題に着手することです。しかしそれは時間がかかるので、先行して企業部門を活性化し設備投資や収益が回復して株高になるという雰囲気を作らなければならないといけません。その中で特にポイントとなるのは円高阻止と内需拡大です。円高も80円程度までであれば耐えられますが、それ以上進むとまた「腰折れ」してしまう。また、政府は規制緩和や企業に対する支援を行い、

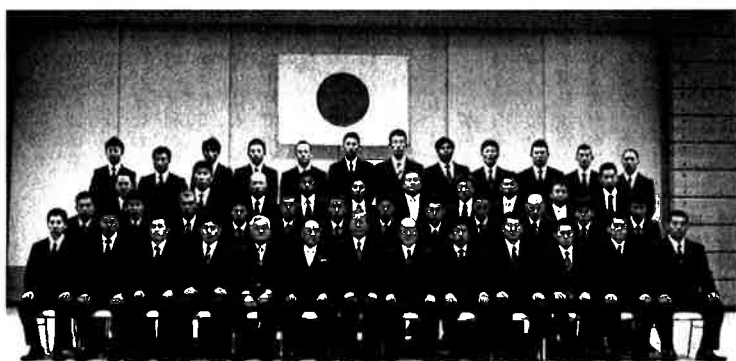
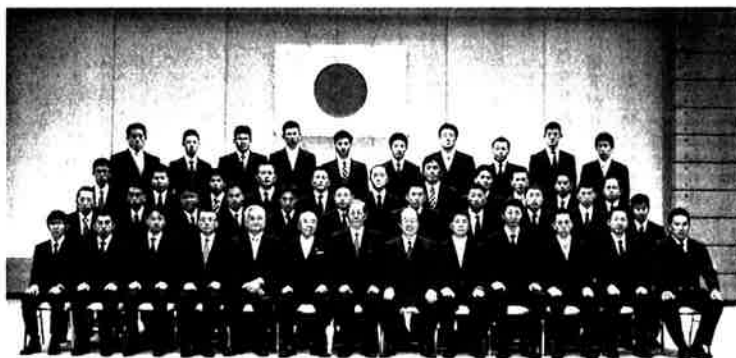
図5 GDPギャップ



(注) みずほ総合研究所推計 (資料) 内閣府、経済産業省、総務省ほか

平成22年度

全国優秀機動隊員表彰式 及び目録贈呈式



全国優秀機動隊員に選ばれた皆さん

**全国から集結した89名の精鋭に、
励ます会から目録贈呈**

全国の機動隊員の中から、優秀な功績を残した者が毎年警察庁警備局長より全国優秀機動隊員として表彰されており、今年は去る1月20日に警察総合庁舎にて全国優秀機動隊員表彰式が行われ89名がその荣誉に浴した。

受賞者一人ひとりの名前が呼ばれた後、受賞隊員を代表し福島県警察機動隊の大和田幸雄巡査部長が賞状を授与された。訓示を行った西村泰彦警備局長は、昨年の活動を振り返り、「APEC警備完遂は諸外国からの評判も良く誇りに思う。また、宮崎県の口蹄疫対策、集中豪雨など災害警備でも活躍した。今年は大

な警備は予定していないが、我々警察の使命は国民が安心して暮らせる社会をつくることであり、万が一事件が起こった際には被害を最小限に食い止めるなければならない。その時に要となるのが機動隊である。日本警察の将来のために鍛錬を重ねてもらいたい」と激励した。

続いて、励ます会より受賞者に対して、シンガポール研修の目録贈呈が行われた。羽矢惇理事長は「昨年はAPECという大きな警備を通じ日本の警備力を世界に示す機会となった。心より敬意を表したい。皆さんの努力なくして国民が安心して暮らすことはできない。研修先



西村警備局長から賞状を授与される大和田巡査部長



受賞者代表の大貫巡査部長から謝辞を受ける羽矢惇理事長

のシンガポールは治安も良き国家の意志が統一されている国である。短い期間ではあるが、大いなる成果を得ていただきたい。また、皆さんの後進となる方々にもその成果を伝えてもらえれば幸いである」と挨拶した。それに対して警視庁機動隊大貫友久巡査部長は受賞者を代表して感謝と決意の謝辞を述べた。

目録贈呈式の後には全員で記念撮影を行った。今回表彰された隊員は2月22日から3泊4日でシンガポールにて研修を行う。参加の皆さんは短い期間ではあるが、海外で見聞を広めるとともに相互に交流を深め、有意義な時間を過ごしていただくことを願う。

*シンガポール研修の模様は4月号の誌面にてご紹介いたします。

平成23年 警視庁警備部 武道始式 1月26日

警視庁警備部の機動隊員が日頃の鍛錬の成果を競う恒例行事「警備部武道始式」が去る1月26日、警視庁武道館(東京都新宿区)にて開催された。当会からは羽矢惇理事長、小山・鈴木両相談役他が来賓として観戦した。試合は機動隊対抗の団体戦で行われ、仲間を応援するかけ声や、竹刀がぶつかり合う音が響き会場は活気にあふれていた。決勝戦の組合せは、剣道が二機対九機、柔道が四機対八機。互いに熱戦を繰り広げ、結果は剣道が7対4で九機が三年連続の優勝、柔道は7対6で四機が21年ぶりの優勝を果たした。

と述べた。続いて当会羽矢惇理事長は「日本の治安の良さは皆さんの日頃の鍛錬と職務の遂行に支えられている。これからもぜひ努力を続けていただきたい」と来賓挨拶を述べた。式は「出動の歌」の斉唱で締めくくられた。



白熱した展開となった決勝戦



▲優勝を飾った四機

編集後記

今年も新年早々に北国の豪雪に始まり新機種の噴火等の自然の脅威や大相撲の八百長問題等に揺れ、肝心の政治もさっぱり安定しないが、幸いにして我が国の治安は安定し国民生活の安全・安心は保たれている。

エジプトの大規模反政府デモやモスクワの爆弾テロなど海外の厳しい報道に接するたびに、我が国の治安の良さを実感するとともにそれを支える機動隊をはじめ関係者の皆さんの陰の大きな努力に感謝し、この財産は後世にもつかり継承しなければならぬと思う。

(励ます会事務局)

CONTENTS

- P1 「東日本大震災」発生
東京マラソン2011 警備完遂
- P2 大阪・九州・名古屋で支部総会開催される！
「励ます会」ホームページ リニューアルオープン
- P4 Member's Lounge
「地球温暖化問題の今 ポスト京都議定書に向けて」澤 昭裕 氏

発行所
社団法人 機動隊員等を励ます会
〒144-0056 東京都大田区仲六郎4-32-5
発行人 羽矢 博
TEL 03(3739)0590
購読料 年間1,200円
(但し会費の中には購読料を含む)

はげまし

平成23年
3月号

For the Riot Policemen
& Members

— No.432 —

東日本大震災 発生

各都道府県より 広域緊急援助隊 出動

3月11日午後2時46分頃、マグニチュード9.0を記録する我が国史上最大の地震が東北地方太平洋沖で発生しました。大津波により壊滅的な被害をもたらした。救援活動の遅れと原発事故被害も深刻となっています。各都道府県警察からも直ちに広域緊急援助隊が被災地に派遣されました。被害にあわれた方々に心からお見舞い申し上げます。広域緊急援助隊の皆さんをはじめとする、救援に携わる全ての皆さまのご無事の活動をお祈りいたします。

東京マラソン2011 警備完遂



去る2月27日、今年で5回目となる「東京マラソン2011」が開催された。当日は好天に恵まれ、都心を3万5千人を超えるランナーが走り、1万人規模のボランティアスタッフや153万人の観客が集まった。この東京マラソンの沿道警備には、多数の機動隊員等が任務にあたり事故もなく整然と完遂させた。その姿を写真で紹介する。

東京都庁
～スタート地点～

浅草
～28キロ付近～

銀座
～21キロ付近～



折り返し地点となった浅草は人通りも多く、コース外の地下鉄駅構内でも、隊員同士のより綿密な連携が求められる。注意深く警備を行う



車両から全体を見渡し適切な指示を送る

混雑緩和のため、買い物客などの通行人を誘導



ランナーでコースが埋め尽くされるスタート地点付近は特に、スムーズな走行と観客の安全に細心の注意を払う



沿道の人に丁寧に応対



震災被災者の皆さまに
心よりお見舞い申し上げます

新日本製鐵 (株)
新日鉄エンジニアリング (株)
日鐵住金建材 (株)
合同製鐵 (株)
日鐵商事 (株)
五十鈴 (株)
岡田運輸 (株)
愛知産業 (株)
エース電研 (株)
スカイコート (株)
東京製綱 (株)
メタルワン (株)
不動鋼板工業 (株)
富士興業 (株)
橋本尚吾 (株)
明鋼材 (株)
日鉄東海鋼線 (株)
東海鋼材工業 (株)
豊田通商 (株)
株佐藤ホールディングス
ナイルレストラ
G・M・ナイル
Tel 03-3541-8246
(社)機動隊員等を励ます会
東 北 支 部

大阪・九州・名古屋で支部総会開催される!

2月23日に開催された名古屋支部総会の内容については次号掲載いたします。

第37回 大阪支部総会

平成23年2月3日

警備分野にとどまらない機動隊員の活躍を紹介

去る2月3日、第37回大阪支部総会がニューコクサイ（大阪市中央区大阪商工会議所ビル）において開催された。当日は来賓として舟本警大阪府警察本部長以下府警幹部及び機動隊の皆さん、支部会員の総勢330名が出席した。

挨拶で木村純大阪支部長（富士興業社長）は、APECなど昨年の警備案件を振り返るとともに「大阪府ではひたたくりの認知件数が大幅に減少した。これも長年の関係者の地道な努力によるもの」と感謝を述べた。続いて羽矢惇理事長（新日鉄エンジニアリング社長）は日本の商品やサービスの品質の高さは努力の積み重ねであることに触れ、「警備・治安も同じで、日頃の鍛錬の積み重ねで世界に誇る高い品質の警備を保っている」と敬意を表した。また、舟本本部長は「昨年は何といってもAPEC警備が大変であり、横浜に大勢の隊員を派遣し、関西空港や主要駅の警備でも厳しい警戒を続けた。また長期派遣を行った宮崎の口蹄疫対策では、大変暑い時期に防疫服を着て脱水症状を起こしながらも頑張ってくれた。さらに両陛下ご臨席の奈良遷都1300年記念式典に伴う警備・警護・警備



舟本大阪府警察本部長による挨拶

にも従事し、若い機動隊諸君はご苦労であった。最近機動隊も警備の分野を超える範囲で治安の維持に邁進している。大阪府としては、ひたたくり封じ込めには機動隊も投入し、35年ぶりに全国ワーストワンを返上することができた。暴力団対策にも若い機動隊を前面に出している」と警備の成果を報告し「今日のような温かい励ましやご理解ご支援をいただき、隊員は頑張る気持ちを新たにしたい」と述べた。



挨拶をする羽矢理事長



木村大阪支部長



万歳三唱の音頭をとる栗川副理事長

挨拶の後、樋渡健治理事（新日本製鐵執行役員大阪支店長）の音頭で乾杯し、励ます会と機動隊員は懇親・交流を深めた。また会場ではアトラクションとしてビンゴゲームなども行われ大いに盛り上がった。最後に全員が輪になって恒例の「この世を花にするために」を合唱し、大阪が地元の栗川勝俊副理事長（合同製鐵社長）が「最近の隣国の行動を見るにつけ、治安維持の先兵として機動隊の活躍の場が広がることを期待して」と万歳三唱の音頭を取り、懇親会を締めくくった。

第36回 九州支部総会

平成23年2月17日

初の九州全県の機動隊員参加で交流を深める

去る2月17日、第36回九州支部総会が博多サンヒルズ（福岡市博多区）において開催された。今年は沖縄を含め九州全県の機動隊員が初めて揃って、名実ともに九州支部総会となった。

当日は来賓として折田康徳九州管区警察局長、田中法昌福岡県警察本部長以下警察幹部及び機動隊の皆さん、自見榮祐九州支部長（自見産業会長）以下支部会員が出席し、総勢200名が出席した。

懇親会ではまず自見支部長が「今年は関係先のご配慮により、沖縄・鹿児島をはじめ九州管区全体の機動隊員に参加していただいております。大変ありがたい。ぜひ胸襟を開いてなごやかに懇談していただきたい」と述べた。続いて羽矢理事長はAPECの完璧な遂行を振り返り「事前計画・反復訓練・国民への周知徹底により、大変難しい警備が完遂できた。本日ご出席の機動隊の皆さんの中にも大勢の方が大きな役割を果たされたことと思う」と感謝を述べた。そして折田局長は「昨年は各県の機動隊、管区機動隊それぞれが大変忙しく隊員の活躍の場が多かった。九州では、APEC警備派遣の他にも、夏には宮崎口蹄疫対策出動、11月には大分で国際車イスマラソン警備、また奄美大島の集中豪雨への対応などがあった。今年も鳥インフルエンザ対策や新燃岳噴火災害など予断を許さない状況が続いている。さらに隣国との不透明な情勢において、地理的状況から何かあれば真っ先に九州の機動隊が対応することになり、難しい警備情勢に置かれて励



折田九州管区警察局長による挨拶



全員で肩を組み「この世を花にするために」の合唱

ます会の皆さんには是非これからも引き続きご理解ご支援をお願いしたい」と述べた。



全国優秀機動隊員に選出された機動隊員

挨拶の後、塚越満理事（新日本製鐵九州支店長）は「皆さんに接するたびに背筋がピンとして清々しい気分になる。皆さんを見ると日本の将来も大いに希望が持てると感じる」と述べ、乾杯の音頭をとった。懇親会では、今年度の優秀機動隊員の紹介や機動隊の活動記録紹介等で大いに交流を深めた。最後に「この世を花にするために」を全員で合唱した後、福岡県出身である栗川勝俊副理事長の万歳三唱で会は幕を閉じた。

「励ます会」ホームページ リニューアルオープン

2月7日、当会のホームページを刷新した。これまでの活動主旨や支援内容紹介に加え、より公開性・更新性を高め、定款や年度の事業報告及び会員情報なども引続きご覧いただける。「ニュースリリース」では、当会の活動を随時発信していくほか、会員の皆さま向けのお知らせページも新設した。ご一読の上、活動主旨理解及び新規会員の獲得などにお役立ていただきたい。

会員のページ



トップページ



公開資料のページ



ホームページアドレス

<http://www.hagemashi.com>

または「機動隊員等を励ます会」で検索願います

Member's Lounge

(P4から続く)

現在、日本国内の温室効果ガス排出のうち、約9割は石油や石炭など化石燃料の燃焼により発生・排出されるエネルギー起源CO₂です。産業・運輸・業務・家庭といった部門別の排出量をみてみると、産業部門のエネルギー起源CO₂は技術開発や企業の省エネ努力により2008年で既に1990年比13%削減を実現しています。一方、家庭からの排出量は1990年以降3〜4割増えています。そのため、「25%削減」とは単純にCO₂排出量を今のレベルから1/4を減らせればよいのではなく、実際は今のレベルからおよそ半減させる必要があるのです。このレベルの家庭のエネルギー消費量の時代とは、第一次オイルショック後の1975年

減は、産業へのインパクトも甚大です。排出量削減のためのコスト増加に加え、国際競争力へのダメージは大きく、また光熱費が高騰するため実質所得は減少、その結果消費も減少するでしょう。また、産業部門のなかでもエネルギー多消費産業である素材産業が最も大きなダメージを負うと考えられます。

この25%削減目標ですが、2010年3月に閣議決定され継続審議となっている地球温暖化対策基本法案に前述の前提条件とともに書かれています。この他、基本法案には、2050年までに80%を削減するという長期目標、目標達成のため地球温暖化対策税、全量固定価格買取制度、国内排出量取引制度という三つの施策が盛り込まれています。これらの三つの施策はさまざまな問題を抱えています。まず国が排出枠を割り当てる国内排出量取引制度は、政府や政治の介入を前提としている制度であるため、どうしても利権構造ができてしま

うという懸念があります。また地球温暖化対策税は、エネルギーが生活必需品であるがために日本の約50%を占めている年収350万円以下の低所得者世帯や、公共交通機関が不足しており自家用車使用の頻度が高い地域、また灯油等の使用量が多い寒冷地、特に大きな負担を強いることになりま

す。また全量固定価格買取制度も、その必要コストを広く電気料金を上乗せする

ため、低所得者層から太陽光パネルを購入できる家庭に補助金を出すという、所得再配分に逆行するような制度になっています。

麻生太郎元総理が発表された温暖化対策のための国民負担は、世帯あたり年間7万6千円という試算です。これは1990年比8%減という目標の際の負担額です。今は25%減ですから単純に削減量だけ見ても3倍も違いますし、よりコストのかかる対策を取らなければならなくなるので、全体のコストは3倍では済まないでしょう。現政権は法案だけを提示し、国民負担に対する統一見解が未だにありません。国民負担の具体額の明示なくして、国民の納得は得られないでしょう。

4. 二国間オフセット・クレジット制度の可能性

国連プロセスが崩壊したCOP15終了後に、何とか環境と経済を両立する手法はないかと提案したのが「二国間オフセット・クレジット制度」です。【図2】日本が途上国に対して資金や技術の支援を行い、途上国で削減プロジェクトを実施し、その削減量を二国間で認めるという仕組みです。例えば中国の石炭火力発電所を高効率にするなどのプロジェクトを実施し、排出削減への貢献を独自に評価してクレジット化し、それを獲得する制度です。

京都議定書で採用されているCDM(クリーン開発メカニズム)も同様の仕組みですが、CDMは国連による審査が長期化する問題点などを抱えています。二国間クレジットでは、国連を通す必要はなく、二国間でさまざまなプロジェクトを行っていくことができます。日本もこのシステムに積極的な姿勢を示していますし、日本の技術・製品を普及させることで外需を確保しながら環境貢献を行うことができる仕組みなのです。このような二国間・地域間での取り組みを含め、今後の途上国支援は、削減プロジェクト単位にとどまらず、途上国の低炭素化計画などより広い分野で行っていく必要があります。例えば人材の育成や法律制定の支援、交通政策、都市政策などについてのさまざまなプロジェクト支援など、特定分野の低炭素計画一式をまとめて日本が請け負うという方向に進んでいけば、日本の貢献が目に見える形になるでしょう。

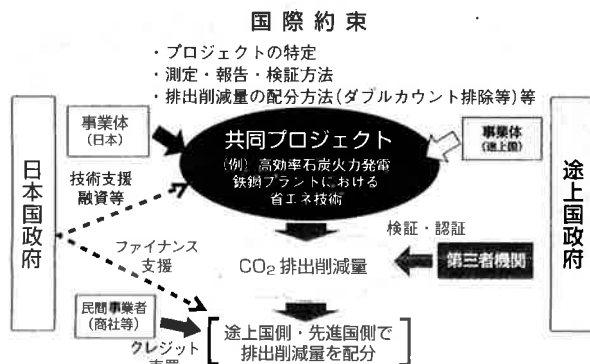
講演後質疑応答

Q 日本の限界削減費用は1トンあたり500ドル近いが、世界の平均は50ドルでは日本の限界削減費用が50ドルの場合、削減量はどのくらいになるのか。また、1990年比25%の削減だと、国民負担はどのくらいになるのか。

A 日本の限界削減費用が50〜60ドル程度だとCO₂削減量はマイナスではなくプラス4%になる。いかに日本がすでに省エネ対策に誠実に取り組んでいるかという証拠。逆にアメリカが日本並みに努力するとしたら1990年比3%削減と表明している目標を40%ぐらいに引き上げないといけません。

そもそも25%削減という目標は見直す必要があります。25%削減をすべて国内で行うかどうかということも、まだ決まっています。国民負担は一概に言えませんが、国内で削減する場合の一番高い試算では、1世帯当たり年間77万4千円と言われている。数十万というのは他のシミュレーションでも出ています。

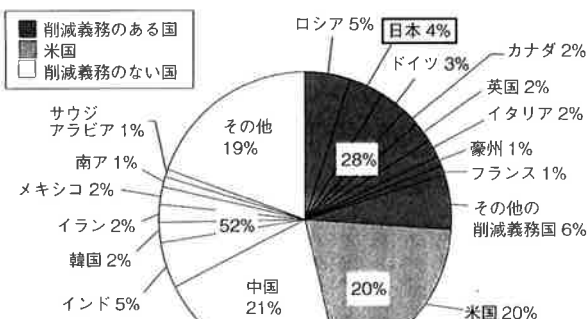
【図2】二国間オフセット・メカニズムのイメージ



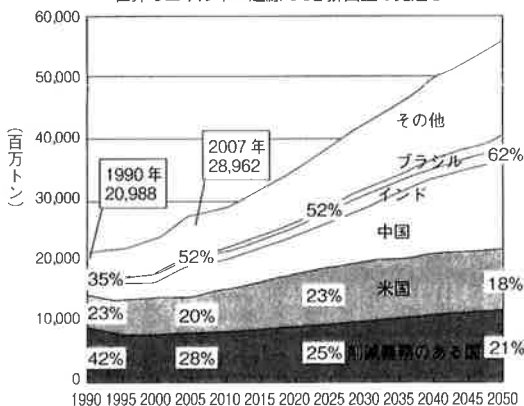
1. 京都議定書の問題
地球温暖化については懐疑論もありますが、大切なことは、「人為的な温室効果ガスの排出が原因で温暖化が進行している」ということを前提に国際交渉が行われていることです。

国際的な地球温暖化対策の動きとして、1997年に気候変動枠組条約第3回締約国会議(COP3)で京都議定書が採択され、これが2005年に発効しました。京都議定書は、先進国の温室効果ガスの排出量を法的拘束力のある形で設定したもので、対象期間は2008年から2012年、目標の基準年は1990年です。日本の削減目標は1990年比▲6%となっており、ポイントとしては、先進国だけが排出削減義務を負っていることで、中国を含む途上国には削減義務が設けられていないことです。1997年当時は、世界のCO₂排出量の約14%だった中国の温室効果ガス排出量は、2007年

【図1】世界全体の温室効果ガス排出動向と予測

世界のエネルギー起源CO₂排出量(2007年) [%]

出典: IEA (注) EU15 国の排出量が世界に占める割合は 11%

世界のエネルギー起源CO₂排出量の見通し

出典: 財団法人地球環境産業技術研究機構 (RITE)

いう考え方に基いています。例えば、温室効果ガス1トンを追加的に削減するために必要なコストを限界削減費用と言いますが、すでに省エネが進み削減余地の少ない日本が1990年比25%減を達成しようとする場合の限界削減費用は476ドルと試算されています。逆にアメリカは1990年比で▲約3%の削減目標しか出しておらず、この場合1トンあたり50~60ドルの対策で目標が達成できることとなります。それだけ日本と大きな努力の差が出ているわけです。第一の条件は、公平かつ実効ある枠組みの構築です。つまり、京都議定書のように途上国に削減義務がなく公平性や実効性に欠ける枠組みとは別の枠組みを構築し、そこにアメリカと中国が入ることを条件に挙げたのです。

2010年メキシコのカンクンで行われたCOP16で、日本は会議初日に「全世界の排出量の27%しかカバーしない現状の京都議定書では地球は救われない。京都議定書の延長はいかなる条件でも受け入れない」という内容の発言をしました。COP16では、この日本の発言が目玉とされ、これを基軸にさまざまな議論が起こり、最終的に日本のこの主張が組み入れられた合意が実現しました。前年に開催されたCOP15(2009年・デンマーク/コペンハーゲン)では、途上国も含めた各国が自主的に削減目標を登録するボトムアップ型の仕組みをつくり、それを国際的に評価・検証するという方向で合意が進められましたが、一部の国の反対により正式な「合意」には至らず「留意」という形で終わってしまいました。これがCOP16では「カンクン合意」として正式決定で

Member's Lounge

機動隊員等を励ます会 2月の朝食講演会録

京都議定書第一約束期間の最終年が来年に迫り、2013年以降の「ポスト京都議定書」の枠組みづくりに関心が高まっています。今回は、温暖化問題に対する国際交渉と国内の動きを中心に、「エコ亡国論」の著者、澤昭裕さんにお話を聞きました。



<2月17日のゲスト>

さわ あきひろ
澤 昭裕氏

21世紀政策研究所 研究主幹

プロフィール

1957年 大阪府生まれ

経歴

1981年 一橋大学経済学部 卒業
1981年 通商産業省 入省
1987年 行政学修士(プリンストン大学)
1997年 工業技術院人事課長
2001年 環境政策課長
2003年 資源エネルギー庁資源燃料政策課長
2004年 東京大学先端科学技術研究センター教授
2007年 (社)日本経済団体連合会21世紀政策研究所研究主幹

著書

『地球温暖化問題の再検証』東洋経済新報社(2004年)
『エコ亡国論』新潮新書(2010年) など
その他、『離航する地球温暖化国際交渉の打開に向けて』(2010年)等の21世紀政策研究所提言多数

時点で約21%にまで増加しています。また全体の排出量の約20%を占めるアメリカも、途上国に削減

0年までに排出量が伸びると予測されているのは途上国で、その中でも半分以上を占めるのが中国で

中期目標を掲げるのは不公平だと

義務がなかったというところで京都議定書を批准していません。よって、京都議定書で削減義務を負う国は世界全体の排出量のたった3割にも満たないので、【図1】。さらに今後の排出予想では、2005

2. 京都議定書延長か、新しい枠組みの構築か
2009年9月、鳩山由紀夫前総理は温室効果ガス排出削減の中期目標として2020年までに1990年比25%減を表明しました。この高すぎる目標には、多くの関係者が懸念を示しましたが、実はこの目標には二つの前提条件が付けられていました。ひとつの条件としては、中国やアメリカなど主要国が意欲的な削減目標を示すこと。これは日本だけが突出した中期目標を掲げるのは不公平だと

3. 25%の削減目標をどのように捉えるか
日本国内では、25%という削減目標は「努力目標」と誤解して捉えられ、「目標は高く掲げるべきであり、そこに向けて努力する姿を国際的に示すことで日本は評価される」という認識があります。しかし実際は、この目標は達成できなければ排出権を購入するなどの形で「罰金」が課される法的義務を伴う可能性のあるものです。これは非常に重要な点なのですが、国民に正確に伝わっていません。

京都議定書の延長か新しい枠組みの構築か、まだ決着がついていませんが、来年は京都議定書の第一約束期間が終了するため、今年南アフリカのダーバンで行われるCOP17が非常に大きな山場といえます。

編集後記

東日本大震災の被害にあわれた方々に心からお見舞い申し上げます。連日、惨状を目にして本当に心が痛みます。警察官も大勢殉職されたとの報道に接し、言葉もありません。当会の会員や企業の一部も被災しており、それぞれ懸命の復旧活動が続いています。まだまだ被害は続き、復興も長い困難を伴います。幸いにして直接被害を受けなかった者は、できる限りの支援を尽くさねばならないと思います。(励ます会事務局)

(P3に続く)

地球温暖化問題の今 ポスト京都議定書に向けて

CONTENTS

- P1 東日本大震災 機動隊員等による懸命の活動つづく
 P3 名古屋支部総会 開催！
 全国警察空手道選手権大会 愛知大会 開催！
 平成22年度 全国優秀機動隊員 シンガポール研修
 P4 寄稿 シンガポール研修に参加した機動隊員の声

発行所
 社団法人 機動隊員等を励ます会
 〒144-0055 東京都大田区仲六郷4-32-5
 発行人 羽矢 惇
 TEL 03(3739)0590
 購読料 年間1,200円
 (但し会費の中には購読料を含む)

はげまし

平成23年
4月号

For the Riot Policemen
& Members

— No.433 —

東日本大震災 機動隊員等による懸命の活動つづく



救助した子どもを安全な場所に誘導

甚大な被害を受けた
岩手県陸前高田市

■ 広域緊急援助隊の派遣状況

第一次派遣	3/12~14	警備部隊	1,475名
	3/12~17	交通部隊	680名
第二次派遣	3/15~17	警備部隊	200名
		管区機動隊	920名
	3/17~22	交通部隊	557名
	3/15~19	水難救助部隊	31名
第三次派遣	3/18~20	警備部隊・管区機動隊	1,853名
	3/23~	交通部隊 511名	岩手県へ 162名 宮城県へ 189名 福島県へ 160名 岩手県へ 570名 宮城県へ 767名 福島県へ 397名
第四次派遣	3/21~25	管区機動隊 1,734名	
		※大阪・滋賀部隊は 3/20 から活動	
	3/21~25	水難救助部隊	28名
第五次派遣	3/26~30	機動隊・管区機動隊 1,808名	岩手県へ 622名 宮城県へ 773名 福島県へ 413名
		水難救助部隊	15名
		※北海道・警視庁部隊は 3/25 から活動	
	3/30~	機動隊・管区機動隊 1,828名	岩手県へ 638名 宮城県へ 728名 福島県へ 462名
第六次派遣	3/12~	刑事部隊 351名	岩手県へ 113名 宮城県へ 228名 福島県へ 10名

※緊急災害対策本部資料より(4月3日現在)

宮城県気仙沼の大浜地区にて
連棟をとりあい捜索を行う宮城県名取市関上地区での捜索活動。
がれきの中から行方不明者を探す

警視庁航空隊と協力し、被災者を救助

全国から広域緊急援助隊が被災地へ

3月11日、三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の地震が東北地方を襲った。地震発生直後から、全国各地の機動隊員及び全国で編成された広域緊急援助隊が被災地に駆けつけ活動を行っている。ライフラインが途絶え余震が頻発する非常に厳しい現場において、隊員らは被災地の一日も早い復興のため、総力を挙げて任務を遂行中である。これまでに派遣された広域緊急援助隊員の総数は累計で11,991名。救出者総数は自衛隊・消防あわせ26,632名にも上る(4月3日現在)。

今現在も多くの隊員が被災地で行方不明者の捜索やがれきの除去等に取り組んでいる。

広域緊急援助隊とは 高度な救出救助能力と自活能力を備えた災害対策の専門部隊。阪神・淡路大震災の教訓を踏まえ、大規模災害発生時に迅速で的確な災害警備活動を行うために平成7年6月に全国すべての都道府県警察に設置された。広域緊急援助隊は約4,700名の隊員が所属し、「警備部隊」、緊急交通路の確保等を行う「交通部隊」、検視や遺族等への安否情報の提供等を行う「刑事部隊」で構成されている。

この度の大震災で被害を受けられた全ての皆様、そして会員の皆様にご心からお見舞い申し上げます。 社団法人 機動隊員等を励ます会

一人でも多くの命を…祈りをこめた救出活動



警備犬(救助犬)も
行方不明者の捜索に
活躍している



宮城県女川町役場
付近を捜索



津波で屋根の上に
避難した被災者を救助



岩手県の被災地で
活動を行う隊員

震災復興に向けて 活躍する機動隊員

被災地に派遣された機動隊員等には様々な任務が課せられている。上記写真のように、被災者の人命救助や避難誘導、行方不明者の捜索はもちろん、道路上では停止中の信号機に代わる交通整理、ICでの車両検問や緊急標章の交付事務、物資輸送の先導などを行う。

また、地震発生当日は被災地以外の首都圏でも機動隊員等が活躍した。交通機関が大きく乱れ多数の帰宅困難者が現れた夜間、隊員らは大きな交差点や歩道に立ち誘導を行うことで二次災害の発生を防いだ。

福島第一原発での懸命の注水作業

福島第一原子力発電所の被災において、現在も予断を許さない状況が続いている。警視庁公安機動捜査隊は3月13日から原発周辺地域での活動を開始し、規制区域内での交通規制を行った。また19日には警視庁機動隊員23名が福島第一原発から20、30キロ圏内の屋内退避区域の入院患者を避難させるため、区域外の病院に搬送した。

更に原発の冷却機能喪失に伴い、警視庁は「高圧放水車」を利用した注水作業の要請を受けた。現場で指揮をとった警視庁警備部管理官の大井川典次警視は記者会見で「各隊員の士気が高く、原発到着後に三つに分けた作業班への参加順を募ると、ほぼ全員が一番手を志願した」と述べた。被ばくの危険にさらされながらも決死の覚悟で活動を行った隊員に心からの敬意を表したい。

東日本大震災で殉職された20名の警察関係者の皆様(4月4日現在)に心からご冥福をお祈り申し上げます。

東日本大震災被災者の皆さまに
心よりお見舞い申し上げます

新日本製鐵(株)

新日鉄エンジニアリング(株)

目録住金建材(株)

合同製鐵(株)

五十鈴(株)

岡田運輸(株)

東鋼業(株)

岡部(株)

廣沢製作所(株)

大東港運(株)

平和農産工業(株)

藤田金(株)

不動鋼板工業(株)

黒田(株)

共永興業(株)

高島秀一郎(株)

東海レベラー鋼業(株)

豊田通商(株)

宮崎精鋼(株)

ナイルレストラン(株)

G・M・ナイル(株)

031354118246

第34回 名古屋支部総会開催！

平成23年2月23日



全員で大きな輪になって「この世を花にするために」を歌う

去る2月23日、第34回名古屋支部総会がメルパルクナゴヤにて開催された。当日は来賓の河邊有二愛知県警察本部長をはじめ、県警幹部及び女性警察官機動隊含む機動隊員の皆さん、支部会員の総勢250名が出席した。

愛知・岐阜・三重の機動隊員、管区機動隊員、婦人機動隊員計120名は、太鼓集団「SHO」の演奏とともに入場。開会の挨拶で名古屋支部の高田三郎世話人代表（カノックス社長）は「昨年名古屋で開催された国際会議COP10や横浜APECなど県内外で重要行事の警備にあたっていただいた。また今年1月の豊橋市内での鳥インフルエンザ発生においては速やかに出動し警戒にあたっていただき、安心かつ安全な生活の実現に貢献していただいている」と述べた。また、羽矢惇理事長は「名古屋には日本を代表する製造業があるが、世界に誇る日本の物作りの品質も警備力も、一朝一夕にはできない。長い努力の賜物である」と激励した。

続いて河邊本部長は「中東や北アフリカ諸国での動乱を考えると、我々が民衆と対峙することなく、支援を受けられることに感激している。その中でも白眉といえるのが『励ます会』。我々が現場で自信と誇りを持って仕事にあたる源になっている」と感謝の意を表した。

東海三県の機動隊員120名、会員と親交を深める

勝山憲夫世話人（新日本製鐵名古屋製鐵所長）の乾杯の音頭の後、懇談に移り、安藤警備課長補佐がスライドショーで機動隊員の活動を紹介した。最後には恒例の「この世を花にするために」を全員で合唱。井上誠之愛知県警察機動隊長は「皆様の言葉を肝に銘じ、有事即応体制を確保しつつ一丸となり訓練に励み、頑張っていく」と謝辞を述べ、増田規一郎副理事長の万歳三唱で会を締めくくった。



励ます会への謝辞を述べる河邊愛知県警察本部長



隊員を激励する羽矢惇理事長



増田副理事長



高田世話人代表

第15回 全国警察空手道選手権大会 愛知大会 開催！ 平成23年2月26日

去る2月26日、日本ガイシ・スポーツプラザ（愛知県名古屋市）にて第15回全国警察空手道選手権大会が開催され、当会もこの大会を支援した。前回優勝の警視庁が予選で敗れる波乱があり、決勝リーグは大阪、兵庫、愛知、京都の4府県警で行い、兵庫県警チームが優勝を飾った。

平成22年度 全国優秀機動隊員 シンガポール研修



全員で記念撮影。背景に写るのはシンガポールの新しい観光名所「マリーナベイサンズ」

全国から選抜された平成22年度全国優秀機動隊員89名が、去る2月22日～25日、シンガポールにて研修を行いました。

この研修は当会が平成4年から毎年行っている支援のひとつです。普段別々の場所での職務に励む機動隊員に、諸外国で見聞を広めながら交流を深めてもらう目的で行っています。

シンガポールは、治安も良く街も清潔であることでも知られています。現地の警備事情を視察し有意義な時間を過ごしていただきました。その研修の模様と、参加した機動隊員の寄稿を紹介します。



シンガポールの象徴、マリーナベイサンズを望む



国会議事堂

シンガポール研修 2泊4日の全行程

2/22(火)	6時25分 12時50分	羽田空港発。空路、シンガポールへ。 シンガポール到着。入国手続き後、バスにてホテルへ。 ＜シンガポール泊＞
23(水)		終日、自由行動（市内散策、ショッピング、オプションツアーなど）。夜は全員揃っての夕食。隊員同士の交流を深めました。 ＜シンガポール泊＞
24(木)	午前 午後	専用車にてシンガポール市内視察。 警察庁舎、国会議事堂、大統領官邸にて警備状況を視察。 マリーオンパーク、マウンドフェーバー、免税店へ。 バスにて空港に向かい、空路、帰国の途へ。＜機内泊＞
25(金)	5時15分	羽田空港着、解散。お疲れさまでした！

* 羽田空港出発組の行程。この他、関西空港・福岡空港発の3組に分かれて出発し、現地で合流した。

寄稿

全国優秀機動隊員シンガポール研修に参加した
機動隊員の声

研修を終えて帰国した機動隊員の皆さんに、
シンガポールでの体験を振り返っていただきました。

絆！優秀機動隊員を受賞して

関東管区機動隊 木村仁



この度、全国優秀機動隊員という伝統と名誉ある賞をいただき、大変光栄に思います。

ただ、この賞を受賞させていただいたのも、隊員、分隊長と5年に渡る関東管区機動隊生活において、御指導、御鞭撻いただいた上司、先輩、同僚のおかげだと感謝の念でいっぱいです。

そして今回、先の受賞に伴い「機動隊員等を励ます会」の方々からシンガポール研修の機会を与えていただきました。

同研修では、首相官邸や警察署の警備情勢を視察する機会がありました。

同国に入学する前には、「大変治安の良い国だ」と伺っていたのですが、実際に視察すると、事前情報とは異なり、自動小銃を構えた警察官が警備の最前線に配置されているなど、非常に高い警戒レベルで勤務にあたっているのを痛感させられました。他国の警備事情を知り、見聞を深めることができたこの経験を、今後の人生の大きな糧としていきたいと考えております。

本研修中は、全国の機動隊員の方々と交流を深める機会があり、昨年実施された全国警察で警備にあたったAP E C警備の話は、様々な苦労話や貴重な経験について聞くことができ、時間がいくらあっても足りないほどでした。本研修と同じくらい大切な時間を過ごさせていただき、同じ機動隊員としてどんな困難にも立ち向かえる勇氣、そして、一生途絶えることのない大変強い絆を得たと思います。私が経験したこの貴重な時間を後輩達に伝えるべく、今まで以上に後進の育成に力を費やすのはもちろんのこと、自らも立場を変え、現場指揮官として再びこの貴重な

時間を過ごした仲間達と現場等で再会できることを楽しみに日々精進することを心に誓い、同賞受賞の名に恥じぬよう努めていきたいと思っています。



大統領官邸前の警備員。
腰には拳銃を携帯している

全国優秀機動隊員を受賞して

宮城県警察機動隊 橋圭介



この度、優秀機動隊員という名誉ある賞を受賞し、大変誇りに感じています。また、「機動隊員等を励ます会」の皆様からはシンガポール研修の機会をいただき、関係者の方々には誌上をお借りして深く感謝を申し上げます。

受賞を機に私の機動隊勤務を振り返ってみると、一年目は新隊員訓練に始まり、右も左も分からない不安な気持ちのまま北海道洞爺湖サミットに伴う関連会議への警備出動や岩手・宮城内陸地震への災害警備出動がありました。現場で活躍する先輩方の姿を見るにつけ、早く自信を持って現場活動ができるようになりたいという思いと、まだ何もできないことへの悔がゆさを感じつつ日々訓練に取り組んでいたことを思い出します。

二年、三年と経過し、実際の現場に出動し訓練とは異なる緊張感を体感したり、昨年のAP E C警備出動のような特別派遣など様々な機会に恵まれ、経験を積みにつれて着隊当初よりは自信を持って活動できるようになりました。

た。しかし、今でも自分の未熟さを感じる場面の方が多くですし、先輩方の姿をみて、それに追いつこうとしている点も着隊当時からあまり変わっていません。「自らの課題をみつけ、先輩の姿から学び、自信をもって活動できるようにする」、これからもそれを繰り返し、成長していきたいと思っています。

受賞にあたり、今まで多くのことを教えてくださった先輩方に改めて感謝するとともに、今後は私自身が優秀機動隊員の名に恥じない後輩の見本となるよう、更に精進していきたいと思っています。

シンガポール海外研修に参加して

島根県警察機動隊 内田学



シンガポールの象徴「マリーライオン」。上半身はライオン、下半身は魚。この不思議な雄姿が、国家の門番的存在となっているのです。

シンガポールはマレーシアから独立してわずか45年、琵琶湖ほどの国土面積に複数の民族が共生しており、異なる文化や言語の壁といった問題は否めません。しかし、現地の街並みからそのような様子もなく、一つの空間にそれぞれ独自のコミュニティが円滑に統治されています。

「シンガポールの治安は世界一」。これを誇りに思う。ある地元添乗員さんの言葉が印象的でした。私はこの誇らしい言葉こそが、シンガポールの治安を支える鍵ではないかと考えます。政府や警察の取り組みはとて大切なことですが、まずは国民一人ひとりが母国を愛し、誇りに思うことが何より重要なのではないのでしょうか。国家に対する意識づくりが、国を良くしようという気運の

高まりに繋がるのだと思います。

本研修を通して、シンガポールの歴史や現状等ほんの一部分ではありましたが、先進諸国等を参考にして急成長を遂げようとしている「アジアの新風」を肌で感じる事ができました。終わりにりましたが、この度「機動隊員等を励ます会」様のご支援によって、全国の受賞機動隊員の方々と交流を深めることができ、「全国警察の強い絆」を改めて実感することができました。誌上をお借りして深く感謝申し上げます。

シンガポール研修を終えて

佐賀県警察機動隊 永石成人



この度、「機動隊員等を励ます会」様からシンガポール研修の機会を与えていただき、大変光栄に思うと同時に、全国優秀機動隊員表彰受賞にあたり、上司等関係者の皆様には誌上をお借りして深く感謝申し上げます。

今回の研修で、シンガポールの各地を視察し様々な文化を学びましたが、その中でもシンガポールを取り巻く警察情勢について深く印象に残りましたので感想を述べさせていただきます。

シンガポールは多民族国家ですが、大変治安が良い国で、ひたたくり等の犯罪がほとんど発生しないと地元のガイドから説明を受け、大変驚きました。シンガポールでの移動はバスや徒歩でしたが、街中において警察官の姿や警察車両をほとんど目にする事がなく、研修中、交通事故現場には1件も遭遇することがありませんでした。私自身、世界一治安が良い国は「日本」と思っていました。今回の研修でその認識を改めさせられました。また夜は、シンガポールのタイガービルを少々の

しみながら全国の機動隊の方々と交流を持つことができ、各都道府県を取り巻く警察情勢等の情報交換を行うことができました。

今回の研修で体験したことを今後の糧とし、日々の業務に邁進していきたいと思っています。



初対面の隊員同士でもテーブルにつくとすぐに打ちとけ、話に花が咲く

《支部総会延期のお知らせ》

東日本大震災の影響に伴い、5月10日と19日に予定されていた東北支部総会、北海道支部総会の開催を延期させていただきます。今後の開催時期等につきましては、後日改めてご案内します。なお、通常総会は6月15日に予定しておりますが、開催については改めてお知らせします。

励ます会のホームページでも随時情報を更新しております。ぜひご覧ください。
<http://www.hagemashi.com>

機動隊員等を励ます会 後援

編集後記

4月号は震災特集号とした。まさか自分が生きているうちにこんなことが起こるとは。1ヵ月経つのに、いまだに夢を見ていた。全国のみなさんの警察官が災害出動し、想像を絶する状況の中でそれぞれの職務に懸命に働いている。長期にわたっているため心身の疲労が蓄積し大変な状況が想像できていた。また地震直後に住民を避難誘導している殉職された警察官も非常に多く、その責任感、使命感と行動に裏心から尊敬申し上げ、ご冥福をお祈りする。我々もこれから一生かかっている命に感謝し全身全霊で正々堂々と「プレ」(高校野球選手宣誓)していかねばならないと思う。

(励ます会事務局)

CONTENTS

- P1 被災地復興に向け、力を尽くした活動続く
 P2 Member's Lounge
 「列島強靱化論」 藤井 聡 氏
 P4 寄稿 力強い機動隊を目指して
 ゴールデンウィーク警備
 第38回通常総会開催のご案内

発行所
 社団法人 機動隊員等を励ます会
 〒144-0055 東京都大田区仲六郎4-32-5
 発行人 羽矢 惇
 TEL 03(3739)0590
 購読料 年間1,200円
 (但し会費の中には購読料を含む)

はげまし

平成23年
5月号

For the Riot Policemen
& Members

—No.434—

任務にあたる機動隊員等警察の皆様へ心から感謝します 被災地復興に向け、力を尽くした活動続く



被災者の声を丁寧に聞くことが
心のケアにもつながる

警視庁で行われた
きずな隊の出発式



手作業でがれきを撤去し警戒区域内の行方不明者を捜索する。
被災地では約4,400名の機動隊員等が活動している(5月6日現在)

東日本大震災から2か月以上が経過した。被災地は未だ厳しい状況が続いているが、学校の再開や仮設住宅への入居など少しずつ復興に向け前進している。全力で任務を遂行する機動隊員等も、その大きな推進力である。

動隊員が活動を行った(4月25日現在)。避難所での生活が長引く被災者にとって、女性機動隊員は親しみやすく頼もしい存在であるに違いない。

宮城県警の避難所では、「警視庁きずな隊」に編成された女性機動隊員が、地元の署員と共に県内の約200か所の避難所をまわり、被災者の心のケアや避難所でのトラブル防止等の任務にあたっている。

きずな隊の活動は4月1日から始まっており、

これまでに21名の女性機

動隊員が活動を行った(4月25

日現在)。避難所での生活が長

引く被災者にとって、女性機動

隊員は親しみやすく頼もしい存

在であるに違いない。

避難所で心のケア
警視庁きずな隊

「一人でも多くを家族のもとへ」
警戒区域内での懸命の捜索活動

警戒区域(4月21日まで避難対象地域)に設定された福島第一原発の半径20キロ圏内では、機動隊員等による行方不明者の捜索が集中的に行われている。

原発の事故以降、同圏内は立ち入りが制限され、被災者自らが家族や知人を探しに行くことも叶わない状況が続いていた。

報道によると4月7日から

福島県警の機動隊員や警視庁

機動隊は250人態勢で福島

県南相馬市の沿岸部など、半径

10〜20キロ圏内の捜索を始め

た。そして4月中旬からは30

0人態勢で、双葉町や浪江町な

ど半径10キロ圏内にあたる地

域を捜索している。隊員は放射

性物質の付着を防ぐ防護服を

着用し、各自で線量計を持ち活

動を行っている。遺体を傷つ

けないため重機の使用は必要最

小

小

小

東日本大震災災害出動の機動隊員等に対する 激励・見舞の募金をお願いします

この度の東日本大震災は地震、津波、原発事故が重なり我が国にとってまさに未曾有の災害であり、依然として立ち上がり見通しが立たない厳しい状況が続いております。

これに対し、機動隊を始めとする全国の警察官は行方不明者の捜索、警戒警備、治安維持などの過酷な災害出動に警察の総力を挙げて展開し、自分の間この特別な警備体制が続くものと思われま

被災地が広範囲で長期にわたり、夏場に向かいますますます過酷な環境下での警備となりますが、機動隊員等の皆さんが被災者のため、国民のため士気旺盛に頑張っている姿を目にして、まことにありがたかつ頼もしく感じます。心から敬意と感謝の意を表したいと思います。

そこで当会としては、頑張っている機動隊員等の皆さんを応援・激励し、お見舞いするため、東北支部を除く全国の法人および個人の会員の皆様に呼びかけ、募金をお願いすることといたしました。

すでに会員の皆様におかれては、被災者への義援金に様々な形でご協力されていますが、今回の募金は機動隊員等の皆さんへの応援の募金であります。平成7年の阪神淡路大震災の際にも当会は同様の趣旨の募金活動を実施し、法人会員の皆様を中心に総額5百万円を超える寄付をいただきました。絶大なご協力を得ることができ、警察関係者から大変感謝されました。

今回も何とか全ての会員の皆様、特に法人会員の各社のご賛同を得まして、必ずやこの募金活動が成功させたいと考えておりますので、どうかよろしくお願い申し上げます。

なお、当会の「はげまし基金」の一部を取り崩し、募金と合わせて見舞品を贈呈する考えです。

【募金金額・期間】金額はご自由です。6月末を目処といたします。

【募金方法】郵便振替が銀行振込

1. ゆうちょ銀行(郵便振替) 001300116835

2. 三菱東京UFJ銀行 蒲田駅前支店(普通) 5427184

口座名義: 社団法人機動隊員等を励ます会(きどうたいいんとうをはげますかい)【事務局】機動隊員等を励ます会 電話: 03-3739-10590

低限にとどめ、手作業で行方不明者を捜しているという。
 福島県警によると、半径10キロ圏内の捜索によりこれまで82人の遺体を収容した(4月25日現在)。隊員らは「一人でも多くの方を見つけて家族のもとに帰したい」と強い想いで懸命に活動を続けている。



20キロ圏内での捜索活動に向かう機動隊員

Member's Lounge

機動隊員等を励ます会 4月の朝食講演会録

東日本大震災に対し、復興策に関する様々な議論が続けられています。去る3月23日に参議院予算委員会公聴会で「日本復興計画」を公述した藤井聡氏に、日本の復旧復興の道筋や今後の社会資本の整備のあり方について、お話を伺いました。

<4月14日のゲスト>

ふじい さとし
藤井 聡 氏

京都大学大学院工学研究科 教授



プロフィール

1968年 奈良県生まれ

略 歴

1993年 京都大学大学院土木工学専攻 修了

学 歴

2000年 京都大学大学院工学研究科助教授

2002年 東京工業大学大学院理工学研究科助教授

2006年 東京工業大学大学院理工学研究科教授

2009年 京都大学大学院工学研究科教授

専門分野

土木計画学、交通工学、公共政策のための心理学

著 書

『公共事業が日本を救う』 文藝春秋(2010年)

『なぜ正直者が得をするのか―「損」と「得」のジレンマ』

幻冬舎(2009年)

『モビリティマネジメント入門』 学芸出版社(2008年)

『社会的ジレンマの処方箋：都市・交通・環境問題の心理学』

ナカニシヤ出版(2003年)

1. 危機的状況に置かれた日本

この度の東日本大震災は文字通り未曾有の震災でした。政府の見込みでは、今回の震災の被害総額は16～26兆円になります。現段階では過小評価値が各所で報告されているかもしれないため、今後さらに増える可能性もあります。ただ首都直下型地震が起こった時の被害総額は、その5倍以上と言われています。今回を除き過去2千年間で4回、東日本の同じ場所でマグニチュード8クラスの地震が発生しています。そして4回中4回、その前後10年間でマグニチュード7ないし8クラスの首都直下型地震が起きているのです。確率です。前回も絶対に起こるとは言えませんが、10年以内に首都直下型地震が発生する確率は8割程度あるのではないかと考えています。さらに東海・南海・東南海地震の30年以内の発生率は50～87%と言われていましたが、地震学者の常識的な見解では、地質的

2. 震災からの復興と日本列島の強靱化

日本列島の強靱化

東日本の太平洋側で約3万人の死者・行方不明者を数えるという被害規模、さらに次なる震災が高い確率で数年のうちに発生するというのが予測されているというのは、広い意味で言うところの戦争と同じ状況です。これは有事ですから、一番効果的な対策をいち早く行い次の攻撃に備えないと、我が国は本当に滅んでしまいます。

しかし、うろたえることなく状況を冷静に判断し、なすべき対策を間違わずにきちんと行うことができれば、日本は必ずこの危機を回避

し、復活を遂げることができる。それだけの力が確実にあります。

まず今回の大震災における復興を最大限行うことは当然ですが、同時に並行して巨大地震が来ても生き延びられるよう大至急日本全体の「強靱化」を図る必要があります。その方策を取りまとめ、緊急提案書として参議院予算委員会公聴会に提示したのが「日本復興計画」です。これは「東日本復活5年計画」と「列島強靱化10年計画」という二つの計画から構成されています。5年かけて東日本を復活させ、10年かけてどんな危機をも乗り越える強靱な国家をつくりあげることが目指すというものです。

3. ふるさとの再生と資源調達

例えば宮城県はすでに10年をかけた復興計画を提言しています。しかし5年で8～9割の復興を成し遂げる実力は持っています。日本の技術力と経済における供給力、そして復旧したいという思いがあれば5年で充分なのです。

被災地の復興について政府は「高台に移住させて海岸に通勤させる」「高台がなければ山を削り、そこに居住させる」などと発言しています。しかし、東北の風土はどうなってしまうのか。ニュースを見ると、被災地の8割の方が「もう一度、元の場所に戻りたい」とおっしゃっていました。明治三陸大津波や昭和三陸大津波では多くの人が亡くなり町も壊滅しましたが、また同じ場所に家を建てた。チリ地震津波も同様です。そのぶん防災意識は非常に高い。だから、被災地の方々がまた元の場所に戻りたいという思いがある限り、20mでも堤防をつくる必要があるのです。堤防を築けるような地理構造でなければ高台に避難所をつくれ

ばいいのです。被災地の人が元の場所から暮らし、醤油を製造したり農業で作物をつくるなどの生業を再び行えるようにすること。これがふるさと再生のビジョンです。

では復興のための財源をどうするか。これは国債による資源調達です。日本の国債の累積債務は過去最大という状況で、これ以上の国債発行は厳しと考えられている方もいるかもしれませんが、我が国の国債は9割が自国通貨建ての内債です。つまり外国の通貨による外国からの借金なのではなく、自国の通貨による国内民間からの借金なのです。これは財政破綻のリスクが最も低く、国債による資源調達は可能な状況なのです。また、今回多くの国民が義援金を寄付しました。払いたいという思いがあり、さらに多額の寄付は不可能でも貸与なら可能だという人は多数います。それも国債というかたちにするべきです。もし国債を発行しすぎて国内で調達でき

なければ、最後は終戦復興のようにアジア開発銀行等の世界銀行に借りるのです。用意できる金額で可能な復旧事業の範囲を決めるのではなく、何兆円かろうとも被災地を救うのが前提であるべきです。

4. 回避すべきTTPへの参加

東日本というのがひとつの人間だとすると、今回の地震によって非常に傷つきました。人が傷ついた時には、入院したり寝たたりして活動を全部止めることが必要です。そして身体全体の全体力・全細胞を「傷を治す」というプロジェクトに注入するわけです。これが怪我を治すということのすべての基本です。

TTPは、太平洋周辺の広い地域で自由貿易圏をつくり、国際競争を激化し、デフレ下で余っている「過剰な供給分」を海外への輸出に振り向けることで経済発展を遂げようという目的で議論されていきました。しかしこれは東日本の被災地にとってみれば、怪我人にカインフル剤を打ち、マラソンを走らせるようなものです。「過剰な供給分」を振り向ける対象は被災地であるはずですが、TTPへの参加によって日本の食糧供給地帯であった東北地域は、ふるさとの再生どころか壊滅的な被害を被ってしまいます。TTPに参加し、かつ東日本を復旧することは論理的整合性がとれません。これは絶対に避けなければなりません。

5. 激甚な被害をもたらす災害を想定した対応が急務

次に、東日本の復興と平行して強力に推進していくべき「列島強靱化10年計画」について述べていきます。ここで一番重要なもののひとつが首都機能の分散化です。中央防災会議の発表資料等による

と、首都圏内だけのGDPはおおよそ1・6兆ドル、日本円にして160兆円になります。これはスペインやブラジル、韓国やインド、あるいはG7の一員であるカナダ等の「一つの国」のGDPを軽く上回っています。しかもそれらの国よりも首都圏の総面積は圧倒的に小さい。つまり東京は1平方キロメートルあたりのGDPが世界一高く、類例を見ないほどの効率性を達成しています。これは同時に破壊される場合にも、効率的であるということ。首都直下型の地震が来た時の経済被害は112兆円に上るとの試算もなされています。

副首都機能について考える議員連盟も会合を行っています。議論されているような「地域主権を推進するための首都機能移転」ではなく、中央集権的な機能分散化が必要です。これは日本という国が致命傷を負わないための措置だからです。しかし首都機能の分散化には約10兆円のお金がかかると言われ、バブル崩壊以後この議論は急速に縮小されました。国土計画局には「首都機能移転企画課」があります。昨年の年間予算はたった3・5000万円、活動があまりに低調なため今年2月に廃止されることが決まりました。しかし復活させなければなりません。また、物流やエネルギーのインフラシステムも、過剰に効率化するのはなく、災害時を想定し多重化していく必要もあります。ひとつのシステムが機能しなくなっ

公述概要「日本復興計画に向けた政治決断を」

1. このたびの大震災は、文字通り、未曾有の震災であった。しかし、我が国日本は、ここで「うろたえず、状況を冷静に判断しつつ、なすべき対策を間違わずにきちんと行うことさえできれば」、この困難の危機を回避し、必ずや、復活を遂げることができる。
2. そのためどうすればいいのか、という内容を、「東日本復活五年計画」と「列島強化10年計画」の二つからなる「日本復興計画」にとりまとめた。
3. 「東日本復活」のビジョンは、「ふるさと再生」である。
4. この復興計画を完遂するには、何十兆円規模の財源が必要である。その財源は、
・日銀との協調（アコード）を前提とした国債発行を基本とすることが望ましい。
5. この被災地に、「関税障壁撤廃による諸外国からの安い農産品」という第二の津波が襲来すれば、ふるさとの再生どころか、ますます壊滅的な被害を当該地域が被ることは必定である。今必要なのは、被災地の復旧、復興と「保護」である。東日本復活のためには、TPPへの不参加の決定が「大前提」である。
6. 「列島強化計画」は、首都直下型地震、東海南海東南海地震、首都を直撃する大洪水、等に対処すべし。そのために、インフラや経済の「システム」そのものの「強靱さ」（レジリエンス）の確保が必要。だから、
・インフラ・エネルギーシステムの多重化
・BCP（事業継続計画）の義務化の検討
・食料とエネルギーの自給率の確保等が必要である。
7. 「コンクリートから人へ」という公共事業を削減する方針がなければ、お亡くなりにならずに済んだ方々が多数おられたであろうことは、間違いありません。本年の予算におきましても、是非とも、その点、最大限のご配慮を賜りますよう、一専門家として、そして、一国民として、強く、お願い申し上げます。

6.「コンクリートから人へ」ではなく人事を尽くした備えを
以前から、三陸沖北部地震の30年以内の発生率が90%、宮城県沖地震に至っては99%と予想されていた。東北地方で講演を行った際、インフラの必要性について県や国交省の方に尋ねると「お金がないし仕方がない」と苦笑されていました。予算さえあればやるべきことはいくらでもあったのです。しかし「コンクリートから人へ」というスローガンのもと、政策で

公共事業費が大きく削減されました。もともと公共事業費は前年比3%ずつ削減されていましたが、2010年度予算では前年比18.3%も減額された。2011年度予算では公共事業費をそこから更に5%削減しています。
インフラ政策とは、ハードとソフトがひとつのチームとなり国民を守ることです。しかし、リスクコミュニケーションなどソフト面ばかりが取りあげられ、メディアでは「道路やダムなどのインフラを整備しても仕方がない」というような情報がサブリーミナル的に流れていきます。今回も、津波が岩手県釜石市や宮古市田老町の。万里の長城。も乗り越えたため、堤防は無意味であるというような報道が繰り返されていました。
ところが、岩手県普代村では象徴的な出来事がありました。15mの堤防が築かれていた普代村では、3千人の村民のうち亡くなったのは一人でした。その一人は津波を見に行つてしまひ流された方で、それ以外は無傷だったのです。町を救ったのは、村人の反対にもめげず普代村村長が熱い思いで築いた堤防でした。当然ながらこれ

は結果論です。場合によっては18mの津波が来てこの村ですら壊滅的な被害を受けたかもしれない。しかし我々が震災や危機にどういう態度でぞまねばならないかといった時、日本人であれば誰もが知っている言葉があります。「人事を尽くして天命を待つ」です。
防災というのは基本的に災害が起る以前に人事を尽くすのです。人事を尽くす時に実現不可能な「パビロンの塔」を目指すのは愚かなことです。例えば予算すべてを堤防を築くことに使い、社会保険も何もしないのであれば、それは人事を尽くしていることにはなりません。できる範囲で最大限有事に思いを馳せ、できる限りのことをやっておく。そして津波が来たらそれと生きていく。これが「備えあれば憂いなし」です。備えによつて結果的に無事であるから憂いがないのではなく、備えさえしておけば覚悟ができるのです。だから憂いなくなるわけですが、人事を尽くすということが防災に対する対応の最も重要なことなのです。

以上の内容を含め復興政策を議論いただければ、日本は復活を期する強靱さを身につけることができるはずですが、

講演後質疑応答

鉄鋼業界でもいろいろと復興の議論をしているが、

Q せつかく良いプランをつくって、誰に示せばいいのか、出どころを間違いないと取りをされて実行されないままになってしまふことを心配している。実際に実行に移すときの当たり先はあるのか。

A 大事な質問だと思う。ひとつは非常に地道な話だが、一人でも多くの国民の皆様方にこの考え方を浸透させ世論をつくっていくこと。そのために公述会があり、インターネットがありホームページがあり出版がある。これは言ってみれば地ならしです。ただこれだけを行ってもなかなか増えがかないところがある。もうひとつは日本を守る気迫のある政党からリーダーが登場すれば、世論も動く可能性があるのではないかと考えている。

Q 岩手県花巻市で従業員300人弱の製造業を営んでおり、今回の震災では相当の被害を受けた。地元はほとんどが農業漁業を主な産業としているが、それだけではなかなか生きていけない。製造業で就労の機会を持ち、半農で暮らしていくことが、日本の産業景観や田園風景など文化を守り、また第一次産業を守ることに繋がる。そういう意味で地方製造業の成功モデルをつくるという理念を、社員と共有している。

「東日本復活5年計画」では就労支援について書かれているが、急激に

仕事も減るなかで、特に外から雇用機会を持ちこむような復興ではなく、地元の人たちの就労機会に繋がります。永続的にその場所に仕事が生まれるような復興支援について、考えがあったら教えていただきたい。

A まず第二に、被害を受けた企業には程度がいろいろあると思う。まったく被災していないが取引先が減り苦しんだ企業、一部損壊をした企業、相当激甚な被害を受けた企業、完全に立ち行かなくなった企業。そのなかで最初になされるべきことは、「ふるさと再生」である。人々の暮らし・人々の生業を復活させていくこと。しかることは再生できない。したがってその土地の産業がきちんとまわりだすことが、ふるさと再生の完了の大きなビジョンのひとつになるだろう。

被災企業については、まずぎりぎりのところで稼働できる企業については徹底的な支援を行う。直接的な金銭的支援、融資、あるいは技術的支援、いろいろな方法がある。つまりまだ残っている生産基盤を何とか支える支援を行う。ところが阪神淡路大震災の時もそうだったが、廃業せざるを得ない企業もある。次の段階は、確実に出てくる被災失業者の方々、に、復旧復興のための諸事業に力を貸していただくことである。その時に通常議論されるのがハードの部分、いわゆる復旧事業である。阪神淡路の時もそれが雇用に繋がったわけだが、ここにはふたつの問題がある。ひとつは被災された方がすべて建設作業に馴染むような方々なのかどうか。それだけではすべての失業者を吸収できない。そして、インフラの復旧事業というのは阪神淡路の時はいだいた3年間で終わっている。復旧復興のプロセスの初期的な作業が終わる、

結局その後再び失業してしまうことになってしまふ。これがふたつ目の問題点だ。

復旧が終わった後は復興が必要である。復興とは、例えばボランティアの方々をどう調整するかとか、今ある現場の企業を声をどう中央に届けるかなど、ふるさとが完全に再生されるまで、様々な事務作業がかなり長期にわたる必要になる。それらを統括し、就労を支援することをメインの活動に据えた法人をつくり円滑に遂行していく。それが「東日本復活5年計画」で設立を提案した「東日本ふるさと再生機構」である。計画では10年の期限を想定しているが、この法人が解散できるのは地域の生業が復活した時ということだ。その法人が求職者を雇い上げるわけだが、解散する時には次の職を斡旋するというのが最後の仕事になってくる。非常に厳しい状況ではあるが、そういうかたちで就労を守るという方法はあると考えている。

「列島強化論」をさらに詳しく知るために

藤井聡先生が公聴会で提示した緊急提案書「日本復興計画」は京都大学大学院工学研究科の研究室のホームページから読むことができます。
(<http://trans.kueiv.kyoto-u.ac.jp/tra/>)

また、今回の講演や公聴会では触れられなかった部分を足し、より詳しくまとめた著書「列島強化論」（文藝春秋）と「救国のレジリエンス―震災後、10倍豊かになる「ツボン」」（講談社）が近日発行される予定ですのでぜひ読んでください。

お知らせ

●第38回通常総会を6月15日(水)に開催

例年の通常総会後の機動隊員との懇親会は、まだ当分の間大勢の隊員が災害出動し、被災地復旧も予断を許さぬ状況と見込まれますので、誠に残念ながら今年は通常総会のみ開催し、機動隊員との懇親会は延期、後日改めて開催することといたしました。

総会後は、特別講演として警視庁機動隊員による災害出動報告を行います。また、講演終了後に会員同士の交流のため簡単な懇親会を設けております。多くの会員の皆様のご出席をお待ちしております。

第38回 通常総会

日 時	平成23年6月15日(水) 午後5時30分～6時
場 所	明治記念館 1階「末広の間」(東京都港区)
議 題	(1)平成22年度事業報告および収支決算報告承認の件 (2)平成23年度事業計画案および収支予算案承認の件 (3)理事および監事の選任の件 (4)法人移行の件：新定款(案)・申請スケジュール他
報告事項	東日本大震災災害出動の機動隊員等に対する 激励・見舞 募金活動について
特別講演会	明治記念館「末広の間」午後6時～6時30分 演題 東日本大震災 災害出動の活動報告 (警視庁機動隊)
懇 親 会	明治記念館 1階「相生の間」 午後6時30分～7時30分 (会員のみの簡単な懇親会となります)

寄稿

地震発生直後から被災地に入り活動を行った機動隊員の声をお届けします。

力強い機動隊を目指して

秋田県警察機動隊 関 知範



東北地方太平洋沖地震発生当日の平成23年3月11日から14日までの4日間、岩手県大船渡市に、広域緊急援助隊警備部隊の一員として出動した。

活動している最中も頻発する余震と、津波警報のサイレンの音が鳴りやむことはなく、時には緊急待避せざるをえないこともたびたびあり、常に命への危機感を抱きながらの緊張した勤務であった。そんな厳しい環境の中で、自らも震災被害に遭いながら気丈に振る舞い、必死に立ち向かうとする現地住民のたくましい姿は、我々部隊員に強い使命感和活動する力を与えてくれた。

時に機動隊員は、自分の身体の危険を顧みず、種々の事案に立ち

向かわなければならぬ。そのため強靱な肉体と逆境に負けない精神力、そして愚直に与えられた任務を全うするという強い意志が求められる。

今後も被災地への派遣が予想されるが、危機管理の中核部隊として様々な困難を克服しながら、日本の安全を守るための任務を完遂し、国民の期待に応えたいと思



ゴールデンウィーク警備完遂

今年のゴールデンウィークは4月29日(金)から5月8日(日)、間に平日を挟む「飛び石連休」であった。震災による旅行自粛の動きから、客足は昨年を大きく下回ると予測されていたが、高速道路は30キロ以上の渋滞が前年比74%増と大幅に増えた。国内航空は連休直前に予約が延び、前年比9・6%減と、予想より減少幅は縮小。JR全体の利用客は11%減であったが、JR九州は九州新幹線の全線開業の影響もあり前年よりも23%の大幅増加であった。

このような状況で今年も全国の機動隊員は各地で雑踏警備にあたった。特に国内最大級のイベント「博多どんたく港まつり」(5月3日・4日/福岡市民の祭り振興会主催)は昨年より5万人多い約230万人の人数となった。交通規制が敷かれた市道などで機動隊員は大いに活躍し、見事に警備を完遂させた。



博多どんたく港まつりの雑踏警備。「どんたく広場」のパレードを見守る

編集後記

連休中に訪ねた福島から宮城・岩手にかけての広大な被災地はどこも静かであった。震災から2カ月経ち道路が開通し車が通り人が働いているが、全ての物音が消えたようにしんとしていた。ただかきめめ鳴き声が聞こえるだけ、目の前の海も静まりかえり、一帯が折り込まれていくように感じた。被災地はあらゆるものが破壊尽くされてまだまだ凄惨な姿を呈しており、復旧には長い時間と膨大な労力を必要とするであろう。

そのような中で、全国から派遣された警察官や警察車両の活動が目立った。宮城県女川町では警視庁第6機動隊員が大量のがれきの中で黙々と行方不明者の捜索をしていた。福島原発の周辺では防護服を着て捜索されているとのこと、これから夏場の暑い季節を迎え鍛え抜かれた機動隊員といえども体力・精神力ともに消耗が激しくなるので、皆さんの健康を心からお祈り申し上げたい。当会としては、一面掲載のように募金活動を行い、激励・見舞の気持ちを届ける考えである。

今回の震災を教訓として、子孫のため安全安心な国造りに努力しなければならぬと思う。

(励ます会「事務局」)



女川町で捜索活動中の警視庁第6機動隊員



南相馬市の田んぼの中でのテトラポッド。津波の威力を示す

東日本大震災被災者の皆さまに心よりお見舞い申し上げます

新日本製鐵(株)
新日鉄エンジニアリング(株)
日鐵住金建材(株)
合同製鐵(株)
五十鈴(株)
岡田運輸(株)
青山特殊鋼(株)
(株)エース電研
(株)三栄商會
スカイコート(株)
日鐵住金鋼板(株)
日鐵商事(株)
山陽鋼業(株)
北越メタル(株)
自見産業(株)
豊鋼材工業(株)
橋山和生(株)
国見山(株)
光洋商事(株)
明鋼材(株)
日鐵東海鋼線(株)
日鐵物流(株)
(社)機動隊員等を励ます会
東北支部
(株)佐藤ホールディングス

CONTENTS

- P1 速報 第38回通常総会 開催
国内各所で警衛警備を完遂
- P2 Member's Lounge
「新日本製鐵株式會社の概況」 進藤 孝生 氏
- P4 警視庁支援対策室の活動

発行所
社団法人 機動隊員等を励ます会
〒144-0055 東京都大田区仲六郎4-32-5
発行人 羽矢 博
TEL 03(3739)0590
購読料 年間1,200円
(但し会費の中には購読料を含む)

はげまし

平成23年 6月号

For the Riot Policemen & Members

—No.435—

速報 第38回 通常総会 開催

来年度に一般社団法人移行へ
6月15日、明治記念館において機動隊員等を励ます会の第38回総会が開催された。今年の総会は、東日本大震災の災害出動中のため機動隊員や警察幹部との交流懇親会が延期となったにもかかわらず、例年通り羽矢博理事長以下130名を超える会員が出席した。

総会の冒頭、震災の犠牲者と殉職した30名の警察官を悼み、出席者全員で黙祷を捧げた。今年の議題としては、通例の22年度決算と23年度予算、理事・監事の選任の他に、法人移行のための定款の変更の案、移行時の理事の選任と盛り沢山であったが、原案通り決議された。これにより、当会は来年度に一般社団法人へ移行を目指して認可申請することとなった。

総会のあと、警視庁第三機動隊副隊長の千葉嘉信警視により「大震災警備出動報告」と題して特別講演会が開催され、生々しい災害出動現場の状況と隊員の活動の実態や苦労話などが報告された。講演会に引き続き簡単な懇親会を開催し、会員相互の交流を深めた。なお、総会の前には全国支部長会が開催され法人移行に関連した支部の諸課題について率直な意見交換を行った。移行のための定款の変更の案や理事体制など具体的な総会の議事内容についての報告は、次号に掲載することとする。



挨拶をする羽矢理事長



植樹祭が行われた和歌山県・南紀白浜空港にて。奉迎者に笑顔で手振り



宮城県南三陸町にて黙祷をささげる両陛下 (写真提供：共同通信社)



伊里前小学校のお召し車両通過場所にて警戒にあたる警戒員



沿道を警備する管区機動隊員

天皇皇后両陛下は東日本大震災発生後、避難所や被災地へ赴かれ被災者のお見舞いを続けられている。4月27日には震災後初めて東北地方の被災地をご訪問された。この日は宮城県南三陸町立伊里前小学校で黙祷され、町長から被災状況のご聴取、復興尽力者のお褒めを行われた。また避難所となつている南三陸町歌津中学校では被災者の話に熱心に耳を傾け、お声をかけられた。警戒員は威圧感を与えないよう私服で警戒にあたり、両陛下のご身辺の安全確保と奉迎者の雑踏事故防止に努めた。

両陛下は5月6日には福岩手県、5月11日には福島県、5月12日には新潟県、5月13日には山形県、5月14日には秋田県、5月15日には岩手県、5月16日には宮城県、5月17日には千葉県、5月18日には東京都、5月19日には神奈川県、5月20日には埼玉県、5月21日には千葉県、5月22日には東京都、5月23日には神奈川県、5月24日には埼玉県、5月25日には千葉県、5月26日には東京都、5月27日には神奈川県、5月28日には埼玉県、5月29日には千葉県、5月30日には東京都、5月31日には神奈川県、6月1日には埼玉県、6月2日には千葉県、6月3日には東京都、6月4日には神奈川県、6月5日には埼玉県、6月6日には千葉県、6月7日には東京都、6月8日には神奈川県、6月9日には埼玉県、6月10日には千葉県、6月11日には東京都、6月12日には神奈川県、6月13日には埼玉県、6月14日には千葉県、6月15日には東京都、6月16日には神奈川県、6月17日には埼玉県、6月18日には千葉県、6月19日には東京都、6月20日には神奈川県、6月21日には埼玉県、6月22日には千葉県、6月23日には東京都、6月24日には神奈川県、6月25日には埼玉県、6月26日には千葉県、6月27日には東京都、6月28日には神奈川県、6月29日には埼玉県、6月30日には千葉県、7月1日には東京都、7月2日には神奈川県、7月3日には埼玉県、7月4日には千葉県、7月5日には東京都、7月6日には神奈川県、7月7日には埼玉県、7月8日には千葉県、7月9日には東京都、7月10日には神奈川県、7月11日には埼玉県、7月12日には千葉県、7月13日には東京都、7月14日には神奈川県、7月15日には埼玉県、7月16日には千葉県、7月17日には東京都、7月18日には神奈川県、7月19日には埼玉県、7月20日には千葉県、7月21日には東京都、7月22日には神奈川県、7月23日には埼玉県、7月24日には千葉県、7月25日には東京都、7月26日には神奈川県、7月27日には埼玉県、7月28日には千葉県、7月29日には東京都、7月30日には神奈川県、7月31日には埼玉県、8月1日には千葉県、8月2日には東京都、8月3日には神奈川県、8月4日には埼玉県、8月5日には千葉県、8月6日には東京都、8月7日には神奈川県、8月8日には埼玉県、8月9日には千葉県、8月10日には東京都、8月11日には神奈川県、8月12日には埼玉県、8月13日には千葉県、8月14日には東京都、8月15日には神奈川県、8月16日には埼玉県、8月17日には千葉県、8月18日には東京都、8月19日には神奈川県、8月20日には埼玉県、8月21日には千葉県、8月22日には東京都、8月23日には神奈川県、8月24日には埼玉県、8月25日には千葉県、8月26日には東京都、8月27日には神奈川県、8月28日には埼玉県、8月29日には千葉県、8月30日には東京都、8月31日には神奈川県、9月1日には埼玉県、9月2日には千葉県、9月3日には東京都、9月4日には神奈川県、9月5日には埼玉県、9月6日には千葉県、9月7日には東京都、9月8日には神奈川県、9月9日には埼玉県、9月10日には千葉県、9月11日には東京都、9月12日には神奈川県、9月13日には埼玉県、9月14日には千葉県、9月15日には東京都、9月16日には神奈川県、9月17日には埼玉県、9月18日には千葉県、9月19日には東京都、9月20日には神奈川県、9月21日には埼玉県、9月22日には千葉県、9月23日には東京都、9月24日には神奈川県、9月25日には埼玉県、9月26日には千葉県、9月27日には東京都、9月28日には神奈川県、9月29日には埼玉県、9月30日には千葉県、10月1日には東京都、10月2日には神奈川県、10月3日には埼玉県、10月4日には千葉県、10月5日には東京都、10月6日には神奈川県、10月7日には埼玉県、10月8日には千葉県、10月9日には東京都、10月10日には神奈川県、10月11日には埼玉県、10月12日には千葉県、10月13日には東京都、10月14日には神奈川県、10月15日には埼玉県、10月16日には千葉県、10月17日には東京都、10月18日には神奈川県、10月19日には埼玉県、10月20日には千葉県、10月21日には東京都、10月22日には神奈川県、10月23日には埼玉県、10月24日には千葉県、10月25日には東京都、10月26日には神奈川県、10月27日には埼玉県、10月28日には千葉県、10月29日には東京都、10月30日には神奈川県、10月31日には埼玉県、11月1日には千葉県、11月2日には東京都、11月3日には神奈川県、11月4日には埼玉県、11月5日には千葉県、11月6日には東京都、11月7日には神奈川県、11月8日には埼玉県、11月9日には千葉県、11月10日には東京都、11月11日には神奈川県、11月12日には埼玉県、11月13日には千葉県、11月14日には東京都、11月15日には神奈川県、11月16日には埼玉県、11月17日には千葉県、11月18日には東京都、11月19日には神奈川県、11月20日には埼玉県、11月21日には千葉県、11月22日には東京都、11月23日には神奈川県、11月24日には埼玉県、11月25日には千葉県、11月26日には東京都、11月27日には神奈川県、11月28日には埼玉県、11月29日には千葉県、11月30日には東京都、12月1日には神奈川県、12月2日には埼玉県、12月3日には千葉県、12月4日には東京都、12月5日には神奈川県、12月6日には埼玉県、12月7日には千葉県、12月8日には東京都、12月9日には神奈川県、12月10日には埼玉県、12月11日には千葉県、12月12日には東京都、12月13日には神奈川県、12月14日には埼玉県、12月15日には千葉県、12月16日には東京都、12月17日には神奈川県、12月18日には埼玉県、12月19日には千葉県、12月20日には東京都、12月21日には神奈川県、12月22日には埼玉県、12月23日には千葉県、12月24日には東京都、12月25日には神奈川県、12月26日には埼玉県、12月27日には千葉県、12月28日には東京都、12月29日には神奈川県、12月30日には埼玉県、12月31日には千葉県、

被災地お見舞い、全国植樹祭等
多忙なご公務を陰で支える

被災地へのお見舞い

島県にもお見舞いのためご訪問された。

第62回全国植樹祭

去る5月22日、和歌山県田辺市にて「第62回全国植樹祭」が開催された。全国植樹祭は国土緑化運動の中心的行事であり、毎年、天皇皇后両陛下ご臨席のもと行われる。和歌山県では34年ぶり2回目の開催である。

今年のテーマは「緑の神話今そして未来へ紀州木の国から」。天皇皇后両陛下は、式典会場となった新庄総合公園で苗木のお手植えと種のお手撒きを行われた。和歌山県警察をはじめ管区機動隊員は、警衛警備に全力で取り組み、無事に任務を完遂させた。

国内各所で警衛警備を完遂

東日本大震災
被災者の皆さまに心より
お見舞い申し上げます

新日本製鐵(株)

新日鉄エンジニアリング(株)

日鐵住金建材(株)

合同製鐵(株)

五十鈴(株)

岡田運輸(株)

(株)エース電研

(株)エヌテック

草野産業(株)

芝本産業(株)

東京製綱(株)

(株)メタルワン

平和農産工業(株)

堀口海運(株)

(株)辻さく

共永興業(株)

新関西製鐵(株)

岡谷鋼機(株)

新日本製鐵(株)名古屋支店

ナイルレストラン

G・M・ナイル

TEL 03-3541-1824

Member's Lounge

機動隊員等を励ます会 5月の朝会講演会録

東日本大震災は、産業界にも様々なかたちで影響を与え、多くの生産活動のあり方が問われています。そのなかで日本の製造業の中核を担う新日本製鐵(株)の現状の課題や住友金属工業(株)との統合、今後の戦略等について代表取締役副社長の進藤孝生氏にご講演いただきました。



<5月19日のゲスト>

しんどう こうせい
進藤 孝生 氏

新日本製鐵株式会社・代表取締役副社長

プロフィール

1949年 秋田県生まれ

学歴

1973年 一橋大学経済学部経済学科 卒業

経歴

1973年 新日本製鐵(株)入社
1980年 人事部 米国へ留学
1982年 八幡製鐵所 人事室人事部長
1984年 総務部組織室部長
1988年 名古屋製鐵所 総務部総務室長
1991年 人事部派遣人事センター部長代理
1997年 八幡製鐵所 総務部長
2001年 本社 経営企画部部長
2005年 4月 参予(経営企画部長 委嘱)
6月 取締役(経営企画部長 委嘱)
2006年 執行役員(経営企画部長 委嘱)
2007年 執行役員(総務部長 委嘱)
2009年 4月 副社長執行役員
6月 代表取締役副社長

新日本製鐵株式会社の概況

まずはじめに、この場をお借りしまして東日本大震災でお亡くなりになった方々のご冥福をお祈りするとともに、被災者の皆様に心からお見舞い申し上げます。あわせて当社にも全国から多くのお見舞いと激励の言葉をいただき、心から感謝申し上げます。

1. 事業環境と住金との統合
現在、新日鉄グループは、国内グループ全体で約4,000万トンの粗鋼生産能力を持っています。高炉を所有する製鉄所が国内に5か所あり、日本の粗鋼生産量の29%を占めています。そのうち国内向けの出荷が60%、海外への輸出が40%という比率になっています。

世界的な位置付けでは、10年前の世界の鉄鋼業界とは様変わりしており、2009年の粗鋼生産量では当社は第6位でした。最も生産量の多い鉄鋼メーカーは、欧州のアルセロール・ミタル社です。2000年〜2008年にかけて、粗鋼生産量3位〜5位の欧州メーカーを合併・買収して巨大化

してきた企業で、2008年の粗鋼生産量は約1億トンにのびます。これは日本全体の生産規模に匹敵する量です。また、中国の鉄鋼メーカーも急速に発展しています。2000年はベトナム内に入っているのが宝山鋼鉄の1社のみでしたが、2008年は4社に増えています。リーマンショック後の2009年は、世界全体で粗鋼生産量がやや減少しましたが、中国は新たに1社がベトナム入りを果たしています【図1】。

当社は約1,300万トンの粗鋼生産量を持つ住友金属工業(株)と経営統合することで、5,000万トン規模となり世界2位の粗鋼規模に位置付けられる見込みです。

住金との統合については、2012年の10月1日を合併の期日として現在準備を進めています。合併の大きな目的は、グローバル戦略の推進及び加速化です。新日鉄は電磁を中心とした薄板、住金はシームレスを中心としたパイプと、それぞれの得意分野で世界一の技術を保有しています。これら

を統合することで幅の広い技術先進性を誇る会社をつくる計画です【図2】。また、重複投資の排除や生産品種の集約によるコストカットもかなり期待できると考えています。住金と新日鉄の人材・資金・技術を合わせることで相乗効果を出し、効率的に海外に進出していきます。

経営統合のプレスリリースを発表した本年2月3日以降、株価は新日鉄と住金で3対2の割合で推移していますが、だいたい高い時は新日鉄2兆円、住金1兆円が推移しています。交換比率もこれからファイナンス・シャルアドバイザー等の意見も聞きながら議論していきます。

2. 東日本大震災の影響について
東日本大震災による新日鉄の被災状況としては、釜石製鐵所が岸壁や揚陸設備に損傷を受けました。仙台にある日鐵住金建材は、一時工場全体が水没し現在は生産を停止しています。上期中に2つの鋼材生産ラインのうち1ラインの操業再開を目指していま

す。君津製鐵所は一時高炉を休止しましたが、現在は復旧しています。今われわれに期待されているのは、製鐵所の発電設備の稼働です。釜石製鐵所の電力供給設備は現在7月初旬の再稼働に向けて復旧中ですが、東北電力との契約電力が13・6万キロワットとなっています。これは岩手県の実家で使用する電力の約半分に相当します。これを再稼働させ、東北の電力不足を補うことが課題となっています。また、東京電力管内の君津製鐵所も共同火力発電所を持っており、認可出力の100万キロワットをフル稼働させ、故障しないよう注意を払いながら電力を供給しています。

四半期毎の全国の生産量ですが、2011年1〜3月期は約2,800万トンでしたが、2011年4〜6月期の見通しは大震災の影響があり2,690万トンに落ちています。懸念しているのが国内鋼材消費の落ち込みです。2007年度はおよそ8,000万トン程度の国内需要がありました。リーマンショックと政権交代による公共事業費の削減で、建築土木向けの鋼材消費量が落ち、2009年度は約6,000万トンに止まりました。震災による影響がどのように現れるかは現時点では不明ですが、自動車を

中心に内需はかなり減少しています。自動車の復興需要が高まるまではこの状況が続くのではないかと考えています。

3. 原料価格の高騰について
われわれの最大の課題は、原料価格のすさまじい高騰への対応です。例えば塊鉱石の場合、2004年には1トン当たり25ドル周辺であったものが2011年の1〜3月には196ドルとなっています【図3】。2003年〜2009年までの間、原料の高騰により累計で1兆1千億が減益要因になりました。これまでは原料高に對し製品の販売価格を値上げすることで何とかしのいできていました【図4】。しかし2010年から原料の価格設定の契約が1年間から四半期へと短期化し、原料価格改定に合わせ年度途中に販売価格を変更し、カバーすることが難しくなりました。これによ

図1 世界の粗鋼生産ランキング

2000年 847百万 ^ト	2008年 1,327百万 ^ト	2009年 1,229百万 ^ト
1 新日本製鐵(日本) 29.1	→ Arcelor Mittal(欧州) 103.3	Arcelor Mittal(欧州) 73.2
2 POSCO(韓国) 28.5	新日本製鐵(日本) 36.9	河北鋼鉄(中国) 40.2
3 Arbed(欧州) 24.1	宝山鋼鉄(中国) 35.4	宝山鋼鉄(中国) 38.9
4 LNM(欧州) 22.4	POSCO(韓国) 34.7	武漢鋼鉄(中国) 30.3
5 Usinor(欧州) 21.0	→ JFEスチール(日本) 33.7	POSCO(韓国) 29.5
6 NKK(日本) 20.6	河北鋼鉄(中国) 33.3	新日本製鐵(日本) 27.6
7 Corus(欧州) 20.0	武漢鋼鉄(中国) 27.8	江蘇沙鋼(中国) 26.4
8 Thyssen Krupp(欧州) 18.0	→ TATA Steel(インド) 24.4	山東鋼鉄(中国) 26.4
9 宝山鋼鉄(中国) 17.7	江蘇沙鋼(中国) 23.3	JFEスチール(日本) 26.3
10 Riva(欧州) 15.6	US Steel(米国) 23.2	TATA Steel(インド) 21.9
11 川崎製鐵(日本) 13.0		
12 住友金属工業(日本) 11.6	19 住友金属工業(日本) 13.9	23 住友金属工業(日本) 10.8

(出所: World Steel Association, Metal Bulletin)

図2 新日本製鐵(株)と住友金属工業(株)の概要

商号	新日本製鐵株式会社	住友金属工業株式会社
事業内容	1. 製鉄事業(鉄鋼の製造・販売) 2. エンジニアリング 3. 都市開発 4. 化学 5. 新素材 6. システムソリューション	1. 製鉄事業(鉄鋼の製造・販売) 2. 新素材 3. 土木・建築・プラント 4. 電子部品 5. 電力供給 6. システムソリューション
連結売上高(2010年度)	41,097億円	14,024億円
粗鋼生産(連結)(2010年)	3,448万 ^ト ／年	1,332万 ^ト ／年
資本金(2011年3月末)	4,195億円	2,620億円
総資産(2011年3月末)	50,008億円	24,407億円
従業員数(2010年3月末)	52,205人(単独15,845人)	23,674人(単独7,079人)



取材に協力いただいた支援対策室の方々。
(左から)滝澤警部補、村脇警部、
『はげまし』担当の蓮池警部補

東日本大震災 復興に向けて 全国の警察職員と心をひとつに—— 警視庁支援対策室の活動

東日本大震災の被災地には機動隊員をはじめとする警察職員が全国から集まり、様々な活動を展開している。

その円滑な遂行を支えているのが、警視庁による後方支援だ。

3月23日に設置された「警視庁支援対策室」を訪れ、その活動についてうかがった。



警視庁支援対策室(隠岐県)



ホテル武蔵坊に設置した一関拠点

勤務環境の改善を一日も早く

3月11日の地震発生を受け救出救助を開始した被災各県の機動隊員らは、当初冷え込む体育館などの施設に寝袋で寝泊まりし、食事も充分にとれないまま活動を続けていた。沿岸部の警察署は津波により流され、地元警察官も犠牲になった。「過酷な状況にある隊員らを何とか助けられないか、警視庁として被災地の警察に何かできることはないか」。こうした思いから3月23日に立ち上げられたのが警視庁支援対策室である。

最初の仕事は機動隊員等の勤務環境を整えること。支援対策室の立ち上げとともに現地の宿泊施設を確保するため、警視庁警備部の中里警視・村脇警部ら「先遣隊」が被災3県をまわった。村脇警部は「隊員から寒くて眠れないという声を聞いていた。一日も早く劣悪な環境から抜け出させてやりたかった」と当時を振り返る。「被災地で活動

する隊員のためと知ると『いくらでも協力します』と言ってくれる施設もあり、非常に有り難かった」。現地で9施設を確保し、さらに警視庁に戻り6施設を確保。約3千名を収容できる宿舎を用意した。

前線指揮の拠点を一関へ

4月1日には現地での活動拠点として「ホテル武蔵坊」(岩手県西盤井郡)に「警視庁支援対策室一関拠点」を設置した。東北自動車道に近く、岩手県南部や宮城県気仙沼方面に展開しやすいことが選定理由である。武蔵坊の駐車場には警視庁の支援物資を保管するテントを設置し、部屋には警察電話とファックスを引き、本格的な支援活動を開始した。

また、4月7日には警視庁内に副総監を本部長とする「警視庁支援対策本部」が設置された。被災地で支援を行う各部をまとめ、統括するためだ。その下に事務を取りまとめる支援対策室

の体制が整えられた。支援対策室は「物資・装備調達」「情報収集」「搬送・現地支援」の3班に分かれている。警備部、刑事部、交通部、総務部などから36名の職員が集まり、常時約10名が被災地に派遣されている。こうした態勢をとるのは警視庁では初めてのことである。

今も日本警察の力をひとつに

支援活動の基本原則は、「要請に対し、できることを何でもやる」ことだ。隊員が動きやすいようあらゆる活動が行われる。他県から部隊が入県した際には宿泊場所まで先導し、活動初日に定められた活動現場まで先導する。また重機が不足すれば、手配し現場まで運ぶ。道路が寸断されていた当初は、食糧など物資供給も重要な活動であった。さらに車両がパンクすれば整備班が迅速に対応する。隊員が活動中に怪我をしたり病気になるれば、病院に搬送する。遺体が発見されれば収容や搬送も手伝う。重機で道路を整備する自衛隊の要請を受け作業に協力したこともあったという。

また5月9日からは県の要請に基づき、ホテル「いづみや」(福島県福島市)を拠点に福島県での活動を開始した。案件で多いのは金庫の処理だという。相馬市や南相馬市では津波で流された千個以上の金庫が集められていた。それらを持ち主に返すため、鍵を壊しお札を洗って乾かすのである。



他県から集まった機動隊員に、捜索場所の指示を出す

多岐にわたる課題を集約し遂行する、その力の源は何か。村脇警部は次のように語る。「初めて被災地に入った時、その光景を前に声も出なかった。爆弾でも落とされたのかと思うほどの壊滅的な被害。それを見れば何かをしたいという気持ちに絶対になる。支援対策室のメンバーはほとんどが機動隊経験者。何ができるかを懸命に考えている。それが力を倍にしてくれる」

福島県への派遣を終えたばかりという警視庁警備課の滝澤警部補は、「福島県郡山市出身で、郷里を復興したいという思いで現地に行ってきた。福島原発まであと1キロという場所でも活動を行った。毎日大変だったが今こそ支援が必要な時。さまざまな場所から警察職員が来ていたが、日本警察はひとつだと感じた」と話す。

これまでに支援対策室から被災3県に派遣された職員は、延べ3,464名(5月22日現在)。地震発生から3か月が経過し復興も進むなか、一部の支援活動は縮小傾向にあるが、夏に入れば熱中症対策など新たな課題も

募金活動のご報告

多大なご協力ありがとうございました

災害出動の機動隊等への激励・見舞の募金活動は、6月末までの予定で東北を除く全国の全会員に呼び掛けておりますが、6月10日現在多くの皆様のご理解とご協力を得て、300名会員から合計900万円を超える募金を頂いております。心からお礼申し上げます。

はげまし基金の取崩しと合わせて、1,500万円分のゼリー飲料食品を被災3県警本部と警視庁を通じて、7月の酷暑の中で苦勞されている全国の災害出動の機動隊員等の皆さんにお渡しする予定です。



福島県で集められた金庫

出てくる。今後も要請がある限り支援対策室の活動は続く。

村脇警部は阪神大震災の時に第七機動隊員として被災地に派遣されている。「阪神で倒壊、東北で津波被害を経験した。この経験を東京での防災活動に役立てたい」と語る。未曾有の災害のなかで、臨機応変に支援活動を展開させる警察職員の方々に改めて感謝し、いま一度、復興のために私たちにできることは何かを考えたい。

CONTENTS

- P1 募金 総額1,156万円に達する
 P2 第38回通常総会を開催
 P3 懇親会で会員交流 絆をいっそう深める
 P4 特別講演 東日本大震災における警備出動報告
 警視庁第三機動隊 副隊長 警視 千葉 嘉信 氏

発行所
 社団法人 機動隊員等を励ます会
 〒144-0055 東京都大田区仲六路4-32-5
 発行人 羽矢 惇
 TEL 03(3739)0590
 FAX 03(3733)9072
 http://www.hagemashi.com

はげまし

平成23年
 7月号

For the Riot Policemen
 & Members

— No.436 —

<東日本大震災> 機動隊員等に対する激励・見舞いの募金活動 募金 総額1,156万円に達する

この度の東日本大震災における災害出動では、のべ42万6,500名もの全国の機動隊等の警察の皆さんが被災地へ派遣されており(6月30日現在)、今も岩手・宮城・福島等の3県で常時1万2,000人がさまざまな警察活動に全力で取り組んでいる。そのなかで当会は被災地で苦勞されている皆さんに感謝の気持ちを表し、激励のお見舞い品をお贈りする。5月から6月末まで募金活動を行った。多くの方からのご理解とご協力を得て、最終的に151社の法人会員と、200名の個人会員の方から合計1,156万円にのぼる募金をいただいた。これに当会の「はげまし基金」の一部を合わせ、見舞い品として合計1,500万円のゼリー飲料(21万6千個)を、被災3県警察本部と警視庁を通じて皆さんにお渡しすることになった。

当会では東日本大震災の被災地で活動を行う全国の機動隊員等の皆さんを応援・激励するために、5月から6月にかけて東北支部を除く全国の会員の皆様に募金と呼びかけました。最終的には、当初の目標を大きく上回る1,156万円の募金をお寄せいただきました。心より感謝申し上げます。

宮城県警察



目録を手にする竹内直人本部長(6月29日)

警視庁



池田克彦警視總監とともに。
 この日は小山蔵前理事長も同行した(7月6日)

岩手県警察



樹下尚本部長に目録を贈呈(6月30日)

福島県警察



松本光弘本部長(写真中央)を囲む(6月29日)

被災3県警察本部・警視庁に見舞い品目録贈呈
 総額1,500万円のゼリー飲料を寄付
 これに伴い、羽矢惇理事長は6月29日、30日の両日、被災3県の松本光弘福島県、竹内直人宮城県、樹下尚岩手県の県警察本部長、7月6日に小山相談役とともに池田克彦警視總監を訪問して、激励見舞品の目録を贈呈した(左記写真)。

総監や本部長からは、今回の励ます会からの激励見舞いは隊員達にとって力強い支援となると深く感謝された。「今回の災害警備出動は、これだけ広域にわたる悲惨な現場に遭遇することは全員が初めてであり、また交代制とはいえ出動が長く続いているため若い隊員といえども心身ともに厳しい状況にある。一方で、今回の出動ほど被災した住民から感謝の言葉をかけてもらったり、頭を下げてもらったりすることはなく、それが隊員達の何よりの支えとなっていて、改めて警察官としての役割や使命を自覚している。」

この励ます会からの激励・見舞いは、その意味で広く国民の感謝の気持ちの表れとして力強い支援であり、これから厳しい夏場を迎え極めてタイムリーな見舞いであるとして深く感謝申し上げる」との話があり、災害警備出動の生々しい事例や全国からの応援部隊に対する感謝の気持ち等をそれぞれ語ってくれた。

その中で、岩手県釜石警察署長が全国の応援部隊に対して贈っている、感謝のメッセージカードを紹介する。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災は、非情にも釜石警察署員3名の命を奪い、釜石警察署・沿岸運搬見守センター・交通機動隊沿岸分駐隊の庁舎をはじめ大規模な被害や3名の隊員に甚大な被害を及ぼしました。我々署員は、小笠野交番を拠点として、地域住民の生命、身体及び財産を保護し職務を全うすべく、不眠不休で災害警備実施に当たっていましたが、署を失い仲間を奪われた喪失と疲労が極限状態に達しつづつあったとき、全国から応援部隊として皆様方から駆けつけていただき、一瞬千の心強いご支援を賜り、それを支えとして継続して災害警備実施に当たることができました。余りにも甚大な被災規模ではありませんが、釜石警察署の署訓であります「鐵のごとし」～強いこと鐵のごとし 燃えること鐵のごとし 粘ること鐵のごとし 鍛えること鐵のごとし 贈送すること鐵のごとしを胸に刻みつつ、地域と一体となり、一日も早い復興に向け邁進する所存であります。御隊各位のご支援とご労苦に対し、深甚なる敬意と謝意を表する次第であります。

平成23年4月
 岩手県釜石警察署長 山内 義彦

釜石警察署長から、感謝を込めて全国の応援部隊に手渡されているメッセージカード



機動隊員等の皆さんに贈呈されたゼリー飲料

第38回 通常総会を開催

去る6月15日、明治記念館(東京都港区)において「第38回機動隊員等を励ます会 通常総会並びに懇親会」が開催されました。その詳細をご報告します。

通常総会は、羽矢惇理事長以下136名が出席し、冒頭で東日本大震災の犠牲者の方々のご冥福を祈り、全員で1分間の黙祷を捧げた。その後齋藤斗紀雄常任理事より「平成22年度事業報告及び平成22年度収支決算報告」「平成23年度事業計画案及び平成23年度収支予算案」「任期満了に伴う理事及び監事の選任」「新公益法人制度による法人移行」の四つの議案について説明があり、それぞれに審議のうえ、滞りなく承認された。なお、第3号議案、第4号議案の内容は以下に詳しく説明する。

し、理事長・副理事長4名、常任理事がそれぞれ再選された。

続いて

特別講演として警視庁第三機動隊千葉嘉信副隊長をお招きし「東日本大震災における警備出動報告」として一時間弱ほどご講演いただいた(4ページに掲載)。

その後、会員のみの簡単な懇親会を設け、互いの絆を深める有意義な時間となった。また、全国支部長会議も総会に先立ち開催され、一般社団法人への移行への対応や、今後の励ます会の方向性が話し合われた。



議案についての説明を行う羽矢理事長



総会に参加された会員の皆様

通常総会における議案について

第3号議案

任期満了に伴う理事及び監事の選任

第3号議案において左表の理事及び監事が選任された。

第4号議案

新法人制度による法人移行について

平成20年12月に施行された「公益法人制度改革3法」により、現在の民法43条に基づくすべての公益法人は、5年以内に一般社団法人へと移行することになっている。当会は、主管官庁である警察庁警備課その他関係先と協議を行い、来年4月1日に一般社団法人に移行することで、認可申請の準備を進めている。

認可申請にあたっては「定款の変更」と「理事の選任」が前提となっており、総会で決定することが必要である。したがってこの度の通常総会ではこの二点について以下のように提案され、審議のうえ承認を得た。

■定款の変更
の案
「一般社団法人機動隊員等を励ます会定款(案)」は、次の10章(全38条)と附則から構成されている。

○「社団法人機動隊員等を励ます会」の理事は、移行の登記の日をもって任期満了となる。そして移行時には全員が一旦退任するかたちをとる。

- 附則には、新法人の最初の理事長(代表理事)を羽矢惇とすることを明記している。
- 第1章「総則」
- 第2章「目的及び事業」
- 第3章「社員」
- 第4章「総会」
- 第5章「役員」
- 第6章「理事会」
- 第7章「資産及び会計」
- 第8章「定款の変更及び解散」
- 第9章「公告の方法」
- 第10章「事務局」
- 附則

移行時の役員の選任

定款の変更の案により、一般社団法人への移行の登記以後の理事を選任する必要がある。そこで一般社団法人へ移行の登記を停止条件として、次の14名を理事に選任した(表「移行時の理事一覧」参照)。なお、来年6月の通常総会において、東京地区の理事を増員する予定である。監事については、今回選任された2名が移行後も継続して監事となる。

移行時の理事一覧

	羽矢 惇	北陸	今井 幹文
本部	内田 耕造	千葉 菅 千太郎	高田 三郎
	増田 規一郎	名古屋 木村 純	勝哉
	栗川 勝俊	大阪 中国 郷口 勝哉	
	鈴木 貴士		
北海道	西村 孝治	九州	自見 榮祐
東北	下池 重義	本部	齋藤 斗紀雄

懇親会で会員交流 絆をいっそう深める

震災における機動隊の活躍に、 改めて支援の想いを強く



会員同志の親睦を
深めた懇親会



羽矢理事長挨拶 「力強く進んでいく」

通常総会の後は、例年のような機動隊員を多数招いた交流懇親会は、大震災警備出動中のため開催することができなかったが、折角の年一回の集まりであるので会員のみでささやかな懇親会を開催した。

はじめに全員で国歌を斉唱し、羽矢理事長が開会の挨拶を行った。

「昨年は秋に横浜でのAPEC、その後は大震災に対する出動で、機動隊の皆さんは本当にご苦労された一年だったと思います。この震災の後処理は大変長く続くことが予想され、まして福島での原発の問題もあります。我々も可能な限り機動隊に対する応援を続けてまいりる所存です。今回、皆様方に機動隊等の



羽矢理事長による開会の挨拶



乾杯の挨拶を行う内田副理事長



増田副理事長の一本締めで閉会

状況で活動を行う機動隊の方々の安全、被災者の方々と地域の日も早い復興の願いを込め乾杯が行われた。

ん。ぜひよろしくお願い申し上げます」

続いて、内田耕造副理事長が登壇し、次のように述べた。

「まず3月11日の震災以降、被災地に入って災害復旧に全力で活動されている機動隊の皆さんに感謝の言葉を申し上げます。大変過酷な状況のなか捜索や瓦礫の撤去、人命救助など、非常に厳しい活動を継続して行われ、機動隊の精神力、使命感に改めて感銘を受けました。私は5月の連休中に釜石市に行き、近隣の被災地も見たのですが、機動隊の皆さんの活動の成果が出ており、地域としてはすでに復興に向けて動きはじめていると感じました。

地震から三か月が経過して、被災者の方も未来のことに目を向けると改めて不安が高まってくることもあるようです。当会機関紙に女性の機動隊員の方が避難所をまわって心のケアを行っていることが紹介されていましたが、本当に素晴らしい活動を幅広く行っていると思います。マスコミには、なかなかこのような地道な活動が取り上げられず非常に残念なのですが、微力ながらも支援活動をさらに広げていきたいと改めて強く思った次第です」

そして、今後ますます過酷な

活動の輪を広げ、 充実した支援を

今年はお客様のいない会員だけの懇親会であったが、会場のあちこちで賑やかに歓談が行われた。その中で、この度の震災を受け「機動隊を励ます活動の大切さを改めて感じた」という会員の声も聞かれた。懇親会は短い時間ではあったが、会員同志の交流を深めた有意義な時間となった。

最後に増田規一郎副理事長が中締めとして壇上に上がり「先日訪れた石巻は、非常に悲惨な状況で、機動隊の方に頭が下がる思いで帰ってきました。感謝の気持ちを示すと同時に、その活躍を広くPRしていくことが我々の役割です。今、日本は大変大事な時であり、そういう時に社会の基盤の安定と安心をしつかり守っていただく機動隊の役割はますます高まっています。理事長のもとで連帯を強め、当会の活動をさらに充実させていきたいと思っています」と述べた。そして増田副理事長の発声のもと一本締めを行い、懇親会は幕を閉じた。なお、今年度の機動隊員を招いての交流懇親会は日を改めて開催する考えであり、開催を決定次第、会員の皆様にお知らせする。

東日本大震災 被災者の皆さまに心より お見舞い申し上げます

新日本製鐵(株)
新日鉄エンジニアリング(株)
日鐵住金建材(株)
合同製鐵(株)
五十鈴(株)
岡田運輸(株)
東鋼業(株)
(株)エース電研
岡部(株)
日鉄住金鋼板(株)
日鐵商事(株)
(株)メタルワン
平和農産工業(株)
太陽シャーリング(株)
藤田金屬(株)
新潟スチール(株)
自見産業(株)
高島秀一郎(株)
富士興業(株)
橋本尚吾(株)
東海鋼材工業(株)
豊田通商(株)
丸定産業(株)
宮崎精鋼(株)

特別講演 東日本大震災における警備 出動報告

警視庁第三機動隊 副隊長 警視 千葉 嘉信 氏

6月11日現在、被災3県は全国から派遣される警察と地元警察を合わせ、常時1万人を超える人員体制が敷かれ、活動が行われています。警視庁機動隊も既にほぼ全員が3回ほど被災地に派遣されています。

この度の通常総会では特別講演として、警視庁第三機動隊の千葉副隊長に被災地での活動状況についてお話しいただきました。



被災地での活動状況を語る千葉副隊長

ご遺体に自然と手を合わせる 若い隊員

機動隊員等を励ます会の皆様には平素から警察業務へのご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。これまで我々が岩手・福島・宮城の三県で行った捜索活動と被災地の状況についてご報告します。

まず岩手県では3月30日から4月6日まで、第三機動隊4個中隊、隊長以下200名が活動を行いました。活動現場である陸前高田市を5つの区域に分けて捜索を行い、24体の行方不明者を発見しました。現場で行方不明者を発見すると、きれいに拭いて搬送車で搬送します。これまでもご遺体を扱ったことのない若い隊員も多いのですが、皆ご遺体に自然に手を合わせて見送っていました。

捜索中には、避難されている被災者の方から「そこには老人夫婦がいた」とか、「近所のご老人がまだ見つからない。捜索をお願いできないか」などとよく声をかけられました。そしてその方に聞いた現場に行つて瓦礫を取り除くと、実際に行方不明者を発見することがありました。川沿いに住居が建ち



タイベックスーツを着用してから現場に向かいます。そして昼食時

原発20キロ圏内放射線との戦い

次に派遣されたのは福島県です。4月20日から27日まで5個中隊、隊長以下300名が現地に入りました。警戒区域に設定されている20キロ圏内には、住民は一人もいません。現場に派遣された我々と、地元警察と消防団、警察が依頼した重機のオペレーターだけです。原子力発電所から10キロメートル圏内は、洗濯物を干したままの家屋も多く、生活の痕跡は随所に見受けられますが、人のぬくもりが消えていました。耳に入ってくる音は、重機の音と風の音、そして波の音だけという状況でした。

福島では放射性物質が付着するのを防ぐためにタイベックスーツを着て、さらにゴーグル、マスク、ヘルメット、手袋を装着し活動を行いました。我々は毎朝、南相馬警察署の直近にある20キロ圏外の「道の駅」に集結し、

20キロ圏内での捜索時に着用するタイベックスーツ



には再び20キロ圏外の道の駅に集結し、タイベックスーツを脱ぎます。一度着用したタイベックスーツは廃棄しなければならぬため、昼食が済むと新しいものに替えて、再び現場に入ります。トイレの度にタイベックスーツを脱ぐわけにもいかず、午前中2時間、午後2時間半程度とどうしても活動時間が限られました。またポリエチレン製100%のタイベックスーツは非常に通気性が悪く、発汗すると蒸気がゴーグルの中に溜まり、視界が悪くなります。それでも捜索を続けるわけにはいかないのです。なかなか作業が思うように進みませんでした。派遣期間中に発見できた行方不明者は15体です。

自衛隊と協力し川底を丹念に捜索

宮城県では5月25日から6月1日の間、隊長以下200名の4個中隊で石巻警察署管内の捜索活動を行いました。湊地区の水産加工工場では、魚や加工した魚肉があたり一面に散乱し、魚の腐った臭いと地盤沈下により浮き出たヘド

ロや廃油の臭いが混ざり合い、ひどい悪臭がしていました。また派遣中に台風に見舞われ、地域一帯は少し雨が降っただけでも冠水してしまう状況でした。北上川の現場では、川の中に沈んだ瓦礫の間に行方不明者が挟まれている場合もあるため、自衛隊と協力して川を所要所でせき止め、水を抜いて川底を捜索しました。宮城県で発見できた行方不明者は3体です。一応の捜索はある程度終了しているため、今後は人の力では動かせない大きな瓦礫を重機で撤去しながらの捜索になっていくと思います。

被災者からの激励に士気を高める

被災地では晴れた日はもちろん、雨の日も雪の日も、現場に向かう早朝6時頃になると、我々の宿舎周辺に住む方々が道端に立つて「頑張つて」「ありがとう」「くれぐれも怪我に気をつけて」などと部隊車両一台一台に声をかけてくれました。また道端には「ありがとうございます」と書かれた張り紙が、あちこちにありました。

我々が行方不明者を発見すると、行方不明の家族を探されている方に「女房がまだ見つからないので、女性のご遺体だったから見せていただけませんか」と声をかけられることもありましたが、我々もそういった思いには極力応えようと、「どうぞご確認ください」と見ていただきました。たとえそれがご家族ではなかった場合でも、地元の方は手を合わせ涙しながら我々を激励してくれるのです。

また活動中に、行方不明のご家族を探していると思われる方に声をかけ、事情を聞いてその現場で捜索を行うことがよくありまし

た。陸前高田市では、行方不明となった交番所長の警視の方を探しているご家族と出会いました。最後まで地域の方を誘導し波にのまれてしまったそうです。そこで中隊から応援を呼び捜索活動を行いました。残念ながらその時には警視の方を発見することができなかつたのですが、後日このご家族から総監宛にお手紙をいただきましたのでその一部をご紹介します。「当日は寒風が強く、作業ははかどりませんでした。自分たちだけでお父さんを探さなければと悲痛な思いでいた時に、機動隊員の方から声をかけていただきました。事情を話す10名の隊員の方が駆けつけ、夕刻まで献身的に捜索をしてくださいました。警視庁機動隊の皆様は温情に接した長男は、お父さんの職場はすごい、と目頭を濡らしておりました。警視庁機動隊は強くやさしいと、感謝の言葉しか見当たりません」このような内容でした。

編集後記

今年も昨年以上の猛暑の夏を迎えた。被災地はそれぞれ大変なご苦労が続いている。被災地の復興が遅々として進まないことに国民の一人として普立ちと憤りを感じ、被災者の皆さんに申し訳ない思いである。一刻も早く体制を一新して、原発対応を含め復興から復興へ国全体が全力を傾注でき、世界にさすが日本であると評価されるように取り組んでいくことを願わずにはいられない。がんばろう！

(励ます会事務局)

CONTENTS

- P1 東日本大震災から半年 復興に向け災害警備活動を継続
激励見舞い品、被災3県及び警視庁に支援／警視総監交代
- P2 9月1日 警視庁震災警備総合訓練を実施
7月新潟・福島集中豪雨に機動隊出動
- P3 広島・長崎で平和祈念式典警備完遂／全日本教職員組合全国大会警備を支援
- P4 Member's Lounge「低炭素社会の実現に向けた発電技術開発」小豆畑 茂氏

発行所
社団法人 機動隊員等を励ます会
〒144-0055 東京都大田区仲六郷4-32-5
発行人 羽矢 惇
TEL 03(3739)0590
FAX 03(3733)9072
http://www.hagemashi.com

はげまし

平成23年 9月号

For the Riot Policemen & Members

—No.437—

東日本大震災から半年 厳しい暑さのなか、復興に向け災害警備活動を継続



8月10日、宮城県東松島市の捜索活動



宮城県沿岸部(宮城県機動隊/松島町)



8月9日、岩手県釜石市箱崎町での一斉捜索(岩手県第二機動隊)

3月11日に発生した東日本大震災から半年が経過した。全国の機動隊員等警察の皆さんは、夏場の炎天下においても熱中症対策を講じながら活動を継続してきた。現在の被災地での活動部隊は自県体制、特別派遣を合わせて約7,300人規模である(9月11日現在)。行方不明者はなお4,000名を超え、まだまだ活動の継続が必要である。

警察庁によると、被災地では現在、行方不明者の捜索において、岩手県内では宮古署・釜石署・大船渡署の3警察署が活動している。これまでにない甚大な被害をもたらした東日本大震災。行方不明者は未だ4,086名を数える(9月11日現在)。今後も全国からの継続派遣が予定されており、私たちもできる限りの支援を継続していきたい。



中野地区(3.5km圏内)



福島第一原発の警戒区域内(福島県双葉町)における捜索

の管内、宮城県内では気仙沼署・南三陸署・河北署・石巻署の4警察署管内、福島県内では沿岸部で重点的に捜索が行われ、現在も遺体を発見し、収容している。また仮設住宅等を移動交番車で巡回し、被災者の相談等に応じる活動や地域パトロールも行っている。原発周辺地域においても、犯罪防止のためのパトロールや警戒区域の検問等を行い、一時帰宅が実施された際には、住民を乗せたバスの先導及び立ち入り区域周辺の警戒も行った。

警視総監交代

第89代警視総監に樋口建史氏

8月5日付で人事が発令され、池田克彦警視総監が勇退し、第89代警視総監に警察庁生活安全局長を勤められていた樋口建史(ひぐちたてし)氏が就任した。

樋口氏は振り込み詐欺対策やネット上での子ども被害防止に取り組んできた。



プロフィール

1978年 警察庁入庁
1997年 警察庁生活安全局薬物対策課長
1999年 和歌山県警察本部長
2001年 警察庁長官官房国際部国際第一課長
2003年 警察庁刑事局刑事企画課長
2005年 北海道警察本部長
2008年 警視庁警務部長
2009年 警視庁副総監・犯罪抑止対策本部長
2010年 警察庁生活安全局長
2011年 警視総監

激励見舞い品(1,500万円相当 21万6千個のゼリー飲料)

被災3県及び警視庁に支援

～ご協力に感謝申し上げます～

既報のとおり、東日本大震災の被災地に出動する機動隊員等の皆さんを応援するため、当会が5月～6月に行った募金活動は総額1,156万円に達した。これに「はげまし基金」の一部と合わせて合計1,500万円分のゼリー飲料(計21万6千個)を激励見舞い品として贈呈した。

これらは7月下旬に大型トラックで被災3県警察及び警視庁指定の納入場所にそれぞれ54,000個ずつお届けした。荷下ろしの作業は警察の皆さんと連携をとりながら数時間をかけて行われた。

そして、真夏の厳しい暑さのなか被災地で活動を行う機動隊員等の皆さんのもとに届けられた。

なお、この活動に対して、7月31日に福島県警松本光弘本部長より感謝状をいただいた。

●7/29 警視庁



警視庁宿舎



警視庁機動隊訓練場

●7/29 宮城県警察本部



●7/29 岩手県警察学校



●7/19 福島県警察機動センター



今回の募金活動にご協力くださった法人名のみ一覧表を当会ホームページにも掲載させていただいております。誠にありがとうございました。

9月1日「防災の日」 巨大地震に万全の備えを 警視庁震災警備総合訓練を実施

9月1日は「防災の日」。いまだ生々しい記憶が残る東日本大震災を教訓に、東京都内ではこれまでにない大規模な交通規制や、警視庁内各部合同の実践的な訓練が行われた。

都内交差点など97か所を 交通規制

震度6強の首都直下型地震の発生を想定し、警視庁は9月1日午前9時から10分間、環状七号線や国道16号の交差点など97か所で交通規制を実施した。この交通規制は震災発生直後に交通の混乱を防止し、救出・救護活動が迅速に行えるよう緊急車両の通行路を確保するためのものである。これは東日本大震災発生時に一般車両が道路を塞いでしまい緊急通行車両が通行できず、迅速な対応に支障をきたしたことが教訓となっている。また、交通規制による渋滞の程度を把握することや、ドライバリーに震災時の状況を体感してもらうことも目的として掲げられていた。



環状七号線と国道16号の交差する葛飾区・青戸8丁目の交通規制

この交通規制には、警察・ボランティアを合わせて約2,500人が動員された。各自が適

確に交通整理を行い、トラブルや事故もなく無事に訓練を終了した。

生存者の救出救助、 被災者対応など総合的に訓練

同日、晴海ふ頭運動場（東京都中央区）では、午前9時から機動隊員の所属する警備部のか生活安全部・公安部・刑事部など警視庁内各部から約500人が参加する総合的な震災警備訓練が行われた。このように各部が連携して訓練を行うのは初めてのことである。

訓練は震度6強の首都直下型地震が発生したと想定し、本番さながらの緊迫感のなかで行われた。機動隊員らは現場の被災状況を自動二輪車に乗って確認したり、防護服を着用し倒壊した建物で有害物質の発生がないかを調査する訓練を行った。また、緊急交通路の確保のため重機によって自動車を進めたり、増水した水が堤防等を越えるのを防ぐための土のう積みみの訓練も実施した。レスキュー部隊は、倒壊家屋や自動車の中にいる生存者の救助活動を展開し、運動場近くの東京湾ではヘリコプターや船舶も出動し、水難救助訓練も行った。

さらに運動場には仮設の救護所や遺体安置所を設け、負傷者



車両のドアをこじあけ、負傷者の救出を行う

視察に訪れた樋口警視総監は「工夫を凝らした訓練を心強く感じた」と述べ、「いつ起きてもおかしくない首都直下型地震に備え、あらゆる事態を想定し災害警備の万全を期することを期待する」と隊員らを激励した。

機動隊員及び全国の警察の皆さんは巨大地震発生の「その日」に備え具体的な訓練を積み重ねている。私たちも防災への意識をさらに高め、万全に備えておきたい。



視察を終え挨拶する樋口警視総監

7月新潟・福島集中豪雨に機動隊出動

7月末に新潟県と福島県で発生した豪雨は、河川の氾濫や土砂災害など深刻な被害をもたらしました。現地での活動を行った新潟県警察に寄せていただいた寄稿をご紹介します。

「平成23年7月新潟・福島豪雨」に伴う 被災者等の救出救助活動

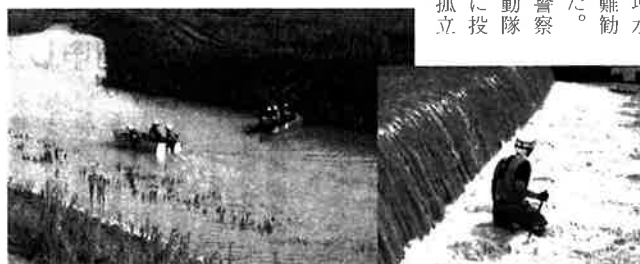
新潟県警察

7月27日から降り始めた雨は、新潟県内各地で激しさを増し、30日までの総雨量は600ミリを超え、各地で平成16年7月の「新潟・福島豪雨」の雨量を上回る記録的な豪雨となりました。

この豪雨は、死者4人、行方不明者1人、住家被害約1万3千棟の甚大な被害をもたらしたほか、河川の急激な増水により、44万人に対し、避難勧告・指示が発令されました。

これに対して、新潟県警察災害警備本部では、機動隊や管区機動隊を被災現場に投入し、舟艇部隊等により孤立した住民等60人を救助したほか、被災直後から長期にわたる行方不明者の捜索により4人のご遺体を収容しました。

今回の水害では、隊員一人ひとりが全力を尽くして任務を遂行し、速やかに初動措置を講じることができました。これは、7年前の「7・13新潟・福島豪雨」災害での経験を教訓として、これまで



氾濫した才歩川にて行方不明者の捜索を行う

二次災害に注意しながら捜索を進める(十日町署管内の羽根川)

9月に発生した台風12号も、紀伊半島を中心に死者・行方不明者が100名を超えるという、東日本大震災を連想させる記録的な豪雨災害をもたらしています。被害にあわれた方々にお見舞いを申し上げますとともに、機動隊をはじめ救援活動を行う皆様のご無事を祈りいたします。

東日本大震災
被災者の皆さまに心より
お見舞い申し上げます

新日本製鐵(株)
新日鉄エンジニアリング(株)
日鐵住金建材(株)
合同製鐵(株)
五十鈴(株)
岡田運輸(株)
愛知産業(株)
青山特殊鋼(株)
青エース電研(株)
東京製綱(株)
日鐵商事(株)
新越鋼機(株)
北越メタル(株)
不動鋼板工業(株)
黒田和生(株)
橋山和生(株)
国見山和生(株)
光洋商事(株)
カノークス(株)
新日本製鐵(株)名古屋支店
東海レベラー鋼業(株)
(社)機動隊員等を励ます会
東北支部
ナイルレストラン
G・M・ナイル
03-3541-1824

66回目の「原爆の日」

広島・長崎で平和祈念式典 大規模警備を無事完遂



原爆の子の像の前で警戒にあたる式典警戒隊



デモ規制のため平和公園東側を警備

原爆投下から66回目の夏を迎えた広島・長崎において、今年も平和祈念式典が開催された。警備には多数の機動隊員らが出動し、式典は無事に終了した。

広島

8月6日、広島市では午前8時から被爆66周年広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式が行われ、約5万人の出席者が平和記念公園（広島市中区）に参列した。式典には菅直人首相をはじめ66か国の政府代表が出席。平和宣言を行った松井一實市長は、核兵器廃絶に向け長崎市とともに力を注ぎ、核不拡散体制のための国際会議を広島で開催することを目指すとして述べた。また東日本大震災による原発事故にも触れ、政府に早急に具体策を講じるよう求めた。

式典は、機動隊をはじめ式典警戒隊、交通整理隊が最大約1,600人の規模で警備にあたり、トラブルの未然防止に万全を期した。結果、式典は厳粛な雰囲気の中滞りなく進み、式典妨害等の違法行為もなく警備を無事に完遂させた。

長崎

また長崎市では8月9日、爆心地近くの平和公園（長崎市松山町）において同市主催の長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典が営まれた。遺族や被爆者、菅首相のほか、過去最多となる44か国の政府代表らが出席し、参列者は約5,600人を数えた。この日は気温32度を超える酷暑。時折強い雨が降る厳しい気象条件のもと、機動隊員らは、式典会場周辺に設けた規制箇所において不審者や不審車両等の会場への接近・侵入を防ぐため検問や誘導等を実施した。そして特異事案等が発生することなく、式典は無事に終了した。



式典会場



平和公園前で警備体制を確認

全日本教職員組合 千葉支部が支援 全国大会警備

去る8月19日から21日、全日本教職員組合による「みんな21世紀の未来をひらく教育のつどい」教育研究全国集会2011」が千葉県内で開催された。全体集会が行われた「森のホール21」（千葉県松戸市）や県内5か所の教育フォーラムの会場周辺では、機動隊員らによる厳重な警備体制が敷かれた。19日は大雨洪水警報の発令されるなかでの警備となったが、機動隊員らは懸命に職務を遂行した。

なお大会千葉支部はこの警備に対し、栄養機能食品「塩熱サプリ」35万円相当の支援を行った。



大雨のなか沿道を警備



交通規制も実施された

講演後質疑応答（P4から）

Q 蓄電技術の開発はどこまで進んでいるのか。

A 今のところ電池が最も簡単だが値段が高い。その他には磁石の中に電流を溜め必要な時に取り出すという「SMES（超伝導電力貯蔵システム）」という仕組みが開発されたが、なかなか実用化に至らない。また、圧縮した空気を閉鎖後の炭鉱などに貯蔵し、必要な時に取り出して発電機を動かすというところも考えられている。

技術になるのに時間がかかる。また、機器数も多く、成熟した火力発電のコストに匹敵するにも時間がかかる。

Q 福島第一原発で利用されている仏アレバ社の技術は評価されているのか。

A 同社が原子力に関わる多くの技術を持っていることは確かだ。燃料のリサイクル設備をつくった経験もある。日本は燃料の処理施設を六ヶ所村に建設中であり、完成すればアレバ社並みに原子力に対してさまざまな技術を持つことになる。

Q 水力発電の議論はあまり出てこないが、大規模なダムに頼らない水力発電はないのか。

A 水力発電は水が落下する高低差があるほどエネルギーになるが、1m程度の落差では効率が悪く設備コストに見合うだけの電気が得られない。水源が豊富なブラジルやニュージーランドはほとんど水力で電気をつくっているが、日本では新設できるところが少ない。それから水力発電は環境的に必ずしも良くないのではないかと議論もある。

Q EUの中で国ごとに電源に対するインテレストが違っていることは、将来内部で摩擦を生む可能性があるのか。

Q 技術が海外に流出する問題に対して、日本は先進技術をどれだけキープできるのか。

A グリーンエネルギー用のテクノロジーは、CO2削減という人類全体に必要な技術だから、知財を無料にするよう新興国が要求している。しかしわれわれ民間企業の技術に対し何のインセンティブもなければその後の技術開発も進まないの、いろいろな仕組みを検討している。

Q 「石炭ガス化複合発電」は良いシステムだと思いが、なぜ日本ではそれほど開発されていないのか。

A この発電方式は、システムが微粉炭火力に比べると複雑で、習熟した

技術になるのに時間がかかる。また、機器数も多く、成熟した火力発電のコストに匹敵するにも時間がかかる。

Q 福島第一原発で利用されている仏アレバ社の技術は評価されているのか。

Member's Lounge

機動隊員等を励ます会 7月の朝食講演会録

東日本大震災以降、我が国のエネルギー政策は見直しを迫られ、大きな転換期を迎えています。今回は、日立製作所で長年エネルギー技術と環境を研究されてきた小豆畑茂氏にお越しいただき、火力・原子力、そして再生可能エネルギーについて発電に関する技術開発の状況を伺いました。

<7月14日のゲスト>

あずはた しげる
小豆畑 茂氏株式会社日立製作所 執行役員専務
日立グループ最高環境戦略責任者
兼 CTO 兼 研究開発本部長

プロフィール

1949年 茨城県生まれ

略歴

1975年 株式会社日立製作所入社
2003年 電力・電機開発研究所長
2005年 日立研究所長
2008年 地球環境戦略室長
2009年 執行役員専務 研究開発本部長
2011年 現職

低炭素社会の実現に向けた発電技術開発

ボイラーで燃やして蒸気を発生させ、蒸気タービンを回転させて電

1. 発電量の推移
世界の発電量は年々増加しています。その内訳を見ると、太陽光や原子力による発電の割合は世界的にはまだ少なく、最も普及しているのが石炭による火力発電です。石炭は世界各地に埋蔵され、価格も安く安定しています。しかし最もCO2排出量が多い発電方式なので、今後これをどう削減させるかが大きな課題です。

1970年代、日本は発電量の約7割が石油による火力発電でした。しかしオイルショック以降、発電方式の多様化を目指す「電源のベストミックス」という政策がとられ、石油は削減されました。その代わりに大きな伸びを示したのが原子力発電と天然ガスによる火力発電です。福島第一原発事故により原子力がこの先どうなるかはエネルギー政策の重要課題です。

2. 火力発電の仕組みと技術開発
石炭による火力発電は、石炭を

天然ガスによる火力発電は、ガスタービン内のコンプレッサー（圧縮機）で空気を加圧し、そこに燃料を混ぜ高温高圧の燃焼ガスにして、タービンの羽根に吹きつけて発電機を回転させる仕組みです。熱効率は石炭と同様に約40%ですが、効率を上げるためさまざまな発電方式が新たに開発されています。例えば「コンバインドサイクル発電」は、ガスタービンを回し終えた約600℃の排ガスを燃焼回収ボイラーで回収し、もう一度その熱で水を沸騰させ、蒸気で蒸気タービンを回転させる仕組みです。

また、現在開発しているA-HATは、水を利用して排熱を回収することで再びガスタービンを回転させることができるシステムです。蒸気タービンを必要とせず、低コストかつ高効率な技術です。これらの発電方式で、熱効率は50〜60%に高まります。それでもエネルギーの半分近くは捨てているというのが、今の発電技術の現状です。

3. 日本における原子力発電技術
原子力発電に関して、日本はアメリカ・フランスに次いで三番目に多く、中国も現在、猛烈な勢いで原子力発電所の建設を進め日本を追い上げています。原子炉にはBWR（沸騰水型炉）とPWR（加圧水型炉）という二つのタイプがあります。BWRは原子炉から出てきた蒸気をそのまま利用してタービンを回転させ、PWRは加熱した蒸気を再度熱交換し、放射能を含んでいない蒸気でタービンを回転させます。それぞれに一長一短があるシステムですが、世界的にはPWRが7割くらいで普及しています。日本は6割くらいがBWRを選んでいますが、原子力発電の歴史をみると、単基

あたりの発電出力を増加させることを課題として技術開発が進んできました。そのため新たに開発されたのが135万キロワットの出力が可能なABWR（改良型沸騰水型原子炉）です。そして海外では小さな原子炉に対する需要もあり、小さな容量で効率の高い原子炉をつくらうと「スモールBWR」や60万キロワット、90万キロワット級のABWRを製造する技術が開発されました。国内にも建設が認可されたり検討中のプラントがあります。が、今は福島事故の影響で一時的に停滞している状況です。

4. 再生可能エネルギーの普及率
太陽光発電の普及率はドイツ・スペイン・日本・アメリカという順番です。ドイツは2004年頃から急速に普及率を伸ばしていますが、その背景にあるのが「フィード・イン・タリフ（全量固定価格買取制度）」という政策です。太陽光発電による電気を電力会社が20年以上継続して買い取ることを約束するのですが、この制度により農地をつぶして太陽電池を置く人も現れました。スペインも同様の傾向にありますが、過剰なほど増加してしまったため政府が買取価格を引き下げ、沈黙化を図る状況になっています。日本は現在、余剰電力を10年間の固定で住宅用は1キロワットあたり42円で買い取ることにしています。これは、通常の電気使用料として支払う倍以上の価格です。（註…2011年8月26日の国会で日本でも全量買取法が成立）

太陽や風力などの再生可能エネルギーは、まだ既存の発電方式に勝るほどの安いエネルギーになっていません。自然条件に依存して

いることも課題で、技術開発にはまだまだ多くの時間が必要です。光を電気に変換する発電効率は20%未満で、発電量のピークは一日に1〜2時間程度しかありません。太陽光を自動追従するシステムをつけても、太陽が沈めば発電することではできません。また、太陽電池はシリコン系の半導体を使用すると価格が非常に高くなってしましますが、シリコンがまだ主流であるのが現状です。太陽光などの再生可能エネルギーではすべての電力をまかなえません。ヨーロッパは自国の不足分を他国による電気で補うことができます。脱原発を宣言しているイタリアも他の国から電気を購入しており、その中にはフランスの原子力も含まれています。

風力発電については、日本は風況の影響もあり、あまり伸びていません。風が止まった時や、強すぎる時の発電出力の変動が大きいのも特徴です。これを緩和するためには値段は高くなっていますが、蓄電池を設置し、発電できない時には電池に溜めた電気で送電するようなシステムもあります。

4. 低炭素社会を促進させるためのスマートグリッド
近年、再生可能エネルギーの安定化や、停電時間減少のため「スマートグリッド（次世代電力システム）」という考えが出てきました。これは供給側と需要側の双方で多様な電力の流れを制御し最適化させる「電力のネットワーク」を整備するということです。例えば家庭にもAMI（スマートメーター）を設置し、電気の利用状況に応じた料金設定等も考えられるでしょう。また、電気自動車への対応も目的

として掲げられています。電気自動車普及すると家庭で使用する電気が2〜3倍に跳ね上がるため、電力系統の負担が瞬間的に大きくなるのを防ぐ必要があるのです。現在、当社は青森県の六ヶ所村でスマートグリッドの実証実験を行っています。風力と太陽のエネルギーや電気自動車を使用し、生活するというものです。自然エネルギーによる発電量が増え、発電量の変動を吸収するために火力発電のガスタービンのような負荷変動に即応できる機械の導入が必要で、低炭素社会の実現のためには、このように多様な発電方式を取り入れていかなければならないのです。（P3に続く）

お知らせ

1. 延期していた本部総会時の懇親会は、今年は中止とします。

2. 支部総会

北陸支部総会 11月14日(月)

新潟支部総会 11月15日(火)

北海道支部総会 11月15日(火)

札幌ハイクホテル

中国支部総会 11月28日(月)

ANAクラウンプラザホテル広島

3. 監視庁機動隊の観閲式(予定)

11月9日(水) 7時15分(予定)

明治神宮外苑絵画館前

編集後記

今回の大震災の警備出動に関して、被災者から「被災地はがれきばかりで何もなく、夜間は真っ暗闇で不安で仕方ないが、警察のパトロールがあることで安心できる。実にありがたい。」と警察官の存在自体が住民から頼りにされ、感謝されている。今年、大震災を契機に国民も警察官自体もこのような警察の原点を改めて再確認する年になったと思う。我が国もこれから明るい未来が開けそう。

(励ます会事務局)

CONTENTS

- P1 被災3県 警察葬しめやかに挙行される
台風12号に伴う活動報告～和歌山県警察～
P2 機動隊員に聞く被災地での活動と、復興への想い
P4 Member's Lounge
「住宅の基礎と地盤」 若命 善雄 氏

発行所
社団法人 機動隊員等を励ます会
〒144-0055 東京都大田区仲六郷4-32-5
発行人 羽矢 博
TEL 03(3739)0590
FAX 03(3739)9072
http://www.hagemashi.com

はげまし

平成23年
10月号

For the Riot Policemen
& Members

— No.438 —

被災3県 警察葬しめやかに挙行される

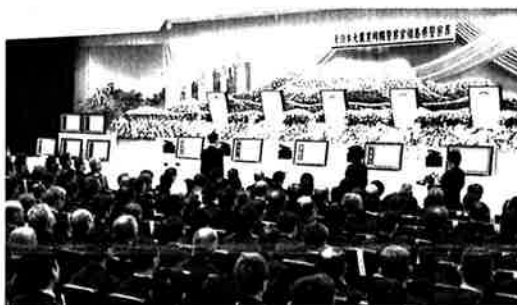


岩手県 「最後まで職務を全うしたことは全国29万警察職員の誇り」と弔辞を述べる安藤警察庁長官

東日本大震災で住民の避難誘導や救出中に殉職した警察官の方々を顕彰する「警察葬」が、岩手県・宮城県・福島県の各県で県警察主催のもと行われた。犠牲となった警察官は岩手県で11名(うち行方不明2名)、宮城県で14名(うち行方不明2名)、福島県で5名(うち行方不明1名)です。自らの危険も顧みず一人でも多くの命を救うために職務を全うした勇気ある行動を心に刻み、ご冥福を心よりお祈りします。



宮城県 遺族や警察関係者ら約1,200名が参列し、冥福を祈った



福島県 5人の遺影の前には警察勲功賞などが飾られ、献花が行われた

警察葬は、9月14日に福島県、9月17日に岩手県、9月20日に宮城県で執り行われた。遺族や同僚らが多数参列し、県警察本部長や安藤隆春警察庁長官らが弔辞を述べ、故人を偲んだ。
東日本大震災の死者は15,821名となり、行方不明者は未だ3,929名を数える。機動隊員等は白服体制・特別派遣を合わせて約5,500名が活動を続けている(10月5日現在)。改めて皆様の活動のご無事を祈りたい。

台風12号に伴う活動報告

和歌山県警察

9月に発生した台風12号は紀伊半島を中心に記録的豪雨をもたらした。土砂災害や河川のはん濫などにより被害が拡大し、9月30日現在、全国で死者73名、行方不明者20名を数える。現場で活動を行った和歌山県警察からいただいた寄稿を紹介する。

和歌山県警察における災害警備

警察本部警備部警備課 楠本 真

一、前兆

平成23年9月1日、古式捕鯨発祥の地である和歌山県太地町では、台風12号接近に伴う土砂降りの大雨の中、鯨漁解禁に伴う反捕鯨団体の活動が行われ、多くの報道陣と警戒する警察官が集まっていた。その後、数日で通過すると思われた台風12号は停滞し、大雨が和歌山県南部に降り続いた。

二、緊急出動
県警察では、9月2日から、機動隊、管区機動隊を出動待機させていたところ、4日午前3時過ぎ、和歌山県南部において甚大な被害の発生を認知し、機動隊・管



自衛隊と捜索方針等について協議する
兵庫県警管区機動隊

機動隊に加え、本県第二機動隊を招集派遣するとともに、大阪・京都・滋賀の広域緊急援助隊の派遣を受け懸念なる救出救助活動を展開し、負傷者・孤立者の救出や多くの遺体を収容した。その後も、大阪・兵庫の各県機動隊、管区機動隊の派遣をいただき、連日150名を超える体制で行方不明者の捜索活動を実施している。

区機動隊に緊急出動が下命され、機動隊長以下が現場急行した。

三、惨状
住宅地を覆い尽くす泥水、流出して折り重なる自動車、家屋の屋根や二階から助けを求める住民。およそ6か月前に、東北地方で日にした惨劇と同じような光景が広がっていた。県内で最も被害の大きかった那智勝浦町は、紀伊半島の南東部に位置し、世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の熊野エリアにあたる県内でも有数の観光地であったが、町内を流れる那智川が氾濫し、山の小さな溪流は大規模な土石流に覆われ、町の状況は一変していた。

四、機動隊の活動
先発していた機動隊・管区機動隊に加え、本県第二機動隊を招集派遣するとともに、大阪・京都・滋賀の広域緊急援助隊の派遣を受け懸念なる救出救助活動を展開し、負傷者・孤立者の救出や多くの遺体を収容した。その後も、大阪・兵庫の各県機動隊、管区機動隊の派遣をいただき、連日150名を超える体制で行方不明者の捜索活動を実施している。



被災した新宮警察署井関駐在所



那智勝浦町西山地区を捜索中の和歌山県警察広域緊急援助隊

五、機動隊員の思い
両親二人が行方不明となり、今も母親が行方不明となったままの娘さんが言っていた。「お母さんが戻るまで葬儀はしない」。この娘さんは10月に結婚式を控えている。我々機動隊員は、10月の結婚式を両親揃って迎えられるようにと、また、助けを待っている行方不明者を一刻も早く家族のもとに返してあげたいとの一念で、現在も泥まみれになりながら懸命の捜索活動を継続している。

東日本大震災から7か月

機動隊員に聞く

被災地での活動と、復興への想い

活動中の出来事、職務に対して感じたことなどを機動隊員の方々にアンケート形式でお聞きしました。

被災三県警察

【宮城県警察機動隊】

ヘリコプターで母娘救出

菅野敏義 24歳 3年目
震災から二日目、警視庁のヘリコプター「おおとり3号」に搭乗させて



いただき仙台東警察署管内の行方不明者捜索活動に従事した。津波の被害により一面瓦礫の海となった仙台市宮城野区蒲生地区を捜索していると、滞留した瓦礫の上に孤立している女性が、必死に白い旗様のものをこちらに向けて振り救助を求めている姿が目についた。急いで女性の元に降下すると、もう一人女の子が右腕に添え木をして座り込んでいた。女性は「私の娘を助けてください」と言い、自分より先に娘の救助を求めた。急いで二人を救助しヘリコプターに収容すると、親子はすぐに寄り添い、「もう大丈夫だよ」などと声を掛けあい、震えながら私に「ありがとう」という言葉を返してくれた。この言葉は今も忘れられない。

今回の大震災を体験して認識したこととは、機動隊員として、出動した現場で「できる者」と「できない者」の差があつてはならないことだ。警察の救助部隊の更なるレベルアップが必要不可欠である。

◆潜水・舟艇部隊における捜索活動

三浦毅 33歳 9年目



現在、県内各署から行方不明者の捜索要請が出された現場で潜水及び舟艇を出しての捜索活動に従事している。潜水活動における現場の視界はほぼゼロで、水中には車両や瓦礫等の危険なものが数多く沈んでいる。活動中に割れたガラスや家屋の残骸等がウェットスーツを切り裂き、怪我をすることもある。全ての現場に危険が伴うが、

う気持ちと行方不明者を最後の一人まで見つけ出すという使命感が活動の原動力となっている。

震災前に災害を想定した訓練を実施していたが、いざ現場となると訓練通りとはいかず、あわててしまったり焦ったりもあつた。しかし先警隊員がその都度フォローしてくれたので失敗することはなかった。先輩ができた今、自分の能力を高めて後輩のフォローをしてあげたい。

◆地域住民からの励ましを力に

平塚直人 25歳 2年目



3月下旬から警戒区域内の警戒活動に24時間体制で行っている。警戒区域への出動経路上に住む小学生達が夏休み期間の朝夕、「ファイト」「いっしょにがんばろう」と書かれた紙を持って私たち部隊に敬礼をしたり、手を振って「頑張れ」と声をかけてくれた。また、隣接や道ばたには地元住民の方が警察官等に対する励ましの言葉を書いて掲示した看板等がある。それらを見る度に私たちの活動に期待を寄せられていることを感じる。現在の私たちの活動は今まで以上の期待と任務が与えられていると実感している。今後も全力で任務にあたるので、引き続きご支援、ご協力をお願いします。

【若手県警察機動隊】

◆仲間の方まで使命を全うする

上林将太 25歳 2年目



警察学校時代の教官の死を目の当たりにした。まさか教官との別が、このような方々になると思つていなかったが、私たちの手で教官を捜し出し、ご家族の元へ帰せたことが教官への恩返しだったのかもしれない。私自身が沿岸出身で家族は無事だったが、家をはじめ思い出はすべて流れてしまった。そして多くの仲間も失ったが、その仲間や生まれ育った故郷の分まで自分に与えられた使命を全うしなければならぬと改めて強く思うようになった。捜索をしている中で地元の方に「ありがとう、ご苦労様です」

と声をかけていただくことが何よりも輝く活力になっている。復興まで時間がかかると言うが一致団結、一致協力し前進していきたい。

震災直後から各都道府県によるたくさんのお物資をいただいた。「励ます会」様からも物資が不足しているなか、心温まる品々をいただいた感謝しています。そして新日本製鐵釜石製鐵所様からは、被災し大変な時にもかわらず敷地、施設の提供をいただきました。ありがとうございます。

◆一人でも多くの方を家族の元へ

谷地浩太 25歳 2年目



震災直後から、救助・救助及び捜索活動に継続して従事している。妻、子供を亡くされた方が、子供がまだ見つかりたくない一人でも瓦礫の中を捜した下水の側溝を掘り返しているのを見かけ、当部隊で協力し一緒に捜索をした。一人でも多くの方を家族の元へ帰してあげたいという気持ち、自身にできることを全力でやりたいという使命感、そして先輩・同期、後輩の絆が活動の原動力となっている。

【他都府県からの応援

◆関東管区機動隊】

◆流されたけん銃庫を発見

白木啓介 36歳 1年目

これまで5回派遣され、行方不明者とご遺体の捜索、収容、警察装備品区域の検閲を行った。最初に被災地に入った時には、あまりの被害状況に途方に暮れた。生活感の残る破壊された家等を見ると非常に悲しくなり、地震と津波を恨んだ。また、派遣当初はあまりの寒さで眠れず余震も怖かった。発見が不可能だと感じていた駐在所のけん銃庫を発見した時は身震いした。被災者を助けたいという気持ちが活動の原動力となっている。

【大阪府警察機動隊】

◆地元警察官の言葉に涙

安東大志 28歳 3年目

被災現場でともに活動する機会があった現地の警察官が「自分の家族の安否はわからないが、一番にしなければならぬことは市民を一人でも多く家族に再会させてあげること」と涙ながらに話された時、自然と涙がこみ上げてきた。捜索中にエンジンキーがついたままのバスターを発見した時は、乗っていた警察官も避難誘導中に津波に襲われたであろうことを思うと、最後まで市民の命を守るため命を賭して任務を遂行していたことに対し改めて警察官としての職務の重さを痛感した。胸が締めつけられる思いだった。

身体的な疲労は当然あるが、宿舎に戻って行方不明者のことを思うと、早く捜索活動に従事したいという気持ちは抑えることができなかった。

【九州管区機動隊】

◆手作業による瓦礫撤去

古川 篤 32歳 1年目

ご主人が未だ行方不明であると話された女性の意を受けて、自宅の瓦礫撤去と堆積した土砂の掘り起こしを行った。途中昼食を挟んで現場に戻ると、女性が「本当にありがとうございまして」等と書かれた板切れを置いているのを発見した。その板は現在小隊バス内に掲げ、隊員の励みになっている。

捜索は場所によって重機と並行して行ったが、部隊は全員手作業で瓦礫を撤去した。山積みした瓦礫を見た重機オペレーターや被災者の方が「まさか、これだけ手作業でやったのですか」と驚いていた。一心不乱に任務に打ち込み大きな力を生んだと感じた。

震災発生から100日が経過して発見されたご遺体の遺族が発見現場に花を手向けに来られ、「あきらめようとしていた矢先に発見されたとの連絡をいただき、本当に嬉しかった。やっと気持ちの整理がついた」と涙と頭を下げられた。被災者遺族のいつまでも消えなかった深い悲しみは我々にはどうしようもないが、気持ちの整理をつけさせてあげること、すなわち行方不明者発見の重要性を改めて認識し、ますます活動に対する意欲が湧いた。

東日本大震災
被災者の皆さまに心より
お見舞い申し上げます

新日本製鐵(株)

新日鉄エンジニアリング(株)

日鐵住金建材(株)

合同製鐵(株)

五十鈴(株)

岡田運輸(株)

(株)エース電研

草野産業(株)

(株)三栄商會

スカイコート(株)

日鉄住金鋼板(株)

(株)エイヴイ

平和農産工業(株)

太陽シャーリング(株)

藤田金屬(株)

自見産業(株)

豊鋼材工業(株)

新関西製鐵(株)

富士興業(株)

明鋼材(株)

日鐵物流(株)

丸定産業(株)

(社)機動隊員等を励ます会
北海道支部

【監視庁機動隊】

◆4月上旬、福島県で初めて20キロ圏内に入った。サードエリアで老夫婦に行き先を問かれ答えると「私たちも南相馬市に住んでいて、原発が爆発した時に急いで何も持たずに車で避難した。何人亡くなっているかわかりません。よろしくお願ひします」と言われた時、とんでもないことが起きてしまったと思った。余震は続き、見えない放射能に不安を抱きながら作業となった。自分の子供と同じ年頃のご遺体を発見し、言葉に詰まってしまう隊員もいたが、一刻も早く家族の元へ帰してあげたいとの思いで作業にあたった。もったいご遺体を見つけてあげられんじやないかと自責の念に駆られながら福島県派遣を終えた。(派遣4回)

◆被災ガレキの散乱の状況を目にして、日本とは思えなかった。現場に向かう途中で、我々の部隊車両に対し、深々と頭を下げている人や手を振っている人の姿を見た時、とても感動し、一人でも多くの行方不明者を発見しなければと思った。(派遣3回)

◆朝早くに宿舎を出発していたが、近所の方々が毎朝、応援してくださった。津波の被害にあった地区はもちろんだが、福島での立入禁止区域は悲惨な状況だった。少しでも早く、少しでも多くの被災者の方々の役に立たなければと感じた。(派遣2回)

◆沿岸部をパトロールしている際、漁師の方々が沿岸部を見回っていて、行方不明者の捜索や使っていた漁具を集めているところを見た。漁業の復興に対する思いを聞き、被災地のために何ができるか改めて考えた。仮設住居を訪問すると警察に対しての期待や信頼を感じた。警察の重要性を改めて考え、職責の自覚を持つことができた。(派遣5回)

◆遺体捜索や死亡届受付事務などを行った。活動に対して地元の方から「頑張ってください。応援しています」と逆にお励みされた。悲しみを表に出さず、頑張っている被災地の方の姿が活動の原動力になっている。(派遣6回)

◆岩手派遣で海上に流れ孤島した建物内からご遺体を発見し、ロープを利用して搬送した。レスキューの技術が役に立った。現地でできることは限られており、自分の力不足を痛感した。この経験を活かし訓練を重ねていくことが重要だと思った。(派遣2回)

◆陸前高田市の様子を目の当たりにして、自分が何をすればいいのかわからなくなった。当時の感情は今でも忘れないが、うまく言葉では言い表せない。宮城県の大川小学校での捜索では、毎日行方不明の児童の母親が捜索現場に来て、警察官の捜索活動を見守っていた。また別の児童の保護者は慰霊碑にメッセージを書いた色紙を置いていた。その色紙を読んだ時、自然と涙が流れた。今後、全ての部隊の活動を終了しても被災地の方の長い戦いはずっと続く。今回の災害を風化させることなく、どんな形でも支援の継続が必要だ。(派遣4回)

◆捜索中に、通りすがりの重機オペレーターの方が「私も手伝います」と言い、捜索活動に協力してくれた。地元の方、企業の方が通る度に挨拶や応援をしてくれてやる気が出た。被災地での活動を経験

し、有事の際にいち早く出動できる機動隊に入って良かったと思った。(派遣5回)

◆震災7日目に陸前高田市に派遣され現地に入ったが、瓦礫の山と化した街の中を泣き叫びながら安否不明の身内を探している父親とお子さんの姿を見た時に、熱く込み上げて来る思いがあった。宮城県派遣の際に、自らも被災し奥さんと6歳のお子さんの安否が判明しないまま、捜索活動に従事している県警の方と接した際、改めて一人でも多くの方をご家族の元へ帰したいと強く思った。(派遣3回)

◆最初に福島第一原発への放水その後捜索活動と警戒活動を行った。活動現場へ向かう途中の道路で子供達がプラカードに「頑張れ」「ありがとう」等のメッセージを私たちに贈ってくれた。全国の警察が招集され、組織全体で取り組んでいる。組織の重要性を感じた。(派遣6回)

◆宮城県に行った際、近所のお婆さんが毎日、私たちの出発、帰宿に合わせて見送り、出迎えて下さり、「お帰りがいいの言葉が嬉しかった。災害派遣は大変な勤務だがその分、多くのことを学ぶことができた。(派遣3回)

◆3月14日からの1回目の派遣で宮城県石巻市の河北地区の捜索活動を行った。雄勝病院内を捜索した際の壮絶な光景、多数の老人のご遺体には言葉に表せない程の衝撃を受けた。福島県派遣中に、避難老人宅を訪れ話を聞くと「震災前の日常でも人が訪ねてくることなど種なのに、東京から来てくれた本当に嬉しい」

と感謝の言葉をいただいた。災害救助活動は部隊が丸となり「被災者のために」というただ一つの目的に向け、総合力を発揮する。改めて部隊活動の必要性を認識した。(派遣5回)

◆岩手県に派遣され、宿舎から活動現場に向かう途中で、毎朝ある会社の社員全員が道路に出て部隊車両が全て通りすぎるまで頭を下げて見送ってくれた。毎朝その姿を見てる度に隊員たちの士気が上がっていた。また、避難所の方から「お巡りさんの家族や住んでいる所は大丈夫ですか」と声を掛けてくれた。東京から来ていた私の家族の心配をしてくれる被災者の温かさ

に心を打たれた。被災地で何もない中、懸命にそして遅く復興に向け作業をしている被災者を見ると警察官として見習わなければならないことがたくさんある。(派遣5回)

◆手作業による行方不明者の捜索や、パトカーによる警ら活動を行ってきた。被災地のいち早い復興を願う気持ちと、同僚との会話が活動の原動力となっていた。今回のような広範囲に渡る被災地においては機動隊の組織力とマンパワーを実感できた。(派遣3回)

◆陸前高田市は、あたりが瓦礫の山で大きなショッピングセンターも無残な姿になっており、津波の恐ろしさを感じた。宮城県の派遣で、地元民間業者の方と仲良くなり、活動最終日に帰隊する時私たちに感謝の言葉をいただきました。とても嬉しかった。(派遣4回)

◆災害発生後、急遽現場に行くことになり、十分な準備もできず、電気・ガス・水道の無い中、限られた水で作った

カップラーメンを5人で分けて食べた。今回の経験で改めて部隊活動と日頃の訓練の大切さを感じた。(派遣4回)

◆被災地の様子はニュース等で見ていたが、実際に現場を見た時は、これが本当に同じ日本とは思えなかった。警察官になつていなければ、今回の震災もテレビ等で見ているだけで、一人では何もできないと思う。警察活動を通じて被災者の方たちから感謝され、家族から励まされ、自分が大きくなった気持ちだ。(派遣3回)

◆5月の岩手派遣では主に行方不明者の捜索、遺品の整理や拾得物の整理をし、7月の福島派遣では犯罪抑止のため巡回パトロールや職務質問を行った。今年は地震や台風等の自然災害で日本中が被害に遭い、多くのものを失ったが、これをきっかけに良い方向に向かっていることがある。それは、一人ひとりの意識である。私も以前は自分のことだけで精一杯だったが、今回の震災で協力すること、人のため自分のために努力することを学んだ。一人ひとりの意識の高まりにより、今の日本は徐々に復興へと向かっていると思う。(派遣2回)

◆震災翌日に宮城県に派遣された。まだ津波の水が引ききっておらず、町全体が水にのまれている現状を目の当たりにして、自然の偉大さを感じた。最初の派遣の終了時は、もったいなくなるのができたのではと後悔することもあったが、少しずつでも復興していく被災地を見て、今では少しでも力になれて良かったと思えるようになった。(派遣4回)

◆アンケートにご協力いただいた皆様、本当にありがとうございます。

講演後質疑応答 (P4から5へ)

Q 4つある沈下修正工法のなかで、おすすめはどれか。

A 沈下の度合いにもよるが、「鋼管を用いるアンダーピニング工法」と「耐圧版工法」は、ジャッキを用いて基礎から持ち上げるので、10cm・20cm以上の沈下に適している。「注入工法」は地盤に薬液を注入して持ち上げるが、非常に大きな圧力をかけなければならないため、沈下は10cm以下が望ましい。20cm程度になると薬液の注入量が増え、隣の家まで持ち上げてしまう可能性がある。「プッシュアップ工法」は、基礎と土台の間を持ち上げるため、5cm程度が妥当と思われる。「一番多く使用されているのは「耐圧版工法」である。

Q 液状化は、埋め立ての経過年数によって起きにくくなるのか。

A 古くても地盤が砂であれば液状化は起きる。今回の地震で、ある線路を挟んで一方は液状化が起きず、もう一方は起きた地域があった。それは埋める土が違っていたからである。建設残土(ガラ)や粘土を使用して埋めていた時代があり、今回液状化が起きたのは、水底を掘る「浚渫」を行ったうえで土砂を多く使用している場所だった。砂は時間とともに自然と締まることはなく、セメントを混ぜるなど強制的に手を加えなければ締めることができない。粘土や建設残土で埋めていたら液状化は起こらなかったと考えられる。

Q 地盤沈下は粘性土のほ

A 地震が来なければ、地盤沈下を起すのは多くが粘性土である。砂の場合は地盤沈下はしない。関西国際空港も盛土をしたところなので地盤沈下して問題となっているが、海底粘土が影響している。私たちが開発している基礎工法は、すべて粘性土が地盤沈下しないための工法である。

Q 自宅が浦安にある。細い鋼管を打っていたため砂は吹き出たが、実質被害はなかった。しかし地下では何が起こっているのか。

A 浦安の場合、液状化で水が出た砂層は締めまり、その上にある層である粘性土などは緩くなっていることが考えられる。

Q 次にいつ地震が起きるかが問題だが、活断層の直下型の場合、プレート型の地震に比べ揺れの時間が短いということは、液状化が起きない可能性は高いのか。

A 液状化が生じない可能性は大きい。しかしいったん住宅地で液状化が起きると、抑止することは難しく、有効な対処法もないのが現状である。

若命善雄氏が会長を務める株式会社設計室ソイルでは、個々の住宅に適した基礎と地盤に関する調査・設計・工法の開発及びコンサルティングを行っています。

【問合せ】
03-6364-9876
<http://www.soil-design.co.jp>

Q 地盤沈下は粘性土のほ

Q 地盤沈下は粘性土のほ

Member's Lounge

機動隊員等を励ます会 9月の朝食講演会録

東日本大震災では千葉県などで液状化も大きな問題となりました。また、最近は大雨や台風による土砂災害が全国で深刻な被害をもたらしています。今回は建築物の基礎、地盤の専門家であり、住宅の基礎と地盤のコンサルティング事業を行う若命善雄氏にお越しいただき、お話を伺いました。

<9月15日のゲスト>

わかめ よしお
若命 善雄 氏株式会社設計室ソイル 代表取締役会長
博士(工学)、技術士(土質・基礎)、一級建築士

プロフィール

1941年 神奈川県生まれ

略歴

1963年 日本大学理工学部建築学科卒業

大成建設株式会社入社

技術本部技術研究所土質基礎研究室長

1985年 地盤研究部長

1994年 株式会社設計室ソイル設立

1998年 株式会社設計室ソイル設立

著書(共著)

『建築家のための土質と基礎「ザ・ソイル」Ⅰ～Ⅲ(建築技術)』
『建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針(日本建築センター)』
ほか

住宅の基礎と地盤―地震による地盤の液状化対策―

1. 住まいに適した環境と地盤

建物を建てるのに安全な場所として建築基準法で示されているのは、振動や騒音・土壌汚染・水害・地震・凍害といった問題がクリアされている場所です。住まいの地盤の安全性を考える時には、敷地内だけでなく周辺の地盤も見ることが必要です。地盤は、その成り立ちによって性質が異なります。川から土砂が運ばれて平らになった地盤(沖積平野)や、火山からの噴出物が堆積した地盤(関東ローム)などがあり、問題のある地盤として、腐葉土や泥炭といった土とは言いえない特殊土があります。

地盤は土粒子と水で形成されており、水が多いと柔らかく沈下しやすい地盤、少ないと固い地盤となります。土の性質は、強さやねばりけといった力学的性質と、粒子の重さや大きさといった物理的性質が密接に関係しています。分類すると、レキ・砂・シルト・粘土の4種類に分かれます。砂と粘土の違いは、粒径が約0.1mm以下であれば粘土、約0.1

2. なぜ地盤沈下が起こるのか

例えばうどん粉を練る時に、ベタベタした状態にするためには、お米に水を入れるよりかなりの量の水が必要で、ところが、外からはどれだけの量の水が中に含まれているかわかりにくい。これと同じ状態が粘性土です。このような粘性土に荷重をかけると、水が出て長期間にわたって沈下が続きます。この現象を「圧密沈下」といいます。一方、砂質土の地盤は荷重がかかるとすぐに沈下(即時沈下)しますが、短時間で収まり沈下量も小さいのが特徴です。この沈下量は地盤が均一ではないので計算上と実際の沈下量にバラツキが大きいので、沈下のリスクを負っている家が多く存在します。

3. 震災による液状化問題

東日本大震災では浦安や都市圏での液状化が大きな問題になりました。地震による液状化が起きやすいのは、地下水位が高く、均一な緩い砂地盤です。浦安は粘性土も多く含まれており私たちの常識では液状化しない地域とされていました。地表面に非液状化層(粘性土)が3mある場合、挿れの強さが2000gal(ガル)程度の地震では液状化しないといわれています。

ところが今回浦安は240gal(ガル)程度の地震で液状化し、中規模程度の揺れであったのに液状化の被害が起きてしまいました。これは多くの先生が指摘していますが、通常の地震は揺れが15秒ほど経過すると小さくなりますが今回は1分12秒と長時間揺れが続き、また浦安地区は

20m~30mの非常に厚い粘性土があり、地表面の地盤が大きく変形してしまったことも要因となっている可能性があります。今回の液状化現象の特徴として、重量の軽いマンホールは浮き上がり、電柱など地面に接する面積に対して重量が重いものが下にめり込んでしまふ、ということが起こりました。そして道路では泥と砂が地下水とともに噴出する「噴砂」が非常に多く発生しました。また「側方流動」といって護岸が川側に動き、宅地も川側に5cm~10cm移動する被害も起きています。このような被害を受け、液状化の規定の見直しが問題となっています。これまでの地震による液状化とは大きく異なる現象については、今後研究が進み、解明されていくでしょう。

4. 液状化への対策

同じ浦安市にあるデイズニールンが液状化しなかった大きな理由

表 主な沈下修正工法一覧

工法名	アンダーピニング工法 (網管圧入工法)	耐圧版工法	注入工法	プッシュアップ工法 (かき上げ工法)
概要	基礎下にジャッキを用いて鋼管を圧入し、鋼管の反力を利用して建物の沈下を修正する	基礎下に鋼板を敷設し、ジャッキを用いて地盤の反力を利用して建物の沈下を修正する。アンダーピニング工法と似ているが、鋼管ではなく鋼板を用いる点異なる	基礎下にグラウトなどの注入剤を注入し、その注入剤を利用して建物の沈下を修正する	基礎と建物を切断して、ジャッキを用いて建物のみを持ち上げる。地盤に手を加えることはない
施工イメージ				
基礎形式	基礎の形式は問わない	基礎の形式は問わない	ベタ基礎のみ	基礎の形式は問わない
修正可能沈下量	修正量は問わない	修正量は問わない	30cm程度	10cm程度
その他	軟弱地盤に適している	支持層が浅い場合に有効	—	建物構造によっては適用できない
施工期間	3~6週間	2~5週間	1~2週間	2~3週間
工事費目安	600~1,000万円	500~700万円	300~700万円	200~300万円
基礎下の掘削	必要	必要	不要	不要
長所	・確実に修正できる ・杭としての地盤補強効果が見込める	・確実に修正できる ・地盤補強の効果が見込める(浅層部のみ)	・地盤補強の効果が見込める	・最も安価
短所	・費用が高額である ・掘削が必要なため地下水位が浅い場合は施工が困難になる	・掘削が必要なため地下水位が浅い場合は施工が困難になる	・周辺地盤や構造物に影響を与える	・地盤補強の効果は見込めない ・基礎が傾いたままになる ・基礎及び基礎と建物の連結補強が必要

は、緩い砂を人工的に締め固め、地盤を強化していただくからです。このような対策が、最も有効な液状化防止工法です。対策をしていない地盤で被害が少なかったのは、「ベタ基礎」という種類の基礎で建てた住宅でした。これは地面と接する底面全体に鉄筋コンクリート基礎を使用したものです。一方、帯状の基礎で建物の底面を支える「布基礎」の場合は、被害が多いとも言われています。ベタ基礎は、噴砂しようとしても底面積の全体に圧力がかり噴砂が起りにくいのですが、布基礎の場合は床下に土が入り込み現象が起きてしまっています。今後はベタ基礎の住宅が主流になると考えられます。

法律的な観点からみると、平成13年に国交省は、地震による液状化の恐れのある地盤は建物に有害な損傷や変形、沈下が生じないことを確かめなければならないと告示を出しています。建築基準法にも同様の施行

令があります。しかし、これらは4号住宅と呼ばれる木造2階建てを検討することが明確ではありませんでした。今回の被害を受け、この部分は改善されると思います。もし液状化で家が傾いてしまった場合、それを修正するために4つの工法があります(表)。どの工法を使用するかは建物の傾きと、地盤性状によって選定されます。

新たに住宅を建てる際には更に多くの工法が存在します。どの工法が適しているかと迷うと思いますが、例えば建築センターや日本建築総合研究所といった第三セクターの性能証明を取得しているかどうかを基準に選んでいただきたいと思います。性能証明をとっている工法は約30種類あります。これから家を建てる方もそうでない方も、住まいの地盤の安全性という観点をぜひお持ちいただきたいと思います。(P3へつづく)

お知らせ

1. 延期していた本部総会時の懇親会は、今年は中止とします。

2. 支部総会

北陸支部総会 11月14日(月)
新潟支部総会 11月15日(火)
北海道支部総会 11月15日(火)
札幌支部総会 11月28日(月)

中国支部総会 11月28日(月)
ANAクラウンプラザホテル広島
3. 警視庁機動隊の観開式
11月9日(水)7時20分
明治神宮外苑絵画館前

編集後記

気が付くとすっかり秋も深まってきている。あと2か月余り、大震災の2011年が終わり、今月分では災害復興活動した機動隊員等の皆さんの体験談を掲載し、全員が筆舌に尽くしがたい経験を積んでおり、修羅場の惨状に慣れているはずの警察官でさえ異口同音にこんなことは初めてと述べている。この他にも全ての警察官がそれぞれ異なる体験を重ねているが、その先にははるかに何千何万倍もの被災者の経験や思いがある。これらの膨大な体験と教訓を何としても今後に生かさなければならぬ。(励ます会事務局)

CONTENTS

- P1 合同総合防災訓練を実施／東日本大震災 警察活動支援に感謝状／警察庁長官交代
 P2 警視庁機動隊観閲式が挙行される／山口国体警衛警備完遂／全国殉職警察職員・警察協力殉難者慰霊祭
 P3 警察博物館にて「機動隊特別展」開催！／平成24年度励ます会年間スケジュール
 P4 Member's Lounge 「災害対応プラットフォームの必要性」 根木 佳織氏

発行所
 社団法人 機動隊員等を励ます会
 〒144-0055 東京都大田区仲六郎4-32-5
 発行人 羽矢 惇
 TEL 03(3733)0590
 FAX 03(3733)9072
 http://www.hagemashi.com

はげまし

平成23年 11月号

For the Riot Policemen
& Members

— No.439 —

東京都・小平市・西東京市・武蔵野市・小金井市 合同総合防災訓練を実施



被災者に「ゆっくりでいいですよ」等と声をかけながら安全な場所に運ぶ警視庁機動救助隊



台北、韓国等からもレスキュー隊が参加。猪瀬副知事(中央)は東日本大震災における支援に対する感謝を述べた

が、今回はブラインドというかたちをとり、参加型訓練を重視した。東京は30年以内に直下型地震が起こると予想されている。新しい防災のあり方を考え、今までと違った防災意識をもって進まなければならない。自助・共助・公助の考えをもってほしい」と呼びかけた。

市)には都や市の職員、警察官や自衛隊員、市民を含め約15,000人が参加し救出救助訓練や支援物資振り分け訓練などに臨んだ。警察・消防・自衛隊らによる救出救助訓練は午前10時から行われた。多摩地区を震源とするマグニチュード7・3の地震が発生し、交通網・ライフラインが寸断された状況を想定し、「いこいの広場」には倒壊家屋や車両など被災現場が再現された。今回は初めて事前にシナリオを知らせない「ブラインド方式」がと

る10月29日、東日本大震災の影響で延期されていた東京都と小平市・西東京市・武蔵野市・小金井市の4市合同による総合防災訓練が実施された。メイン会場となった都立小金井公園(東京都小金井



爆発が起こったビルでヘリコプターからの救出

～ 大震災教訓に、「シナリオなし」の実践的内容 ～

訓練終了後、猪瀬副知事(中央)は「今までは行事のように防災訓練を行っていたが、今回はブラインドというかたちをとり、参加型訓練を重視した。東京は30年以内に直下型地震が起こると予想されている。新しい防災のあり方を考え、今までと違った防災意識をもって進まなければならない。自助・共助・公助の考えをもってほしい」と呼びかけた。

られ、隊員は実際の災害と同様に生存者が現場にどれだけいるかを把握していない状況で訓練に臨んだ。警視庁機動救助隊と愛知県警広域緊急援助隊は現場に到着後、被災状況を確認、迅速に役割分担を決め活動へと移った。倒壊した家屋の外から「こちらは救助隊です。人がいたら物を叩くか声を出してください」と叫んだり、倒壊家屋の壁を切断して中に入り慎重に捜索した。閉じ込められている住民を発見すると意識の有無などを確認し、状況に即した救出方法を検討し屋外へ避難させた。訓練終了後、猪瀬副知事は「今までは行事のように防災訓練を行っていたが、今回はブラインドというかたちをとり、参加型訓練を重視した。東京は30年以内に直下型地震が起こると予想されている。新しい防災のあり方を考え、今までと違った防災意識をもって進まなければならない。自助・共助・公助の考えをもってほしい」と呼びかけた。

この度の震災において、当会は機動隊員等警察の皆さんを激励するため支援活動を行った。会員の方々から総額1,156万円の募金を寄せていただき、当会の「はげまし基金」の一部を合わせ合計1,500万円のゼリー飲料(21万6千個)を激励品として、被災地で懸命の活動を行う機動隊員等警察の皆さんに贈呈した。

警察庁長官交代

第23代警察庁長官に片桐裕氏

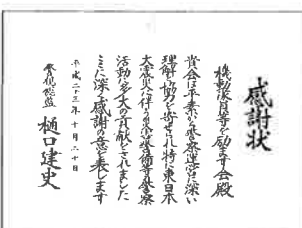
10月17日付けで安藤隆春警察庁長官の勇退に伴い、次長の片桐裕氏が昇格し第23代警察庁長官に就任した。就任会見において片桐新警察庁長官は「国民が被害者となることがないように事件事故を一件でも減らす」と抱負を語った。



プロフィール

1975年警察庁入庁。沖縄県警本部長、京都府警本部長、警察庁生活安全局長などを歴任。2008年8月、次長に就任。

東日本大震災 警察活動支援に感謝状



記念品の警視総監のメダルと警察官人形

これに対し、福島県警察松本光弘本部長、宮城県警察竹内直人本部長、岩手県警察樹下尚本部長から感謝状をいただくとともに、去る10月20日には、警視庁にて樋口建史警視総監から感謝状をいただいた。



警視庁にて代理の黒木警備部長(写真左から二人目)から頂戴した感謝状を手にする羽矢惇理事長(写真中央)

機動隊員1,584名が一堂に！

63周年 警視庁機動隊観閲式が挙行される



式の冒頭、係りよう隊が管轄し回館操場をけつ

去る11月9日、警視庁機動隊観閲式が明治神宮外苑絵画館前（東京都新宿区）にて行われ、機動隊員1,584名が参加した。樋口建史警視總監をはじめ警視庁幹部が観閲し、励ます会からは羽矢理事長以下16名の会員が出席した。例年春に行われる式だが、東日本大震災により機動隊員が多数被災地に派遣されたため、本年は秋の開催となった。

警視庁音楽隊による行進曲が鳴り響くなか、一般警備部隊、援助隊、特殊技能部隊、警備大部

隊、車両部隊など、21の部隊が次々と登場し勇壮な分列行進をみせた。警視總監は訓示において機動隊員の東日本大震災での活動に触れ「国難ともいえる大震災への対応は、警視庁機動隊の使命であると同時に被災者に希望を与えるものであることを認識し、今後も旺盛な士気と使

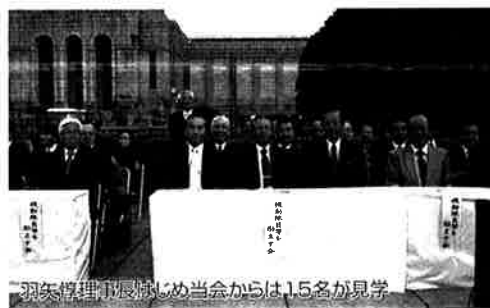


警備大の頭も雲々と行進



はつちつと、一糸乱れぬ行進を行う災害救助服部隊

命感を持ち活動にあたってはしい。首都直下型地震の発生が危惧されているが、今回の大震災を教訓とした諸対策や実践的訓練を推進していくことが極めて重要である」と述べた。最後は全員で「出動の歌」を斉唱し、式は終了した。



羽矢理事長はじめ当会からは15名が見学

第66回国民体育大会 「おいでませ！ 山口国体」 警衛警備完遂！

10月1日、11日の間、山口県にて第66回国民体育大会が開催された。天皇皇后両陛下が御臨席された総合開会式には、約3万1千人が参加した。両陛下の御訪問が17年ぶりとなる同県では、機動隊員等が万全の体制で準備を行い、無事に警衛警備を完遂させた。



献花する野田総理大臣(写真提供:共同通信社)

「平成23年全国殉職警察職員・警察協力殉難者慰霊祭」が去る10月20日、グランドアーク半蔵門（東京都千代田区）にてしめやかに営まれた。式には野田佳彦内閣総理大臣、山岡賢次国家公安委員会委員長、片桐裕警察庁長官をはじめとする同庁幹部、遺族の方々、当会からは羽矢惇理事長、齋藤斗紀雄常任理事が参列した。本年は東日本大震災による殉職者が多く、新たに合祀されたのは、警察職員殉職者36柱、警察協力殉難者5柱の計41柱であり、これまでに合祀された御霊は、殉職警察職員が5,539柱、警察協力殉難者が607柱の計6,146柱となった。

追悼の辞において、野田総理大臣は「皆様が生身をもって示した勇氣と気高き精神は私たちの誇りです。私たちは御遺志を受け継ぎ、災害や犯罪から国民を守り、誇りと希望ある社会の実現に取り組んで参ります」と述べ、片桐警察庁長官は「御霊の尊い行為を胸に刻み、全国職員が一丸となってその職務に邁進し、国民の期待と信頼に応えていくことを誓います」と宣言した。また、遺族を代表して故高橋俊一警視長（右手県警察・大船渡警察署）の妻の美江子さんは次のように述べた。「津波が異常な高さで迫ってくる中で、夫は『これからが俺の本当の仕事だ』と言い残して交番に留まり、最後までその職務を全うしようとした。私たち遺族は、あなた方が示された強い責任感と高潔な心を誇りに思い、お互いを励まし合い、強く生きていく所存です。私たちをいつまでもお守りください」

追悼の言葉の後、参列者による献花が行われた。今回新たに合祀された殉職警察職員（ご遺族参列分）は次のとおりである。

（東北管区警察局）平泉紀彦警視長（岩手県警察）高橋俊一警視長、小林新警視、金野泰史警部、中津常幸警部、佐々木敦史警部補、百鳥憂樹警部補、村山元宏警視正、山内拓也警視、遠藤洋警部、中村邦雄警視、村上洋巳警部補（宮城県警察）渡邊武彦警部、瀬谷志津江警視、荒貫行警部補、佐藤宗晴警部補、八島裕樹警部補、門馬勝彦警部、浅野興警部、青木謙治警部補（福島県警察）佐藤政美警部、橋本浩忠警部、増子洋一警視、佐藤雄太警部補（栃木県警察）稲澤金五郎警視（神奈川県警察）金子昌彦警部補（富山県警察）丸山政寿警部（大分県警察）岐部久人警視正

41柱の御霊を新たに合祀 全国殉職警察職員・警察協力殉難者 慰霊祭



警察博物館にて 11月10日~11月17日 「機動隊特別展」開催！



左)機動隊の階級章や腕章なども展示
下)盾は手に持って
鑑賞さる感度できる



11月10日から17日までの8日間、警察博物館(東京都中央区)にて「警視庁機動隊特別展」が開催されました。
このオープニングセレモニーには羽矢惇理事長が来賓として出席し、祝辞を述べました。



祝辞を述べる羽矢理事長



警視庁音楽隊による演奏で
華やかにテープカットが行われた

警視庁機動隊の活動を広く知ってもらうことを目的に、警察博物館で「警視庁機動隊特別展」が開かれた。同館は平成6年に開館したが、今回のように機動隊に焦点を当てた企画は初めてである。

11月10日、警察博物館前の広場で行われたオープニングセレモニーには多くの人が集まった。開場式で挨拶をした黒木慶英警備部長は「警視庁機動隊は昭和23年5月に警視庁予備隊として創設され、本年で63周年となる。その間、幾多の重要かつ困難な事案に立ち向かい任務を全うしてきた。東日本大震災では延べ11万人の機動隊員が被災3県に赴き、現在も支援活動を展開している。この特別展で機動隊の活動の一端を知っていた

だけるよう願っている」と述べた。

また、羽矢惇理事長は祝辞において当会の概要を紹介し、「この度の特別展は多くの都民と警視庁機動隊の強い結びつきを強める大変良い機会である。先輩たちが築いた立派な歴史と機動隊員の皆様の活躍を、多くの方に知っていただきたい」と語った。その後羽矢理事長は、黒木警備部長、橋内第一機動隊長らとともにテープカットを行った。

特別展の会場である5階イベントホールでは、機動隊の足跡や各隊の概略、現在の活動状況が紹介された。隊員が日常的に使用する装備品も展示され、来場者の関心を集めた。またDVD放映コーナーも設けられ、東日本大震災で活動を行った隊員が現地での体験や想いを語る映像が流された。来場者は真剣な表情で写真やパネルを眺め、「機動隊を頼もしく感じた」「過去の写真を懐かしい思いで見た」といった感想も聞かれた。



セレモニー後、羽矢理事長は会場を観覧。
山岳救助レンジャー部隊の装備について説明を受ける

講演後質疑応答 (P4からP5)

Q 事務局の常駐スタッフは何名か。

A 3月11日より前は、私を含め2・5名。震災後に増員はしているが、平時にはコンパクトに事務局を維持することを理想にしている。

Q 海外と比較した時に、今回の緊急事態において日本の優れている点と、逆に欠けている点とを感じる点は？

A 例えば紛争地域など無政府状態の地域における災害支援活動は、国連が入って世界各地からの支援を調整するが、日本は被災した地元行政が担わなければならない。また、例えばアメリカではFEMA(連邦緊急事態管理庁)というCIAや国家機関と并列の専門機関が、災害やテロといった緊急事態に対応している。日本にはこうした機関がないこともあり、福島の問題や東北の多種多様な問題に対して、迅速に対応できない状態が続いていたと思う。被災地においては、地元行政も被災して機能不全になることを想定したバックアッププランをもう少し持つておかねばならない。今回は応援を頼むことになつて近隣の市町も被災し、カバーできなかった。一方、日本では助け合いの意識を共有できる。今回の震災を通して見えてきた課題について行政とも意見交換を行っているが、誰もが支援者にも被災者にもなり得る可能性があるという意識を持つて、今回の経験から新しい仕組みができていくのではないかと期待している。

平成24年度 励ます会 年間スケジュール

総会		行事	
<通常総会>		2月9日(木) 大阪支部総会【ニューコクサイ】	1月23日(月) 全国優秀機動隊員警備局長表彰式及び海外研修派遣記録贈呈式【警察庁】
6月13日(水) 第39回(平成24年度)通常総会【明治記念館】		2月16日(木) 名古屋支部総会【メルパルクナゴヤ】	(研修派遣日程 2月14日(火)~17日(金) 韓国ソウル)
<支部総会>		2月29日(水) 九州支部総会【博多サンヒルズホテル】	1月25日(水) 警視庁警備部武道始式、【警視庁武道館(江東区新木場)】
2月7日(火) 千葉支部総会【ヴェルシオーネ若潮】		5月予定 東北支部総会	

東日本大震災
被災者の皆さまに心より
お見舞い申し上げます

新日本製鐵(株)
新日鉄エンジニアリング(株)
日鐵住金建材(株)
合同製鐵(株)
五十鈴(株)
岡田運輸(株)
東鋼業(株)
(株)エース電研
(株)エヌテック
日鉄住金鋼板(株)
日鐵商事(株)
大東港運(株)
平和農産工業(株)
堀口海運(株)
藤田金属(株)
(株)辻さく
富士興業(株)
橋本尚吾(株)
岡谷鋼機(株)
豊田通商(株)
宮崎精鋼(株)
(株)機動隊員等を励ます会
東北支部



物資を輸送する支援トラック

1. 震災翌日からの緊急支援
シビックフォースは、大規模災害時に迅速で効果的な支援活動を行うことを目的に2009年1月に設立されました。これまでも災害時には多くの市民団体が支援活動を行っていますが、草の根レベルの活動が多く、広範囲のニーズに応える仕組みが必要でした。私たちは、行政・一般市民・NPO・NGO・企業などと連携し、必要な資金や人材・物資・サービスを被

災地に提供する調整機関として様々な事業を展開しています(図)。東日本大震災では震災直後の3月12日からヘリコプターで、被災状況と支援のニーズを調査するため現地向かいました。震災前から茨城県のヘリコプター会社と協定を結び、震度6強以上の地震が発生した際には私たちが優先的に使用させてもらうよう決めていました。また、大手スーパーマーケットとも連携して、全国にある店舗の駐車場で支援活動の拠点とするなどの計画を策定していました。実際に今回は、緊急時ヘリポートとして活用させてもらいました。

ヘリコプターで上空から見た石巻は甚大な被害でした。南三陸町では地上に降りられるような地域が全く見当たらず、名取も周辺が完全に水没した状態で人の気配もありません。気仙沼に接近した時に、建物の屋上に被災者の方々に確認することができました。そこに着陸したところから、私たちの活動が始まったのです。

2. 調整機関としての役割
避難所には、人々が押し寄せていました。まだ民間組織は支援活動を開始できていない段階です。水に濡れている方を安全な場所にどう避難させるか、食糧・衣料・寝る場所をどう確保するか。しかし地元行政による災害対策本部は十分に稼働しておらず、特に南三陸町では役所の職員の1/4の方が亡くなっていました。私たちはその役所の機能を補完する立場を目指しました。避難所で足りない物資調達に関してはホームベージュやツイスター等のツールから呼びかけました。当時はまだ炊き出しが始まる前で、枯渇していたビタミンや鉄分を補うため、栄養士が入りフルーツやナッツ等の食品も調達しました。

震災直後の2週間、私たちは企業に対してそれぞれが保有されている様々なリソースの提供を呼びかけました。例えば引越業者には、物資輸送で協力いただきまし

た。春先の引越しシーズンというフル稼働期を前に全国にトラックを配車していた状況でした。また、ルーティンの配送を持っていなかったことも即対応可能な環境にあり、被災地のニーズとマッチしたのです。毎日10台の4トントラックで物資を輸送し、また、4トントラックが通行できないような小さな避難所には、小型トラックを用意して個別配達も実施しました。

支援を呼びかけた企業からは5月末までに160社以上から無償の物資協力をいただき、合計546品目の物資を被災地に提供することができました。「何か支援したい、力になりたい」という日本全国の熱い想いに触れ、感動したのを今でも強く覚えています。

ほかにも、避難生活を改善するために東京で急遽募集した大工ボランティアを派遣し、3月30日から地元の大工の方々とともに南三陸町6か所にお風呂を設置しました。そして自衛隊には水の供給を依頼し、地元の方々が順番に入れるように声かけも行いました。この設備は6月末に引き渡し、地元での

Member's Lounge

機動隊員等を励ます会 10月の朝食講演会録

この度の東日本大震災において、いち早く行動を起こし各組織と連携しながら実践的な支援を展開したのが、民間団体「シビックフォース」です。今回は事務局長の根本佳織さんをお招きし、震災直後の活動状況や今必要とされている支援についてお話を伺いました。



<10月13日のゲスト>

ね き かおり
根本 佳織 氏

公益社団法人
Civic Force(シビックフォース)
事務局長

プロフィール

1976年 京都府生まれ

略歴

- 1999年 民主党コンボ難民避難民支援対策本部
マケドニア駐在
- 2001年 国立大阪外国語大学(現:大阪大学)
外国語学部 国際関係専攻 卒業
NPO法人ピースウィンズ・ジャパン海外事業部
アフガニスタン・カブール事務所駐在
- 2003年 国連 合同ロジスティクス調整本部 (UNJLC)
イラクミッションに出向
NGO Liaison Officerとして
イラク・バグダッド本部事務所駐在
- 2004年 NPO法人ピースウィンズ・ジャパンにて
新潟県中越地震支援に従事
- 2006年 株式会社風の音舎に出向
開発事業部にてCSR事業に従事
- 2007年 特定非営利活動法人チャリティプラットフォーム
プログラムオフィサー・国内災害事業担当
- 2009年 現職

災害対応プラットフォームの必要性
東日本大震災対応の経験から

図 東日本大震災への支援体制

企業(有志連合)

- 60社より100万円以上の寄付
- 150社より支援物資の無償提供
- 7社よりその他経営資源の無償提供

行政

- 被災自治体との緊密な連携
(特に気仙沼市、南三陸町)

行政

- 3地方自治体より支援物資の無償提供

一般市民

- 4.8万以上の法人・個人から合計10億円以上の寄付
(個人寄付65%、法人寄付35%)

メディア

- NHKやテレビ東京WBS、J-waveなどの主要電波メディア、日経・朝日・読売等主要紙メディア等で合計75本掲載
- twitter、facebook、YouTubeで発信



被災地における事業

<緊急フェーズ>

- 支援物資の大規模調達・配送
- 避難所生活改善のお風呂設置
- 復旧加速の大型カーフェリーの就航
- 支援者・被災者への生活空間の確保
(トレーラーハウス・コンテナハウス)

<復旧・復興フェーズ>

- 複数企業との社員ボランティア派遣
- 地域経済復興のモデル事例支援

NGO パートナーとの支援事業

- 5団体と支援物資の調達・配送連携
- 18団体と地域・専門ニーズに応えるパートナー協働事業を展開
(今後も拡大・展開予定)

シビックフォースのwebサイト (<http://civic-force.org>) では、活動情報が毎日更新されています。

編集後記

11月9日早朝、晩秋の神宮外苑で警視庁機動隊の観閲式を見学した。今年は大震災警備出動により半年遅れの開催となった。警視庁機動隊は、全員が今までの4、5回以上被災地の過酷な警備活動に従事し、住民および全国民から深く感謝されるなど、隊員それぞれが貴重な経験を積んだことで、個人としても集団としても、「一回も二回も大きく変わったのではなかろうか。そのためか、今年の分列行進は例年に比べて一段と誇り高く胸を張り、首都および全国の治安を守るトッププレイヤー集団の迫力があり、実に頼もしく感じられた。これらも大震災警備出動は続き、他の警備出動も想定されるが更に一層の情進をお願いしたい。」(励ます会事務局)

3. 災害即時体制の確立を目指して
震災から7か月が経過し、被災地で必要とされる支援も変化しています。今、大きな問題となっているのが自殺者の増加です。仮設住宅への入居により集団生活から孤立してしまうという新たな問題も発生しています。心のケアにつながる活動や、地元での復興を後押しし将来の展望が見えるような活動をしていくことが重要です。現在私たちは、臨床心理士の派遣など専門的な支援を行うNPOや、地元の市民団体やボランティア組織等とパートナーシップを組み協働事業を展開しています。

今後もニーズに合わせて東北の支援を継続していきますが、同時に次の災害への備えも必要です。私たちは大規模災害を想定した訓練や、アジア地域全体で災害即応体制を構築する活動も進行しています。次に起こる災害に備え、個人・企業・コミュニティとしてどう行動するかを日頃からぜひ考えていただきたいと思います。(P3へつづく)

したのです。

自主運営を実現しています。また、東北最大級の有人離島である気仙沼市の大島では、唯一の島民の足であった大型フェリーが完全に陸にあがってしまい、空からヘリで投下できる最低限の物資しか供給できない状況が続いていました。当時は市もかなり混乱しており支援を依頼する余裕もない状態でした。私たちは広島県江田島市から4月末に路線廃止になり、使用されなくなった大型カーフェリーを無償で借り受けました。そして47日後にカーフェリーの再就航が実現

CONTENTS

- P1 警察庁長官・警視総監 年頭の御挨拶
 P2 励ます会幹部 年頭の御挨拶／励ます会年間スケジュール
 P3 北陸・北海道・中国支部総会 開催！
 P4 Member's Lounge
 「サイゴン陥落の渦中で考えたこと」 牧 久 氏

発行所
 社団法人 機動隊員等を励ます会
 〒144-0065 東京都大田区仲六郷4-32-5
 発行人 羽矢 惇
 TEL 03(3739)0590
 FAX 03(3733)9072
 http://www.hagemashi.com
 jimukyoku@hagemashi.com

はげまし

平成24年 新年号

For the Riot Policemen
 & Members

—No.440—



機動隊員等を励ます会会員の皆様には、御家族ともども清々しい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。
 年頭に当たり、機動隊の諸活動に対する貴会からの深い御理解と温かい御支援に改めて感謝申し上げます。
 さて、昨年一年を振り返りますと、東日本一帯に未曾有の被害をもたらした東日本大震災においては、発災当初から機動隊を中心とする部隊派遣により、被災地への支援活動を展開したところであります。この被災地への支援については、三県の現状に鑑み、今後も継続して諸活動に当たる所存であります。
 一方、首都直下型地震等の発生が予てから危惧されておりますが、今回の大震災の貴重な教訓を踏まえ、関係機関や地域住民と一体と



新年に寄せて

警視総監 樋口 建史

被災地の本格的な復旧・復興には長期間を要すると見られますが、被災地の治安維持のため、引き続き、全国警察が一体となった支援活動に取り組んでまいります所存です。
 東日本大震災に伴う警備に際しては、励ます会の皆様から格別な暖かい激励を頂戴しましたことに対して、厚くお礼申し上げます。



年頭の御挨拶

警察庁長官 片桐 裕

謹んで新年のお慶びを申し上げます。
 平成24年の年頭に当たり、機動隊員等に対し平素から深い御理解と温かい御支援を賜っております会員の皆様方に対し、心からお礼申し上げます。
 さて、昨年は3月11日の東日本大震災の発災以来、正に全国警察が一枚岩となって被災者の救出救助等の各種活動を行い、新年を迎えてもなお、その活動を継続しております。特に、全国警察からの特別派遣部隊の中心的役割を担う機動隊にあつては、様々な困難に伴う被災現場においても、積極果敢に行動し、被災者の救出救助、行方不明者の捜索活動等を実施してきました。このような活動に対し、被災住民の方々から「警察官が捜索している姿を見ていると心はひとつだ」と感じ、安心できました等の数多くの感謝の言葉をいただいたほか、沿道の小学生たちから毎日朝夕、機動隊のバスに対し「がんばれ、おつかれさま」とプラカードを掲げての声援を受けた例もあったと聞いています。

また、新潟・福島集中豪雨、台風第12号及び第15号による広範囲な風水害等の災害に対しても、迅速・的確な災害警備を実施しました。更には、第62回全国植樹祭、第66回国民体育大会、第31回全国豊かな海づくり大会等の行事啓蒙、被災地お見舞い等に際し、皇室と国民との親和に配慮した警備警備を実施し、御身辺の安全確保に努めたほか第4回日中韓サミットに際しては温家宝国務院総理、李明博大統領等来日に伴う外国要人や首相をはじめとする国内要人の安全確保に万全を期すなど、警備警備の徹底を図ったところであります。
 このように東日本大震災をはじめ各種警備に際して全国機動隊は、文字どおり警備部隊の中心となって大いに活躍し、警察の危機管理の中核を担う集団警備力としての存在感を示したのであります。

欧米各国では、格差社会に対する不満や不安を鬱積させて過激化し、暴力行為に至る集団や個人による事件等が頻発していますが、国内の治安情勢も、国内外の不安定・不透明な政治・経済・社会情勢を反映し、非常に厳しい状況です。

警察においては、大規模災害やテロ等の緊急事態に備え、危機管理体制の再点検と再構築を図るとともに、機動隊が、いかなる状況においても迅速的確に対処し得る、有事即応体制を確保して、その責任を全うし、国民の安全確保に万全を期するよう努めてまいります。

皆様には、今後とも全国の機動隊員に対する一層の御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

結びに当たり、全国の機動隊が、国民の安心と安全を確保する「治安の最後の砦」としての誇りと使命感を堅持し、更に飛躍発展することをお誓い申し上げるとともに、励ます会の会員及び御家族の皆様御健勝と御多幸をお祈りしまして年頭の御挨拶といたします。

なつて震災対策や訓練を推進することにより、自助、共助の精神の醸成や地域の絆の再生を図っていく事が喫緊の課題であります。

また、治安情勢については、依然として厳しい国際テロ情勢下にあつて、我が国もテロの脅威に直面している現状にあります。

このほか、長引く景気低迷、雇用不安といった社会情勢に加えて、米軍基地移設問題、ウオール街占拠に端を発する「反格差デモ」の世界的広がりが、反原発運動の高まりなどを背景に警備情勢は、更に厳しさを増していくものと思われまふ。

本年も、このように厳しい警備情勢下にあります。警視庁機動隊は、治安の最後の砦としての誇りと使命感を堅持し、各種の警備に万全を期すとともに、「ひたたくり」や「振り込め詐欺」にもその機動力をもつて対処し、「信頼される警視庁、頼もしい警視庁」を体現していく所存であります。

結びに、機動隊員等を励ます会会員の皆様には、今後とも機動隊に対する一層の御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げますとともに、貴会の益々の御発展と会員皆様方の御健勝、御多幸をお祈りいたしまして新年の御挨拶といたします。

新春2012年

励ます会より 年頭の御挨拶



社団法人機動隊員等を励ます会
理事長 羽矢 惇

明けましておめでとございます。
会員の皆様におかれましてはそれぞれ
新しい気持ちで新年を迎えられたこと
と存じます。

昨年の東日本大震災では多くの人々
や企業が被災して今なお苦労をされ
ています。被災された方々には心から
お悔やみとお見舞いを申し上げますと
もに、一日も早い復旧復興を祈念いた
します。

この震災発生直後から想像を絶する
過酷な環境下で岩手・宮城・福島の一
帯警察本部はもちろん警視庁をはじめ
とする全国の機動隊員が獅子奮迅の働
きを示したことは皆さんご承知の通り
であります。福島原発事故の状態を考
えたとこれらの活動は今後息長く続け
られます。当会も緊急募金を実施して
千五百万円相当の激励品を贈呈いたし
ましたが、会員各位のご理解とご協力
に改めて感謝申し上げます。

さて、私たちを取り巻く社会経済情
勢は極めて厳しいものがあります。

国際テロの脅威、北朝鮮をはじめと
する我が国周辺の潜在的危機、国境問
題をめぐる緊張、サイバーテロなど新
しい形の危機等、従来に増して私たち
への脅威は複雑化しています。
また欧米の金融危機は停滞する我が

国経済情勢に一層の不安定感を与え、
ひいては社会情勢を更に不安定化させ
る恐れがあります。

私たちが経済活動や私生活を安定し
て営むためには、自らの努力が必要と
することは当然ですが、危機が頻発しな
い安定した社会であることが大前提に
なっています。

今回の大震災で大自然の力と比べて
人間の非力さを感じ、自然災害に対し
ては「減災」と「事後対策」しか対策
が無いと感じますが、人間が関与する
危機は「予防」することが可能です。
機動隊員の皆さんにはこれらの分野で
これからのますます重要な任務が期待
されます。日頃の地道な鍛錬と実地に
あつたての果敢な活動に心から敬意を
表するとともに隊員各位の更なるご健
勝を祈念いたします。

そのような中で当会も改めて設立趣
旨に沿った活動を充実させていかなけ
ればなりません。年頭にあたり所感を
述べ会員各位のご理解とご協力をお
願いたしたいと思います。

(一) 新一般社団法人への円滑な移行
昨年六月の通常総会で新公益法人制
度改革に伴う定款変更や移行時の役員
体制について承認を頂きました。順調
に進めば今年四月に新法人へ移行した

します。

新しい法人制度のもとでは理事会へ
の代理出席や委任状による議決が認め
られませんが、理事数を減らした体制
が従来との大きな違いの一つです。

移行時措置として14名の理事を指名
していますが、今年の通常総会で東京
地区理事を若干名増員して新体制に移
行したいと考えています。現在の理事
の方々は新法人登記の日をもって任期
満了となりますがこれまでのご貢献に
改めて御礼申し上げますと共にこれから
も積極的なご支援をお願いいたします。

(二) 支部総会の一層の充実

大震災で延期になった東北支部総会
を除き、私は理事長就任後各支部総会
に出席させて頂きました。それぞれの
支部が警察幹部や機動隊員の皆さんと
の交流に工夫を凝らし、出席した機動
隊員の皆さんが本場に楽しんで頂いて
いる姿を見て当会の意義を改めて胸に
刻んでいます。当会の各支部は全国各
地で機動隊員等を励まし、一般国民と
機動隊員をつなぐ極めて大きな役割を
担っています。しかもその運営が支部
幹部から事務局まで真のボランティア
精神に支えられて運営されてきた歴史
があります。支部総会は支部の活動を
具現化する極めて重要な機会です。こ
れからも本部との連携を保ち一層充実
させて頂きたいと思っています。

(三) 新規会員の獲得と当会の活性化

一昨年の役員改選以降、積極的な勧
誘により多くの新会員に加入頂きまし
た。現下の経済情勢は厳しいものがあ
りますが、今後とも新規会員の獲得に
努め、本部や支部の諸行事への参加や
会員相互の交流を通して当会の活性化
に貢献して頂きたいと考えています。
最後に会員の皆様にとって今年がよ
りよい年になるよう祈念申し上げます。
年のご挨拶といたします。

本年もよろしく願ひいたします



相談役 鈴木 實 相談役 佐々木 喜朗 相談役 小山 巖 副理事長 鈴木 貴士 副理事長 栗川 勝俊 副理事長 増田 規一郎 副理事長 内田 耕造

平成24年 機動隊員等を励ます会 年間スケジュール

本 部	6月13日(水) 新法人第2回理事会 (通常総会後)	5月予定 北海道支部
<法人移行>	10月か11月 第3回 【グランドアーク半蔵門】	11月予定 北陸支部
4月1日 一般社団法人へ移行 (予定)	支部総会と機動隊員との交流懇親会	11月予定 中国支部
<通常総会と機動隊員との交流懇親会>	2月7日(火) 千葉支部 【ヴェルシオーネ若潮】	直近の行事
6月13日(水) 第39回通常総会 【明治記念館】	2月9日(木) 大阪支部 【ニューコクサイ】	1月23日(月) 全国優秀機動隊員海外研修
<理事会・支部長会>	2月16日(木) 名古屋支部 【メルバルクナゴヤ】	目録贈呈式(理事長より韓国研修贈呈)
1月19日(木) 支部長会 【グランドアーク半蔵門】	2月29日(水) 九州支部 【博多サンヒルズ】	1月25日(水) 警視庁警備部武道始
5月17日(木) 新法人第1回理事会 【グランドアーク半蔵門】	4月下旬予定 東北支部	【警視庁武道館(江東区木場)】

北海道支部
 (株)機動隊員等を励ます会
 Tel. 03-3541-8246
 ナイルレストラ
 丸定産業(株)
 日鉄東海鋼線(株)
 富士興業(株)
 高島秀一郎(株)
 共永興業(株)
 黒田一(株)
 不動鋼板工業(株)
 新潟スチール(株)
 太陽シャーリング(株)
 (株)メタルワ
 東京製綱(株)
 岡部(株)
 青山特殊鋼(株)
 エース電研(株)
 岡田運輸(株)
 五十鈴(株)
 合同製鐵(株)
 日鐵住金建材(株)
 新日鉄エンジニアリング(株)
 新日本製鐵(株)

本年もよろしく
 お願い申し上げます

北陸・北海道・中国支部総会 開催！

震災により延期となっていた支部総会が行われました。その様子をご報告します。

北陸支部総会

平成23年11月14日 於：新潟グランドホテル

震災特別派遣の講演も実施

北陸支部総会は、大野裕夫新潟県副知事、大庭靖彦新潟県警本部長をご来賓としてお迎えし、富山県・石川県・新潟県警察幹部および機動隊員の皆さん120名にご出席いただいた。当会からは今井幹文支部長以下、世話人、会員および本部の羽矢惇理事長、鈴木貴士副理事長など総勢約250名の出席となった。

式に先立ち、新潟県警察管区機動隊鈴木光司大隊長より「東日本大震災特別派遣について」と題し、福島県相馬市や岩手県宮古市田老地区、宮城県南三陸町での活動状況についてご講演いただいた。「派遣当初は宿舎もなく、連日バスや体育館でカップラーメンなどを食べ、ジャージの上には外套を着て仮眠をとった。現場では胸まで水につかりながら捜索活動を行ったこともある」など当時の状況を生々しく語った。

総会の挨拶では、今井支部長が「北陸支部の発足は昭和52年9月。以来、発足当初の思いを大切に今日まで来た。震災から8か月が経つ今も機動隊員の皆さんは活動を続けている。心より敬意を表するとともに、今まで以上支援できるように会の活動を継続したい」と述べた。羽矢理事長も「新潟県警だけでも延べ1万人以上の方々が派遣された」と聞いた。これからもぜひ頑張ってくださいと隊員を激励した。

祝辞を述べた大野副知事は、機動隊員の労をねぎらい「励ます会と機動隊員の皆さんとの気持ちが一つになれば、



今井世話人代表の開会の挨拶



挨拶する大庭本部長

の会社も仙台工場が津波災害を受け、東北に行く度に厳しい環境で活動する機動隊員の姿に心打たれた。今後とも羽矢理事長の下で力を合わせて頑張っていく」と述べ、式を締めくくった。



機動隊員の入場

明日の日本国民の安全、安心が更に確保されると確信している」と述べた。続いて大庭本部長は「新潟県警察は震災による被災県民・被災県警のために何でもやろうと頑張ってきた。励ます会の支援は感謝に堪えない」と語った。その後、宮本勢北陸支部顧問の乾杯の音頭で式は懇親会に移った。

加藤修新潟県警機動隊長は「本年は災害警備出動だけでなく富山・石川県警で5月に開催された『全国緑の愛護の集い』での警衛警備や山岳救助なども行った。来年は、本県での高校総体に伴う大規模な警衛警備が行われる。本日の激励やご教示を胸に刻み、ますます努力精進する」と決意を述べた。最後は全員で「この世を花にするために」を合唱。増田規一郎副理事長が「私

北海道支部総会

平成23年11月15日 於：札幌パークホテル

警備活動を継続する隊員を激励

北海道支部総会には総勢約260名が出席した。高橋はるみ北海道知事の代理として北海道庁の成田一憲公営企業管理者、園田一裕北海道警察本部長をご来賓としてお迎えし、北海道警察幹部および機動隊員など110名にご出席いただいた。当会からは西村孝治支部長以下、世話人と会員および本部の羽矢惇理事長、鈴木貴士副理事長などが出席した。

式は機動隊員入場につき、全員で国歌を斉唱し幕を開けた。開会の挨拶を行った西村支部長は「震災では北海道警察の機動隊の皆さんを中心に、延べ33,000名が救援活動などに従事された。また道内では、9月の天皇陛下のご来道警備に続き、年末に向けての警備活動も控えている。身も心も休まる間もない大変な職務である。本日はひと時日常の勤務を忘れ、励ます会という応援団と歓談・交流し、疲れを癒してほしい」と述べた。続いて羽矢理事長は「北海道警察は我が国最北端に位置し、広大な北海道の治安を守る非常に困難な仕事に携わっている」と述べ、北海道支部による継続的な協力を求めた。



ご来賓の園田本部長



西村支部長による開会の挨拶

成田管理者は祝辞において「機動隊の皆さんが自信と誇りを持ち国民の安全と安心のため活動できるのは、国民の期待と信頼が何より大切である。励ます会は道民と



「この世を花にするために」を全員で大合唱



田道支部理事による乾杯の挨拶

機動隊を結ぶ絆として大きな役割を果たしている」と述べた。園田本部長は、「天皇陛下のご行啓の際は、警衛警備の中心となり陛下をお護りした。震災では発生直後から活動を継続し、今後も警備派遣は長く続く」と言い、当会からの継続的な支援を求めた。

式は、田道孝治支部理事による乾杯の挨拶の後歓談へ移った。古村英範機動隊管理中隊長による活動報告を挟み、会員と隊員はお酒を酌み交わしながら交流を深めた。西川寿典機動隊長は挨拶で「被災地は未だに大変厳しい状況。被災者の心情に深く思いをいたし、これから警備活動に取り組んでいく」と決意を述べた。続いて全員で「この世を花にするために」を合唱した後、増田規一郎副理事長が閉会の挨拶で「社会全体が不安定な状況にある時にこそ、機動隊に対する国民の期待が高くなっている。当会の役割として活動への理解者を一人でも多く増やしていく必要がある。広報活動も広く行いたい」と述べた。そして今井國雄理事による万歳三唱で盛大のうちに式は幕を閉じた。

* 中国支部総会は次号でご報告します。

